

ZH8015



像肖君名正田前頭會



# 五二會全國品評會事務報告

## 例言

75  
16



一本書題シテ事務報告ト云フ而シテ出品目錄受賞人名錄其他審査ニ關スル報告等ヲ併記シタルハ閱者ノ便ヲ圖ルニアリ

一本書筆ヲ本會ガルモノナリ而シテ其目次ニ輯収スベカラザル諸件ハ附録ノ一項ヲ設ケテ卷末ニ掲ケリ

一本書審査ノ項ハ審査幹事大森惟中氏ノ著稿ニ係リ專ラ批論ヲ旨トセリ蓋シテ著者ノ意ヲトシテ後來ノ參考ニ資セントスルニアリ

一本書編次ノ体ヲ得サルト叙事ノ條綱ナルトハ勉メテ其顛末ヲ盡サソカ爲ニシテ措辭ノ難雜ナルハ編者不文ノ致ス所、看者之ヲ諒セヨ

編者識

## 五二會全國品評會事務報告

### 目次

本會企畫	一丁
開會發表	九丁
職員組織	一三丁
事務規程	一三丁
職員人名	一七丁
出品監理委員	二五丁
儀式	三三丁
開會式	三三丁
褒賞授與式	四四丁
閉會式	五五丁
會場	六一丁
會場内外ノ設備及取締	六五丁
事務所宿直心得	六七丁

守衛勤務規程	六八丁
場内取締勤務規程	六九丁
會場ニ關スル告知及揭示	七一丁
入場券賣捌	七六丁
構内諸營業	七七丁
出品	八一丁
本會規則	八一丁
出品人心得	八五丁
出品ニ關スル告知	八七丁
運賃割引	九一丁
陳列場所間數	一〇五丁
島津家御庭燒	一一一丁
出品陳列區劃	一一三丁
出品人員點數及賣却	一一六丁
會社組合等ノ出品	一二七丁
飾箱飾臺	一三〇丁
出品目錄	一三二丁
審查	二五三丁
褒賞	三五九丁
各類府縣受賞一覽表	三五九丁
受賞人名錄	三九三丁
來觀	四五七丁
來觀人員及賣品點數價額對照表	四五七丁
聯合券	四六二丁
優待券	四六四丁
特別入場券	四六六丁
學生及軍人	四六六丁
文書往復	四六九丁
會計	四八九丁
廣告	四九五丁
運動會	四九九丁
寄附	五〇三丁

餘興福引	五〇五丁
宴會	五一五丁
祝賀會	五二四丁
附錄	五三一丁
皇太子殿下ノ行啓ヲ奏請ス	五三一丁
大臣議長ノ觀覽ヲ求ム	五三一丁
貴紳來觀	五三二丁
審査方針ノ件ニ關スル集會	五三三丁
質問談話會	五三三丁
恩賜拜戴式	五三四丁
兩本願寺法主ノ寄附	五三五丁
會場內廣告	五三六丁
私撰投票	五三八丁
會場攝影	五三八丁
全國五二會本支種部一覽	五三八丁

## 五二會全國品評會事務報告

### ○本會企畫

本會ノ企畫ハ實ニ去廿八年十月ニ於ケル五二會京都物産品評大會ニ胚胎セルヲ以テ今其願  
 末ヲ統ヘントスルニハ勢ヒ當時ノ情形ヲ追想セザルヲ得ス  
 抑モ五二會京都物産品評大會ハ專ラ京都五二會各部ノ製品ヲ蒐集シ且ツ其性質ハ從來ノ共  
 進會品評會等ト其趣ヲ異ニシ其出品ハ商品ノ資格ヲ有スルモノタルヲ及ヒ現場即賣販路擴  
 張追加出陳自由タルコト等全ク其一生面ヲ開キタルコト毫モ本會ノ目的ト異ナラスト雖ヒ  
 唯五二會創業口猶淺ク其勢力未タ今日ノ如クナラズ是ヲ以テ其開設ハ全然之ヲ自治獨立ノ  
 經濟ニ委スベカラザルノ事情アリ依テ一面ニ於テハ本市ノ補助ヲ仰キ一面ニハ京都五二會  
 各部ノ寄附ヲ募リ以テ其成立ヲ告クルヲ得タリ  
 然レモ此一舉ハ五二會全國品評會ヲ企畫スルノ階段ニシテ其經驗及成績ハ遂ニ我京都本部  
 ヲ鼓舞作興シテ敢テ其唱首タラシメタルニ外ナラズ  
 回顧スレハ我京都本部ハ舊テ前記品評大會ノ當時其式場ニ於テ開キタル臨時秋季大會(本會  
 松方伯、佐野伯、九鬼男ノ諸君モ臨場サレ)ニ於テ向テ三ヶ年以内ニ全國五二會品評會ヲ關西地方ニ  
 品評會ニ關スル評論談話ヲセラレタリ)

開設セシトテ決議シタルトアリ而シテ氣運ノ際會ハ必シモ歲月ニ關ハルベキニアラズ尋テ十一月廿五日ヲ以テ物産品評大會ノ閉會(本會ノ概況ハ出品人員一千百廿二人、出品品數十一萬七千四百餘、來觀人員六萬六千五百六十八、褒賞受領者九百二十四人)ヲ告クルヤ其結果意外ノ好況ヲ博シタルヲ觀テ會員有志者頻リニ全國品評會ノ開催ヲ希望シテ已マザル者比々皆是ナリ依テ内貴本部長ハ尙ニ素願ノ酬イラレントスルヲ察シ直ニ部長會議ヲ召集シテ先ツ大体ノ意向ヲ定メ各部長又其部會ヲ徵シテ贊否ヲ議シ斯ノ如キモノ再三遂ニ十二月十四日ノ一會ニ於テ議始メテ熟スル所アリ即チ明年四月一日ヨリ五月三十日迄元第四回内國勸業博覽會工業館ニ於テ全國五二會品評會ヲ開催スヘキトテ可決シ我京都本部ハ之レカ主唱トナリ中央本部ハ全國本支部ノ贊同ヲ求ムルニ盡力スヘキトテ定メ席上直ニ準備委員若干名ヲ撰囑シタリ此時決議ノ要項ハ最モ着實ノ方針トシテ工業館拂下ヲ請願スルニアリシモ爾來更ニ其議ヲ變シ專ラ力ヲ同館ノ保存ニ務メ以テ其借用ノ願意ヲ貫徹セントテ期シ一月十二日各部長連署シ同館保存建議書ヲ市參事會ニ提出シ京都商業會議所モ亦同様ノ建議ヲ爲セリ右工業館ハ當時既ニ市有建物ニ歸シ且其拂下ノ議定マレルモノナリ故ニ特ニ本會開設ノ目的ヲ達セシカ爲メ一時我京都本部ヘ買收セントシタルモ後顧慮スル所アリテ斷然其議ヲ讎シ保存建議ニ次テ右借用願ヲ提出スルニ至レリ然レモ拂下決定ノ故ヲ以テ輒ク使用ノ許可ヲ領スル

ヲ得ズ而シテ適拂下ヲ出願シタルモノアリ事情轉困難ヲ極メタリ

既ニシテ二月四日ヨリ東京ニ於テ第三回各實業團體聯合大會ヲ開カレントスルヤ前田會頭ハ此機ヲ以テ大ニ品評會ノ爲ニ斡旋スル所アラントシ頻リニ我本部ニ委員上京ヲ促サレ乃チ中安專任理事山中事務長二人之ニ赴キ超エテ七日前田會頭ハ右大會ニ參席セル五二會本支部役員ヲ實業各團體本部ニ召集シ特ニ品評會ニ關スル打合會ヲ開カレ中安理事本會開設ノ希望ヲ演述シテ各地ノ贊同ヲ求メタリシニ滿場皆激贊ノ意ヲ表セラレ是ニ於テ當日ノ出席者ヲ假リニ委員トナシ要項數件ヲ協定シ前田會頭ハ直ニ此結果ヲ各縣本支部ニ通達セラレクリ(開會發願表)

斯ノ如ク之ヲ外ニシテハ既ニ各地ノ贊同ヲ得タルモ之ヲ内ニシテハ會場ノ措置未ク其目的ヲ達スル能ハス而シテ期限ハ日一日ヨリ逼迫シ企畫ハ則チ騎虎ノ勢ニ係レリ因テ大ニ苦慮スル所アリ更ニ市參事會ニ向ツテ備ニ其利害ヲ陳情シ速ニ會場使用ノ願意ヲ貫徹セシメラレントテ懇請セリ其結果トシテ市參事會ハ二月廿八日ヲ以テ

市有建物タル舊第四回内國勸業博覽會工業館ハ當分其賣却ヲ見合セ本年四月ヨリ六月迄開設スベキ全國五二會品評會々場ニ供スル爲メ無料借用ヲ許可スルモノトストノ議案ヲ發セラレ市會ハ全會一致ヲ以テ之ヲ可決セラレタリ是レ本會ノ開設ヲ全ウセシ

メタルモノニシテ深ク市參事會及市會ニ感謝スベキ所ナリ  
 右ノ如ク會場始メテ確定シタルヲ以テ遽ニ概テ各地本支部ニ傳ヘテ其出品ヲ促シタルハ實  
 ニ三月一日ノ事ナリトス是ヲ以テ其企畫ハ久シト雖モ是ヨリ其後僅ニ一ヶ月ノ短期間ニ於  
 テ開會準備ヲ整ヘンコトハ頗ル難事ニアラストモズ然ルニ能ク咄嗟匆忙ノ際ニ殆ソト其完備  
 ナ告クルニ至レルハ全ク各地會員諸君ノ熱心奮勵ニ由ラズンバアラズ  
 願フニ本會ノ開設ハ京都物産品評大會ヲ距ル未タ數月ナラザルニ五二會ノ進歩ハ駭々乎ト  
 シテ須臾モ休止スルコトナク我カ本部ノ下ニ於テハ更ニ數部ノ増設ヲ致シ各地本支部ノ崛起  
 スルモノ亦少カラズ今又本會ノ後各地新ニ五二會ノ組織ヲ見ル二三ニシテ止ラズ是ニ因テ  
 之ヲ觀レバ他日本會ニ繼キテ第二回全國品評會ヲ開クノ日ハ五二會ノ勢力進歩ハ更ニ復タ  
 今日ニ數倍スルモノアルニ至ルベシ是レ理ノ當ニ然ルベキ所ナリトス  
 左ニ工業館保存建議書並ニ其借用願書ヲ掲ケテ參考トス

元第四回內國勸業博覽會工業館保存希望ノ義ニ付建議

元第四回內國勸業博覽會々場工業館ハ將來博覽會共進會等ニ供用スベキ唯一ノ機關タル  
 ベキニ付産業獎勵ノ目的ヲ以テ右本市ノ財産トシテ御保存置相成候様致度希望ノ至リニ  
 堪ヘス依テ此段建議仕候也

明治廿九年一月十三日

- |              |         |
|--------------|---------|
| 五二會京都雜貨部長    | 池田清助    |
| 五二會京都扇子團扇部長  | 石角喜三郎   |
| 五二會京都製紙々製部長  | 中井三郎兵衛  |
| 五二會京都漆器部長    | 西村彦兵衛   |
| 五二會京都七寶部長    | 並河靖之    |
| 五二會京都金屬部長    | 綿美榮祐    |
| 五二會京都陶磁器部長   | 伊東陶山    |
| 五二會京都濱縮緬商部長  | 富岡音七    |
| 五二會京都第一縮緬商部長 | 吉村太助    |
| 五二會京都市中襟部長   | 山脇利兵衛   |
| 五二會京都縮子ル部長   | 内藤小四郎   |
| 五二會京都市生絲部長   | 荒川宗助    |
| 五二會京都絲物部長    | 木田三郎左衛門 |
| 五二會京都刺繡部長    | 西村總左衛門  |

本會企畫

- 五二會京都染物商部長 西村 治兵衛
- 五二會京都染物業部長 石田 喜兵衛
- 五二會京都織物商部長 飯田 新七
- 五二會京都織物業部長 今西 平兵衛
- 五二會京都本部長 内貴 甚三郎

京都市參事會  
京都府知事 山田 信道 殿

（商業會議所建議書寫）

夫レ博覽會品評會ノ自他物品ノ精粗其否ヲ比較商量セシメ以テ生産者ノ競争心ヲ刺戟シ惹テ一國産業ノ進歩發達ヲ促スノ機關ナルヲ言テ俟タザルナリ願フニ昨年當市ニ開會セラレタル第四回内國勸業博覽會五二會京都物産品評會ノ如キ大ニ當業者ヲ鼓舞作興シ以テ京都ノ物産上ニ一新生面ヲ開カシメタルハ事例ノ最モ顯著ナルモノナリ抑モ我市博覽會ノ効益ヲ認ムルヤ久矣夙ニ場ヲ御苑ノ一隅ニ設ケ毎年三四月ノ交各種ノ展覽會ヲ開設シ廣ク京都物産ノ精英ヲ蒐集シ一堂ノ下其美ヲ圖ハシ其粹ヲ競フノ舉アリト雖モ奈何セン其規模ノ狭小ナル未タ充分博覽會ノ効用ヲシテ完全ナラシムル能ハザリシハ常ニ本所ノ遺憾トスル

所ナリ今ヤ東洋ノ平和茲ニ恢復シ内國ノ産業ハ漸ク將ニ發達膨脹セントスルノ好機ニ際シ茲ニ從來開設シ來レル展覽會ノ如キヲ以テ一時ヲ苟且スベキニアラザランヤ進テ時勢ニ適應スベキ雄大ナル規模ヲ立テザル可ラズ然リ而シテ幸ナル哉元第四回内國勸業博覽會工業館ハ既ニ我市ニ拂下ケラレ現ニ其有ニ歸ス若シ能ク之ヲ維持保存シ以テ此等ノ需要ニ應スルアラバ庶幾クハ産業奨励ノ途全キヲ得ン乎或ハ已ムヲ得ザルノ事情ニ依リ現形ヲ維持スル能ハサルニ於テハ假令其一部ヲ毀テ其位置ヲ變更スルモ亦敢テ本會ノ希望ヲ妨グザルナリ幸ニ該館維持保存ノ法ヲ講セラレントナ

右本會ノ決議ニ依リ建議仕候也

明治廿九年一月十五日

京都市參事會

京都府知事 山田 信道 殿

京都商業會議所會頭 濱 岡 光 哲

元第四回内國勸業博覽會工業館並ニ庭園及附屬建物拜借願

今回京都五二會員等當春季ニ於テ舉行セラルベキ奠都紀念ノ祭典ヲ贊頌シ容年空前ノ好果ヲ收メラレタル第四回内國勸業博覽會ノ蹟ヲ承ケ一ハ産業ノ發達ヲ獎勵シ他ハ都下ノ昌榮ヲ裨補スルノ目的ヲ以テ來四月ヨリ六月迄當市ニ於テ全國五二會品評大會開設ヲ企

本會企並



畫仕候就テハ同會場供用ノ爲メ元第四回内國勸業博覽會工業館ノ全部並ニ庭園及附屬建設物等悉皆無料ヲ以テ御貸下被下度奉切望候而シテ刻下本會員等該企畫ノ上ニ付深ク苦慮罷在候ハ右工業館ノ外他ニ會場適應ノ建設物之レ無キノ一事ニ有之實ニ該會ノ成否ハ本願ノ御許否如何ニ據リ相定リ候次第ニ御座候間何卒前述會員等ノ微衷宜敷御洞察至急特別ノ御詮議被成下度此段奉懇願候也

明治廿九年一月十九日

五二會京都本部長 内 貴 甚 三 郎 印

京都市參事會

京都府知事 山田 信 道 殿

### ○開會發表

本會ノ企畫ハ前項ニ陳フルカ如ク其由來一朝ニアラズ且ツ新聞紙上ニ喧傳セルヲ以テ夙ニ四方ニ知ラレタリト雖ヒ會場ノ撰定空シク其望ヲ達セサリシ爲メ公然各地本支部へ發表シタルハ實ニ三月一日以後ニアリトス即チ左ノ如シ

拜啓餘寒未退候處益御清榮奉大賀候陳者段々御賛成被下候全國五二會品評會ノ儀愈々別紙規則ノ通り來四月一日ヨリ五月三十日マテ六十日間元第四回内國勸業博覽會場ニ於テ開催可仕候ニ就テハ何卒會員諸君御誘導御部内出品間敷御取纏ノ至急當所へ御申込相成度此段奉得貴意候勿々不備

京都市柳馬場御池上ル五二會京都本部ニテ

明治廿九年三月

五二會全國品評會主務委員長 内 貴 甚 三 郎

追テ本文出品ノ荷解陳列並ニ監護販賣等ニ關スル諸般ノ取扱ハ凡テ出品者ニ御一任可致儀

ニ候間自然御出品ノ節ハ可成該品御發送以前貴部代表委員御派遣相成候様致度右併セテ申

進候也

然レ是ヨリ先キ二月七日各實業團體聯合大會ニ於ケル各府縣本支部役員協議ノ結果トシテ前田會頭ヨリ左ノ照會ヲ發セラレタレバ本會ノ發表ハ遷延シタリト雖ヒ蓋シ亦徐ロニ準

開會發表

備ノ地ヲ得セシメタルベシ

拜啓五二會全國品評會開設ノ義ニ就テハ目下京都ニ於テ夫々準備中ノ處今回實業各團體聯合會へ出席ノ各府縣五二會本支部役員ニ於テモ更ニ協議ヲ遂ゲ左記ノ事項協定相成候依之別紙規則書相添へ此段御照會申上候也

一各府縣五二會本支部ニテハ二月中ヲ限リ部内ノ出品陳列間數ヲ取纏メ出品規則第一條ニ據リ京都市柳馬場御池上ル五二會全國品評會事務所へ申込ヲ爲ス事

一品評會委員ハ三月十日ヲ限リ各府縣本支部ノ申込ヲ取纏メ出品規則第五條ニ據リ出品間數ノ配分認諾ノ通知ヲ爲ス事

一各府縣本支部右ノ通知ヲ受ケタル所ハ代表委員事務員等ヲ派遣シ諸般ノ準備ヲ爲ス事

明治廿九年二月

五二會全國品評會々頭 前 田 正 名

追テ同會出陳ニ係ル出品物ノ搬送荷解及陳列場所ノ敷設並ニ監護取費等ニ關スル諸般ノ設備ハ凡テ出品者ノ取扱ニ一任セル義ニ有之候(品評會規則第七條及第八條ノ通り)右爲念申添候也

尋テ同月十二日ヲ以テ本會ノ趣旨ニ就キ更ニ各地本支部へ照會セラレタルモノ左ノ如シ本年四月一日ヨリ京都ニ於テ開催可致五二會全國品評會ノ義ニ付テハ屢々開陳致候

通り其趣旨タル全ク從來ノ博覽會若クハ共進會等ト其性質ヲ異ニシ寧ロ是等諸會ノ改善矯正ヲ旨トシ五二會本來ノ目的トセル製造者ヲシテ時世相當ノ利益ヲ收メシムルガ爲メニ設ケラルベキモノニ有之即チ現在將來ノ商品タルヘキ資格ヲ具有セル物品ヲノミ陳列シ之ニ依リテ販路擴張利益多收ノ途ヲ開發致度彼ノ一物一品巧ヲ競ヒ新ヲ術ヒ殆ド一時ノ名譽ヲ博スルニ止マルガ如キモノニ無之事勿論ニ御座候殊ニ深思熟慮ヲ要スベキハ内地雜居後ノ商工業界ニ有之今日ニ於テスラ既ニ其禍端ヲ萌シ居候状態ニモ候得バ我製造業者ハ早ク此點ニ注目シテ十二分堅牢ノ地ヲ爲サイルベカラザル事申上候迄モ無之即チ今回ノ品評會ハ是等必要ノ準備ヲ爲スモノニ外ナラザル次第ニ有之故ニ各製造者ハ大ニ時世ノ切迫ニ鑑ミ飽迄本會ノ爲メニ御盡力相成度而シテ出品物ハ現在製造シツ、アル商品ヲ陳列シ決シテ品評會ノ爲メニ製造セルカ如キ事無之様御注意專要ニ御座候品評會ノ趣旨ハ右ニ陳述候通りニ有之就テハ本會役員ノ如キモ全國五二會ヨリ之ヲ採納ノ事勿論ニ付御地出品人ノ外五二會部長以下各役員ノ中ニテ右品評會開催ノ當時ヨリ閉會迄京地ニ御出張可相成御人名至急御通報被下度其人々ノ中ヨリ夫々役員任命致度ニ付折返シ御回示奉煩候先ハ爲念本會ノ趣旨再陳旁如此ニ御座候敬具

開會發表

明治廿九年二月

五二會全國品評會々頭 前田正名

追テ本品評會ニ關スル往復ハ當分ノ内京都柳馬場御池上ル五二會京都本部内五二會全國品評會事務所ニテ主務委員長内良甚三郎宛ニ御差出可被成候

又前田會頭ハ五二會監督ノ名ヲ以テ五二會成立地ニ於ケル各府縣知事へ左ノ照會ヲ發シ管下五二會員ノ出品獎勵ヲ依頼シタリ

拜啓陳者本年四月一日ヨリ五月三十日迄京都ニ於テ五二會全國品評會開設ニ就テハ京都貳拾有餘種五二會各部非常ノ盡力ヲ以テ孜孜準備ニ着手罷在候元來五二會品評會ハ普通ノ博覽會共進會等ト其性質目的ヲ異ニシ全ク將來當業者カ營利的ノ方針ニ基キ開設セラレ候モノニ有之候間同會開設ノ結果ハ自今内外博覽會ノ精神ニ至大ノ影響ヲ與ヘ隨テ一般工藝製造上大ニ改良進歩ノ域ニ達スベキ義ト確信仕候就テハ右ハ我邦工藝社會目下ノ急務ト存候間毎々御手敷恐入候へ共至急貴縣下五二會員へ出品方十分ノ御獎勵被成下度切ニ御依頼申上候猶又大會開設中ハ特ニ掛官御派遣被成下候ハト斯業獎勵ノ爲メ一段ノ幸福ト奉存候依之第一回五二會大會報告書御參考トシテ小包郵便ニ附シ坐右ニ呈シ申候間御熱覽被下度希望仕候將又五二會品評會ノ出來事ハ細大産業雜誌ニ記載可仕是亦御參照奉願候也早々敬白

### ○職員組織

初メ本會ヲ組織スルニ方リ職員ノ任用配置ハ成ルヘク各府縣ニ涉リ務メテ全國ノ二字ニ副ヘンテ期シ豫メ前田會頭ヨリ各地本支部ニ諭シルニ此意ヲ以テシタリト雖モ一モ其推薦ヲナシタルモノアラヌ又敢テ之ヲ強ユル能ハサルノ事情アリテ勢ヒ京都ノミヲ以テ之ヲ撰定スルニ至レリ而シテ皆中央本部及京都本種部ノ役員其他前日ノ五二會京都物産品評大會ニ關係セル者ヲ以テ組織シタルハ事務機關ノ運轉ニ於テハ頗ル便滑ヲ得タルモノアリ特ニ出品部ニ關シテハ本府第五課長以下課員諸氏公務ノ暇ヲ以テ其任ニ膺リ日々出張鞅掌セラレタルハ本會ノ最モ多幸トスル所タリ

### 五二會全國品評會事務規程

第一條 本會ノ事務ヲ管理スル爲メ左ノ職員ヲ置ク

會頭	一	名
審査總長	一	名

職員組織

- 主務委員長 一名
- 監督 若干名
- 主務委員 若干名
- 審査部長 若干名
- 審査幹事 若干名
- 審査委員 若干名
- 評議委員 若干名
- 事務員 若干名

第二條 會頭ハ五二會中央本部監督之ニ任シ審査總長ハ會頭之ヲ推薦シ主務委員長監督主務委員審査部長審査幹事審査委員評議委員ハ會頭之ヲ特撰シ事務員ハ主務委員長之ヲ任命ス

第三條 主務委員長ハ會頭ノ旨ヲ承ケ本會ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條 監督ハ本會ノ要務ヲ監督シ意見アルトハ之ヲ會頭ヘ申告ス

第五條 主務委員ハ左記各部ノ事務ヲ分掌シ各部ニ部長一名ヲ置ク

庶務部

諸規則ノ制定、文書ノ往復、優待券ノ發行、寄附金品ノ取扱、事務員ノ進退及褒賞等ニ關スル事、其他各部ニ屬セサル事務

出品部

出品陳列及會場ノ整理、出品目錄ノ整頓、出品監護賣品取扱等ノ監理、場内取締人ノ監督并ニ其備罷等ニ關スル事務

式事部

開會式褒賞授與式、閉會式等ニ關スル諸般ノ事務

文書部

機密文書ノ保管、記錄、編纂、賞品及賞狀等ニ關スル事務

會計部

經費ノ收支、用度、修繕、徽章、門鑑及入場券ノ取扱、賣品報告ノ整理、守衛、小使、諸職工ノ取締并ニ其備罷等ニ關スル事務

第六條 審査總長ハ出品ノ審査及之ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス

第七條 審査部長、審査幹事、審査委員ハ別ニ定ムル所ノ規程ニ依リ出品ノ審査及之ニ關スル事務ヲ分掌ス

職員組織

第八條 評議委員ハ會頭ノ旨ヲ承ケ重要ノ事項ヲ審議ス

第九條 事務員ハ所屬部長ノ旨ヲ承ケ各其職務ニ従事ス

臨時設備委員

四月十日事務規程補則トシテ別ニ臨時設備委員規程ナルモノヲ設ケ委員長以下若干名ヲ囑託シテ常ニ會場ノ内外ニ關スル特種ノ設備ヲ整頓補修セシメタリ是レ事務進行ニ隨ヒ實地其必要ヲ感シタルニ由ルモノナリ

臨時設備委員規程

第一項

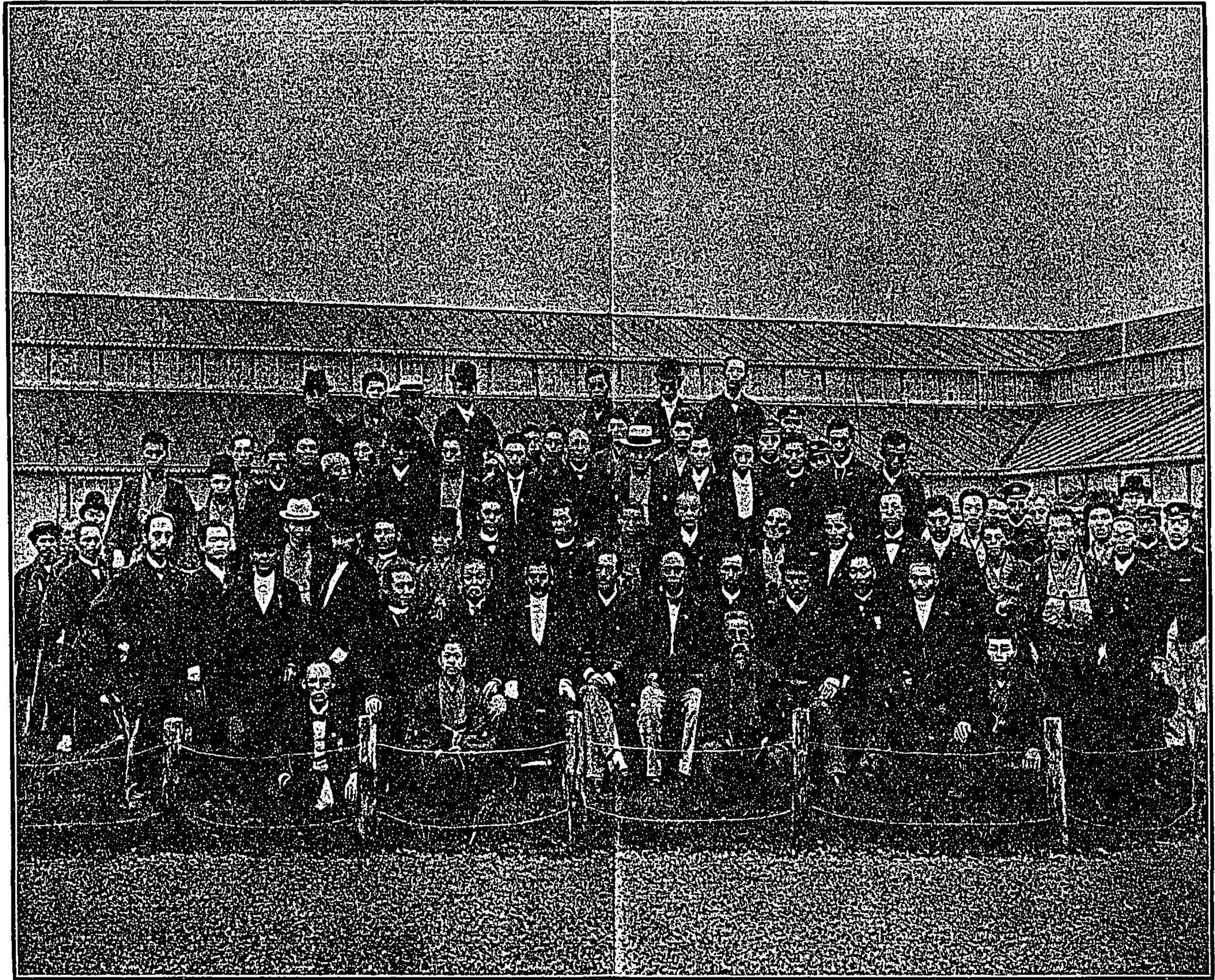
本會ニ臨時設備委員若干名ヲ設ケ委員長一名ヲ置ク

第二項

臨時設備委員ハ本會各部ノ事務ヲ裨補シ觀覽者ノ便宜ヲ謀リ會場ノ裝置ヲ整ヘ其他本會ノ隆盛ヲ保維スヘキ諸般ノ設備計畫ヲ爲スモノトス

第三項

臨時設備委員ハ主務委員長ニ於テ之ヲ囑託ス



員 職 會 評 品

第四項

臨時設備委員ニ於テ要スル費途ハ一時豫備費中ヨリ支出スルモノトシ其都度會計部長ノ承認ヲ經ルモノトス

五二會全國品評會職員人名

會頭	五二會中央本部内	前田 正名	主務委員	京都紫屋町三條上ル	船橋繁之助	主務委員	京都中筋千本東入	黒田 徳兵衛
主務委員	京都押小路柳馬場東	内貴 甚三郎	全	全 建仁寺町五條下ル	中野 忠八	全	全 新島丸二條上ル	山 中 弘
監督	京都烏丸今出川上ル	本 部	全	全 馬町建仁寺町東入	村井吉兵衛	部長	京都衣堀竹屋町下ル	宮崎 豊次
全	全 新島丸頭町	大槻 龍治	全	全 柳馬場佛光寺上ル	石角喜三郎	主務委員	全 室町下長者町下ル	新莊 幸之輔
全	全 新町錦小路上ル	田中源太郎	全	全 上御靈前室町東入	松室 以忠	全	全 東三本木	北 本 雄
全	全 新町丸太町上ル	濱岡 光哲	全	全 西洞院下立賣下ル	小篠長兵衛	全	全 烏丸押小路上ル	白井 憲親
全	全 烏丸四條下ル	雨森菊太郎	全	全 寺町姉小路上ル	田中 宗祐	部長	式 事 部	丹羽 圭介
全	全 新町五條下ル	竹村藤兵衛	全	全 烏丸高辻下ル	初田 伴造	部長	京都正面三ノ宮町東	烏居 喜兵衛
全	全 五條橋東二丁目	中村 榮助	全	全 堀川四條上ル	木島又兵衛	主務委員	全 天宮五辻上ル西入	木村勘兵衛
全	全 四條寺町東入	能 川 登	全	全 堀町二條上ル	堀野 久造	全	全 新町綾小路下ル	堀 五郎兵衛
部長	京都御町二條上ル	中安信三郎	全	全 清水産寧坂下ル	谷口長次郎	全	全 西洞院橋木町上ル	田中治兵衛
庶務部			全	全 阿智町三條上ル	安原文次郎	全	全 寺町四條上ル	三上 幸三郎
			全	全 天宮五辻上ル	田中權兵衛	全	全 高辻柳馬場西入	

職員組織





全	京都五條柳馬場東入	松尾 喜七	評議委員	京都新町四條下ル	岡島卯三郎	京都東洞院四條上ル	神谷重兵衛
全	全新町綾小路下ル	中村藤兵衛	全	全綾小路新町西入	小谷佐兵衛	全菅屋町淨福寺西入	河北武兵衛
全	全大宮五辻上ル西入	目片虎之助	全	全西洞院東川上ル	岸 孝十郎	全元野願寺堀川東入	平尾 孫七
全	全今出川大宮西入	篠田卯兵衛	全	全千本上立賣上ル	植田 利七	全繪藥師東洞院東入	津田藤二郎
全	全御池高倉西入	瀧見清右衛門	全	全四條東洞院西入	瀨川藤兵衛	全鳥丸三條上ル	田中 兵七
全	全五條東洞院西入	中井源左衛門	全	全柳馬場三條上ル	市田彌一郎	全萬壽寺堂町西入	和泉忠兵衛
全	全一條鳥丸西入	大森治郎兵衛	全	全四條當小路西入	吉川孫四郎	全室町錦小路上ル	松居 庄七
全	全丸太町御幸町西入	遠藤新兵衛	全	全三條白川橋西入	春井 喜助	全室町錦小路上ル	高田 久七
全	全千本上立賣上ル	海老名文助	全	全七條鳥丸西入	佐野豐三郎	全堺町六角下ル	井上 嘉吉
全	全油小路竹屋町下ル	大北文次郎	全	全東洞院六角下ル	並河吉之助		
		澤井德次郎			川本庄兵衛		

五二會全國品評會審査部職員人名

總長	正四位勳二等	金子堅太郎	部長	大阪商品陳列所長	平賀 義美	評議委員	京都小川出水上ル	石田喜兵衛
幹事	東京下谷徒士町	大森 惟中	委員	東京下谷徒士町	大森 惟中	委員	栃木縣足利郡北郷村	市川清次郎
事務	京都堺町二條上ル	中安信三郎	委員	京都木屋町二條下ル	伊集院兼常	委員	京都三條堂町西入	西村治兵衛
取扱	大阪商品陳列所	石澤 兵吾	委員	全鳥丸高辻下ル	飯田 新七	委員	全正面三ノ宮町東入	丹羽 圭介
			委員	全智恵光院寺之内南	今西平兵衛	委員	全大宮五辻上ル西入	鳥居喜兵衛
					稻田 卯八	委員	全六角堂町西入	富岡 音七

委員	東京府八王子町	荻島 信吉	委員	京都不明門松原南	安盛善兵衛	委員	京都室町五條上ル	廣岡伊兵衛
委員	京都大宮出水上ル	小關伊三郎	委員	全東洞院六角下ル	山脇利兵衛	委員	東京京橋木挽町	森村市左衛門
委員	和歌山市休賀町	若林 儀助	委員	全三條河原町西入	安田卯右衛門	委員	京都四條鳥丸東入	瀨川藤兵衛
委員	京都柳馬場五條上ル	勝田 甚吉	委員	全堺町錦小路上ル	山下半兵衛	委員	全今出川淨福寺西入	吉田 善助
委員	大阪順慶町四丁目	龜岡德太郎	委員	全神戶市生絲検査所	圓中 文助	委員	全大宮上立賣上ル西	石 橋 孝
委員	山形縣米澤屋代町	吉池慶三郎	委員	全佐賀縣三養基郡旭村	松隈 晴景	委員	全元野願寺智恵光院	市田文次郎
委員	京都室町錦小路上ル	吉村 太助	委員	全京都五條柳馬場東入	松尾 喜七	委員	全三條堂町角	時岡 利七
委員	全新門前廻手東入	高田 新助	委員	全大阪土佐堀裏町	藤井 恒久	委員	全今出川智恵光院西	和田辨之助
委員	全寺町御池下ル	高木 喜一	委員	全京都築屋町三條上ル	船橋繁之助	委員	全大宮五辻下ル	龜山利兵衛
委員	東京下谷仲町	道明新兵衛	委員	全四條柳馬場東入	兒島 定七	委員	全今出川智恵光院西	田中英次郎
委員	名古屋市本町四丁目	祖父江重兵衛	委員	全六角鳥丸西入	荒川 宗助	委員	全三條鳥丸東入	津田榮太郎
委員	大阪備後町二丁目	津田太郎兵衛	委員	全三條堂町東入	齋藤宇兵衛	委員	全室町三條上ル	長島常次郎
委員	京都中立賣堀川西入	内藤小四郎	委員	全小川一條上ル	木田三郎左衛門	委員	全智恵光院今出川南	芥川靜次郎
委員	福岡市博多中洲口町	村田林太郎	委員	全松原東洞院西入	宮本 儀助	委員	全五辻智恵光院西入	水口庄次郎
委員	久留米市通町三丁目	内田茂兵衛	委員	全大阪府堺市	三谷 岩藏	委員		
委員	愛媛縣八幡濱	浦中要次郎	委員	名古屋市針屋町	宮田辰次郎	委員		
委員	福岡縣上妻郡岡山村	延 市太郎	委員	東京下谷仲町	島本德兵衛	委員		
委員	京都寺町四條下ル	野口覺兵衛	委員	京都鳥丸四條上ル	下村忠兵衛	委員		
委員	東京芝神谷町	山口 務	委員	大阪衛生試験所	島田 耕一	委員		
委員	福井縣今立郡南中山	山村 貞輔	委員	京都小川出水上ル	平田專太郎	委員		

職員組織

全	京都松原局丸西入	磯野小右衛門	佐賀縣有田町	田代與一	京都四條宮小路西入	三崎清次郎
全	全高倉佛光寺上ル	板倉直次郎	京都新門前細手東入	高田新助	全本派本願寺	水原慈音
全	全柳馬場佛光寺上ル	石角喜三郎	全寺町御池下ル	田中宗祐	東京下谷仲町	島本徳兵衛
全	全新門前小堀西入	池田清助	全	高木喜一	京都本町五丁目	柴田伊兵衛
全	全四條河原町東入	岩永嘉兵衛	東京下谷仲町	道明新兵衛	全二條樋口	樋口良眼
全	高知縣伊野町	井上傳十郎	京都三條北裏白川橋	並河靖之	東京京橋木挽町	森村市左衛門
全	名古屋市正木町	伊藤平左衛門	全	長山虎壑	京都寺町四條下ル	紹美榮祐
全	愛知縣海部郡中島村	早川龍介	靜岡人宿町二丁目	永倉兵右衛門	全小川頭	千宗左
全	京都烏丸松原上ル	初田伴作	京都繩手新門前下ル	牟田良七	愛知縣海部郡遠島村	林小傳治
全	全正面三ノ宮町東入	丹羽圭介	全寺町姉小路角	熊谷直行	名古屋市南武平町	松村八次郎
全	全寺町綾小路角	西村彦兵衛	福岡縣三潁郡木室村	熊本壽人	名古屋市新柳町	守隨鐘三郎
全	東京工業學校	細木松之助	京都西洞院本願寺前	藪内紹吉	京都西本願寺内	井澤治兵衛
全	和歌山縣名草郡黒江	堀田幸次郎	京都大宮七條上ル	松尾儀助	全	長谷川政吉
全	京都五條東洞院西入	大森治郎兵衛	全補小路表榎	藤江永孝	全松原宮小路西入	川本喜兵衛
全	名古屋市鉄砲町	岡谷惣助	全天谷派本願寺	藤本長七	全五條柳馬場東入	谷川幸助
全	浪山學林坊	尾上慈純	神戸市三ノ宮町	藤井了俊	富山市砂町	桑島豊太郎
全	京都府宇治郡小野村	和田智滿	京都二條通疏水西入	小山善太郎	京都三條寺町東入	福井勝秀
全	東京深川東元町	河原徳立	全高辻柳馬場西入	淺井日通	全烏丸五條下ル	兒玉伊右衛門
全	全京橋南新堀二丁目	加藤助三郎	全六角宮小路西入	三上幸三郎	京都寺町廣小路上ル	村岡範爲馳
全	京都松原塚町西入	吉田長兵衛		宮脇新兵衛		

全	東京下谷徒士町	大森惟中	京都小川寺之内上ル	谷三笑	京都馬町建仁寺町東	村井吉兵衛
全	京都木屋町二條下ル	伊集院兼常	全下立賣千本東入	半井榮	全下立賣千本東入	山中小兵衛
全	愛知縣碧海郡中島村	早川龍介	神戸市堺町	村岡範爲馳	大阪市土佐堀裏町	山本龜太郎
全	京都正面三ノ宮町東	丹羽圭介	京都寺町廣小路上ル	伊藤新六郎	愛知縣知多郡小鈴谷	藤井恒久
全	全今山川寺町下ル	大平松次郎	東京工業學校	伊集院兼常	滋賀縣滋賀郡石山村	天末嘉祐
全	名古屋市鐵砲町	岡谷惣助	京都木屋町二條下ル	伊東熊夫	大阪衛生試驗所	眞田武左衛門
全	京都松原塚町西入	吉田長兵衛	京都府伏見町東塚	池田佐七郎	京都御慈光院下立賣	島田耕一
全	大阪府堺市	中田作五郎	京都寺町松原下ル	今井清次郎	全狹屋町綾小路下ル	鈴鹿辨三郎
全	京都寺町姉小路角	熊谷直行	全柳馬場塚町角	伊藤平左衛門	全新町魚棚下ル	大橋彌七
全	全四條烏丸東入	松坂春榮	名古屋市正木町	伊東七郎衛	名古屋市末廣町	竹内爲次郎
全	全聖護院町西端	二見鏡三郎	愛知縣知多郡龜崎町	早川龍介	名古屋市中區	山田才吉
全	全二條東洞院東入	古川龍齋	全碧海郡中島村	丹羽圭介	京都高倉錦小路上ル	深見伊兵衛
全	全烏丸二條下ル	淺山郁次郎	京都正面三ノ宮町東	大北文次郎	全西洞院樅木町下ル	木村傳右衛門
全	全高倉錦小路上ル	鈴木宗恭	全千本上立賣上ル	大塚和三郎	審査事務員	田中松太郎
全	全藏園町	岩田喜八	大阪府堺市	渡邊徹	京都四條柳馬場西入	伊藤祐俊
全	全東洞院丸太町下ル	小野勝彬	兵庫龍灘	田中宗祐	名古屋市南久屋町	大澤準二
全	全下立賣室町西入	岡田透	京都寺町御池下ル	玉水新太郎	京都祇園發町	月出皓
全	全西洞院下立賣上ル	小篠長兵衛	全四條小橋西入	築山三郎兵衛	全寺町通佛光寺上ル	東野善一郎
全	大阪南本町四丁目	河村壯太郎	京都府伏見町字湯響	中川彦次郎	京都新町武者小路北	堀内保之助
全	京都吉田町	糟谷宗資	京都油小路七條上ル			

(金子審査総長ニ附呈セル推薦状)

本會ノ衆望懇請ニ  
依リ閣下ヲ審査總  
長ニ御推薦致候也  
明治廿九年四月  
五二會全國品評會  
會頭 前田正名  
金子堅太郎殿閣下

(主務委員其他ニ交附セル囑託状)

殿  
五二會全國品評會  
、 、 、 、 、  
ヲ囑託ス  
明治廿九年三月  
五二會全國品評會  
會頭 前田正名

### ○出品監理委員

出品ノ監護取扱ニ就キテハ成ルヘク其地五二會本支部ニ於テ之ヲ總轄シ當該委員ノ出張アルヲ以テ本旨トシタルモ統屬ニ便ナラサルモノ個別ニ出品ヲナシタルモノ少カラス爲ニ監督上支障ヲ生スルノ場合アルヲ以テ乃チ出品監理委員規程ヲ設ケ是ニ依テ該委員ヲ確定シ總テ其名ヲ以テ一切ノ責任ヲ負擔セシメタリ故ニ該委員ニハ徽章及囑託ノ辭令ヲ交付シ以テ本會ノ職員ニ准ス

右委員ヲ撰定スルニ方リテハ主務委員長ハ各府縣本支種部へ左ノ通牒ヲ發セリ

拜啓出品監理委員規程別紙ノ通り制定相成候ニ就テハ右ニ據リ同委員御推薦該氏名住所等至急御申出相成度此段及御通牒候也

### 出品監理委員規程

#### 第一項

本會出品ニ係ル各府縣本支部及各種部毎ニ出品監理委員一名乃至二名以上ヲ置ク

#### 第二項

出品監理委員ハ其部ノ出品者ヲ代表シ該出品ニ關スル諸般ノ事務ヲ監理スルモノトス

出品監理委員

第三項

出品監理委員ハ各部ノ推薦ニ據リ會頭之ヲ囑託ス

第四項

出品監理委員ニハ本會ヨリ左ノ徽章ヲ交付ス(徽章雛形後也)

五二會全國品評會出品監理委員人名

東京府	八王子支部	高橋茂七	織物商部	中澤利八	染物商部	宮井傳兵衛
京都府	杉本音吉	津田常七	織物業部	伊東平三	垣本彌兵衛	垣本彌兵衛
	田中國次郎	荻野清太郎	全	全	全	全
	芥川靜次郎	内貴清兵衛	全	全	全	全
	織田和三郎	外村與左衛門	全	全	全	全
	石橋孝	津代庄兵衛	全	全	全	全
	服部助兵衛	津田榮太郎	全	全	全	全
	水口庄兵衛	船越和助	全	全	全	全
	小林伊之助	岡村文六	全	全	全	全
	吉田善助	宮本儀助	全	全	全	全
	砂川巳之三郎	若林金右衛門	全	全	全	全
	川畑又右衛門	金山藤兵衛	全	全	全	全
	下村忠兵衛	木村勘兵衛	全	全	全	全

絲物部	四方田芳太郎	金器部	春井喜助	扇子團扇部	石角喜三郎
全	安田和三郎	全	稻葉七穂	全	川端新庄七郎
全	栗野牛造	全	佐野豊三郎	全	遠藤新兵衛
全	山村彌太郎	全	西村彦兵衛	全	高木喜一
全	淺井友太郎	全	三上幸三郎	全	田村宗兵衛
全	牧山崇一郎	全	大伴源之助	全	澤田作兵衛
全	高山龍之助	全	高木卯兵衛	全	西川辨之助
全	鎌田清兵衛	全	高野伊兵衛	全	霧林鹿麿呂
全	宮本儀助	全	井筒喜太郎	全	松木寅之助
全	澤村芳之助	全	京極治三郎	全	今村權七
全	吉田利助	全	堀田幸次郎	全	今村權七
全	安原文次郎	全	桃井輝之助	全	石村善七
全	大坂七郎兵衛	全	永倉兵右衛門	全	西村樹之助
全	目片美珂	全	矢澤久右衛門	全	速水吉平
全	高橋徳兵衛	全	宮崎平七	全	片山専平
全	湯淺専太郎	全	俣野喜一	全	堀江仁兵衛
全	田中彦助	全	水野壽一	全	高木民之助
全	高山與三吉	全	中井三郎兵衛	全	大木平藏
全	川島友次郎	全	大森治郎兵衛	全	谷田廣助
全	澤渡源兵衛	全	田中宗助	全	小野佐助
全	寺澤知爲	全	板倉直次郎	全	預野小左衛門
全	齊藤啓太郎	全	板倉直次郎	全	岡田新太郎
全	紹美榮祐	全	田中卯之助	全	岩永嘉兵衛

出品監理委員





ノ幹旋ヲセラレタルモノ數名アリ  
○開會中本會ヨリ監護人ノ取締ニ關シ特ニ監理委員へ照會セルモノハ往々自己ノ持  
場ヲ離レ其監護ヲ忽セニスルモノアルヲ注意シタルノ一事アリシノミ

### ○儀式

本會ノ儀式ハ開會閉會褒賞授與ノ三式ニシテ其式場ニハ西館北部ノ入口凡ソ二百坪ヲ劃シ  
テ之ニ充テタルヲ以テ甚シキ狹隘ヲ感ゼザリシト雖モ素ト建造粗放ノ陳列館ニシテ柱梁自  
カラ式場ノ物ニアラス爲ニ大ニ裝飾ニ勞スルモノアリキ以下順ヲ追フテ之ヲ記述ス

### 開會式

明治二十九年四月一日午前九時開會式ヲ舉行ス其順序左ノ如シ

五二會全國品評會開會式順序

第一信號 着席

第二信號 開始

奏樂 君か代 (此間一同敬禮)

會頭式辭

京都府知事祝詞

京都府會議長祝詞

京都市會議長祝詞

儀式 開會式

京都商業會議所會頭祝詞

來賓總代祝詞

出品者總代答辭

主務委員長附辭

第三信號

終式

奏樂

以上

豫定ノ時刻ニ及ヒ樂隊君か代ヲ奏スルヤ一齊起立敬禮ヲ行フ滿堂虔肅ノ間奏樂終レバ前田會頭ハ徐ニ左右ニ一揖シ左ノ式辭ヲ演ベラル

我邦ニ於テ帝國強兵ノ策ヲ講センカ爲メ國民各自ノ計畫スル所一ニシテ足ラズト雖ハ獨立獨行單ニ自力ヲ以テ之ヲ實行スルコト五二會全國品評會ノ如キハ雖レ他ニ其類例ナカ  
ルベシ全國五二會員ノ能ク時勢ヲ知り且能ク已レノ業務ヲ知り熱心事ニ從ハレタル結果  
遂ニ僅少ノ時日ヲ以テ今日ノ盛會ヲ見ルニ至レリ實ニ空前ノ美譽ヲルカ信ス  
器ヲ惟ルニ我叔聖文武ナル

天皇陛下ノ大御心ヲ殖産興業ニ傾ケサセ給ヒ展吾人臣民ニ賜フニ産業振興ハ刻下ノ最  
大急務ナルコトヲ宣ワセラル退キテ五二會ノ事業今日ニ至ルヲ見レバ此趣意ヲ貫徹スル  
ノ時ヲ決メテ遠カラツルベシ 聖慮ヲ安ンセサセ給フノ日モ亦誠ニ近キニアラントトウ  
思ヘバ實業家ノ光榮面目何モノカ之ニ如カン

今ヤ五二會ノ目的トシテ其一二ヲ述スル真ニ轉瞬ノ間ニアラントス此時ニ至リテハ事ニ  
率先セシモノハ以テ之ヲ快トシ益進ムベシ其後レタルモノハ之ヲ悔ニルト同時ニ愈國家  
ノ爲メニ一倍ノ勇ヲ鼓シテ急ガシト必然ノ理勢ナリ

今回ノ品評會ヲ見ルニ從來ノ博覽會共進會等ト其性質目的ニ於テ幾然相異ル無形ノ一大  
進歩ハ申ス迄モナク僅ニ其裝飾ノ一類ニ就テモ類ヲ分テ品ヲ異ニスルニ隨ヒ紅紫燭爛各  
種ニ適應セル裝飾アリテ能ク其品類ノ差別ヲ明カナラシムルカ如キ有形のノ進歩ハ從來  
幾百回ノ大小博覽會共進會品評會等ヲ經シテ未ダ曾テ見ザル所ナリ夫ノ女性ニシテ男  
裝ヲ爲シ男性ニシテ女裝ヲ爲スガ如キ體ナク織物ハ織物ヲシ菓子屋ハ菓子屋ヲシヤ恰  
好ノ裝飾ハ是レ則チ事小ナルガ如キモ其他ノ進歩亦推知セラルベシ

特ニ一言シ置クベキハ品評會ヲ開キテ此品評會開期中ニハ決シテ利益ヲ得ラルベ  
キニアラザルコト是ナリ本會ヲ開ク所以ノモノハ畢竟將來ノ利益ヲ得ルニ至ルベキ一手段



段一階梯ヲ行ヒタルニ過ギザルコトヲ忘ルベカラズ

此故ニ京都ハ勿論各府縣トモ本會ノ設備上運搬其他莫大ノ資金ヲ抛キタラシモ其資金ニ幾百倍ノ利益ヲ回收セラレノコトハ其期必ラズ遠カラザルベシ勉メザルベカラズ

試ニ思ヘ今ヤ武億萬圓ノ負擔ハ我等國民ノ頭上ニカ、レリ細言スレバ昨年迄ハ一人分頭貳圓貳拾參錢宛ノ負擔ナリシモ明治廿九年ノ今日トナリテハ一人ニ付五圓弱殆ソト加倍ノ租稅ヲ負ハザルベカラズ何ゾ夫レ非常ノ重荷ニアラズヤ

而カモ斯カル負擔ヲ荷ハザルベカラザル時ノ來ラノコトハ三十年來豫言シテ痛戒セシ所而シテ之ヲモ猶輕シト感セシメシコトハ他ニ明業良策ナキナリ

萬一日本農家ガ大ニ衰弊シ來ル時ハ如何又此製造家ガ今日時勢相當ノ組織ヲ成ス能ハザレハ如何到底現在京都市或ハ他府縣郡府ノ繁榮ヲ維持スル能ハザルノミナラス國家ノ運命ハ言フニ忍ビザルモノアラシ全國實業上五二會ヲ始メ已ニ十一團體ノ組織セラレタル所以至ク此ニアリ吾人實業家ノ責務トシテ晝夜寢食ヲ安ンズルニ遑ナキ豈夫レ他アラシヤ云々

會頭ノ演述終ルヤ來賓交々起テ祝詞ヲ朗讀セラレタリ今左ニ之ヲ順記ス

山田京都府知事祝詞

五二會ハ實ニ一昨二十七年四月ヲ以テ其組織ヲ成シ客年本市五二會品評大會ヲ開キ大ニ府下工藝ヲ振作シ物産改良ノ好果ヲ見タリ今又五二會全國品評會ヲ開設シ贊同ノ府縣東北ハ奥越ヲ盡クシ西ハ鎮西ニ至ル共同業者ハ爭ヒテ製品ヲ出シ陳列場貳千有餘間ノ長ニ及ビ良工技ヲ競ヒ名匠巧ヲ凝ラシ精品良製披陳展布光彩煥發燭爛目ニ燦タリ近年開明ノ進行ニ伴ヒ民設事業紛々トシテ興ル然リト雖モ全國團結忽チ此隆盛ヲ致シシモノ未ダ本會ノ如キアラス是レ當業者ノ熱心ナル衷情ヨリ團結セシ實效ト謂ハザルヲ得ズ苟シモ德義ヲ重シ以テ之ヲ立ツル何事カ成ラザランヤ嗚呼干戈ノ戰ハ陸海ノ貔貅戰ヘバ克チ攻ムレバ取リ以テ其勝ヲ奏シ皇威國光大ニ揚レリ平和ノ戰ニ至リテハ工商ノ各氏力ヲ戮セ心ヲ一ニシ工藝ヲ進步シ物産ヲ阜殖シ貿易ノ商戰ニ大捷ヲ奏シ以テ國富民福ヲ増進スル是レ此會ノ任ナリ諸氏其レ之ヲ勉メヨ今本會ノ開場ニ臨ミ平生ノ希望ヲ述ベ以テ之ヲ祝ス

中村京都府會議長祝詞

伏テ現今我邦ノ狀態ヲ察スルニ百般ノ事擧テ實業ニ吸收セラレントスルガ如シ蓋シ國運振張ノ勢ニシテ必然ノ急要存スレバナリ此秋ニ際シ本日ヲトシ五二會全國品評會ヲ我京都ニ開設シ盛ニ製品ヲ展列シテ其長短ヲ考攻シ其優劣ヲ參照シ益産業ヲ振興シ以テ愈世

界貿易市場ニ輸贏ヲ決セントス其企畫豈爽快ナラズヤ夫レ殖産貿易ノ消長ハ即チ國家榮枯盛衰ノ繫カル所ナリ是ヲ以テ五二會々員諸君ガ肝膽ヲ搾リテ帝國福利ノ策ヲ講セラルハ某等ノ深ク信シテ疑ハザル所ニシテ本會ノ盛大隆昌ヲ慶賀セズンハアラザルナリ乃チ燕辭ヲ陳シテ祝詞トス

雨森京都市會議長祝詞

五二會設立ノ議始メテ我京都市ニ端ヲ發キタルヨリ僅ニ二星霜ニシテ各地皆五二會ヲ設ケ殆ント全國ニ遍シ從フテ品評會ノ舉亦續々各地ニ之ヲ企ツルアリ今ヤ進シテ全國ノ品評會ヲ此陽春駘蕩ノ候ニ方リ勸業ニ因アル會場ニ開キ各地五二會員多ク贊同シテ各種ノ物品ヲ出陳シ精ヲ競ヒ巧ヲ爭ヒ桃紅李白百花爛熳タルノ盛觀ヲ呈スルニ至レリ是レ豈ニ我國興業ノ爲メニ喜ブベキノ事ニアラズヤ且ツ從來全國ノ博覽會ハ官設ニ非ザレバ成ラザリシモノ將ニ私設ニ移ラントスルノ氣運ニ際シ此品評會ノ私立五二會ノ手ニ成リタルハ今後私設ヲ以テ大博覽會ヲ開ク上ニ於テ好經驗ヲ得ヘシ是レ亦太ク喜ブベキノ事ナリトス願フニ設立以來未ク數年ナラザル五二會ニシテ又僅々二三月以前ニ發表シタル品評會ニシテ此盛大ヲ致シタルハ蓋シ首唱者タル前田君ノ勵精鼓舞セラレタルニ因ルベシ茲ニ開會ノ式ニ列スルノ榮ヲ荷ヒ聊カ思フ所ヲ述ベテ之ヲ祝スト云フ

濱岡京都商業會議所會頭祝詞(同所西村)

五二會全國品評會已ニ百般ノ設備ヲ了シ茲ニ本日ヲトシテ開會ノ盛式ヲ舉行セラル想フニ五二會ノ精神タル豈唯ニ實業者ヲ鼓舞作興シテ社會ノ輿論ヲ喚起スルニ止マランヤ要ハ産業其物ノ發達旺盛ヲ企圖スルニアリ故ニ時ニ品評會ヲ設ケテ之ガ精粗良否ヲ査覈シ以テ自他切磋ノ料ト爲スガ如キ國家致富ノ上ニ於テ頗ル必要ノトナス則チ昨秋開設セラレタル五二會京都物産品評會ノ如キ其效果ノ最モ著顯ナリシニアラズヤ而シテ本會ハ更ニ其規模ノ雄大ニシテ出品ノ饒多ナルヲ見ル其及ホス所ノ効果殊ニ著大ナルヲ信ス眞ニ國家ノ慶事ト謂フベシ然リト雖モ其企畫ハ實ニ創始ノ事業ニシテ其得喪直チニ斯業ノ將來ニ向ツテ消長ヲ及ホス所尠少ナラス當局者ノ最モ慎重熟慮ヲ要セザルベカラザル所幸ニ意ヲ之ニ致サレンコトヲ聊カ所懐ヲ述ベテ祝辭トス

來賓總代山本龜太郎君祝詞

精ヲ抽キ華ヲ蒐ム人ヲシテ美ト云ハシム新ヲ駢ベ奇ヲ列ス人ヲシテ妙ト呼バシム然リト雖モ是只一時人目ヲ喜バシメ空譽ヲ博スルニ過キズシテ實利ヲ舉クルノ道ニアラズ全國五二會員諸君ハ茲ニ見ル所アリテ乎五二會全國品評會ヲ開キ各力メテ巧ヲ術ヒ奇ヲ競フノ弊ヲ避ケ其平常所製ノ物品ヲ排陳シ自他長短優劣ヲ比較シ以テ實用ノ適否嗜好ノ如何

ナ考へ商品ノ性質ヲシテ完備セシメントス其旨ヤ寔ニ善シ將來販路ノ擴張利益ノ多收須  
ラク期待スベシ豈慶賀ノ至リナラズヤ本日發會式ヲ舉ケラル、ニ當リ龜太郎亦此盛儀ニ  
列シ末班ヲ汚スノ榮ヲ荷フ聊カ燕言ヲ陳ベテ祝辭トス

次ニ五二會堺支部長藤本莊太郎氏出品者總代トシテ左ノ答辭ヲ朗讀セララル

此ニ五二會全國品評會ヲ催スニ當リ初野貴顯紳士ノ臨場ヲ辱ウス本會ノ幸榮何モノカ之  
ニ如カン思フニ五二會ノ組織日猶淺キニ拘ラズ全國ノ五二會員奮テ出品ヲ競ヒ今回ノ如  
キ盛舉ヲ見ルニ至リシモノ偏ニ會頭前田正名君閣下ヲ始メ官民有志非常ノ熱誠盡力ニ依  
ラズンハアラズ自今益諸君ノ高論ニ基キ眼前ノ小利ヲ捨テ永遠ノ大利ヲ舉クルニ努ムル  
アラソフナ期ス聊カ一言ヲ陳シテ答辭ニ代フ

右終リテ内貴主務委員長左ノ謝辭ヲ朗讀ス

回顧スレハ去明治二十七年四月京都市ニ於テ全國五二會大會ノ開設アリシヨリ歲ヲ開ス  
ル僅ニ三星霜ノ後今二十九年五二會全國品評會ノ計畫アリ而シテ本會ノ開設ハ昨年京都  
秋季臨時大會ノ決議ニ據リ卒然之ヲ唱道シタリシニ會頭前田正名君ヲ始メ全國五二會本  
支部諸君非常ノ盡力ヲ以テ其ノ出品ヲ獎勵セラレタルニ依リ幸ニシテ今日此盛會ヲ見ル  
コトヲ得タリ眞ニ空前ノ快事ト謂フベシ今其ノ贊同ノ府縣ヲ列舉スレバ東京、京都、大阪、神

奈川、兵庫、新潟、群馬、茨城、栃木、三重、愛知、靜岡、山梨、滋賀、岐阜、長野、宮城、福島、山形、福井、石川、富山、嶋  
根、岡山、廣嶋、和歌山、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、大分、佐賀、熊本、鹿兒嶋ノ各地ニシテ出品点数ハ概  
テ拾有餘萬点ノ多キニ達シ陳列間數ハ殆ンド三千間ニ垂ンタリ庶幾クハ本會ノ結果十二  
分ノ成績ヲ呈シ當初開會ノ本旨ニ背カザランヲ而カモ之ヲ大成スル亦全ク諸君ノ盡力  
ト熱誠トニ待タザルベカラズ茲ニ諸君來會ノ榮ヲ謝シ且ツ將來翼賛ヲ切望スト云爾

是ニ於テ式全ク終レバ嘯唳タル奏樂ノ響ト齊シク爆然一齊祝嘏中天ニ轟クヤ之ヲ合圖ニ入  
場券賣捌所ノ隔戸ハ開カレヌ此日雨天ナリシニモ拘ラス式場ニ參列セラレタル人々六百餘  
名ニ及ヒ會場附近ハ早朝ヨリ來觀ノ士女綺羅絡繹シテ幽清ノ地遽ニ駘蕩ノ春ヲ知ルノ思ヒ  
アリキ

當日參列ノ爲メ招待狀ヲ發シタルハ左ノ如シ

内閣總理大臣、各省大臣、各省次官、内閣書記官長○全國府縣知事、書記官、參事官、第五課長○京都市府高等  
官、京都地方裁判所長、檢事正、京都郵便電信局長、帝國博物館長、府立病院長、京都六警察署長○京都在住  
各華族、阿木顯幸法主及役僧○第三高等學校長、京都府尋常中學校長、同尋常師範學校長、同高等女學校  
長、同商業學校長、同簡易農學校長、同醫學學校長、京都市美術工藝學校長、同染織學校長、同盲啞院長、同志社  
々長、大學寮長、文學寮長并ニ以上諸學校教頭及上下京阿高等小學校長○京都府撰出各代議士、府會市  
部會、郡部會、市會、各正副議長及議員、京都市參事會、上下兩京區長、市常設臨時各委員、各小學校學務委

員○京都商業會議所正副會頭及會員贊同府縣ノ商業會議所正副會頭、京都美術協會役員、京都各商工組合頭取、京都各銀行重役、京都各會社重役、五二會各府縣本支部長、本會役員、各地出品人總代、全國各新聞記者其他本會關係者

此外出品人全体へ左ノ通告ヲナシ且之ヲ揭示ス

揭示

來四月一日午前九時會場内(西北部)ニ於テ開會式執行候條

出品者諸氏隨意參列セラルベシ

開會式準備ニ就テハ三月廿二日丹羽式事部長ハ其主務委員ヲ京都俱樂部ニ會シテ諸般ノ打合せヲナシ且事務分擔ヲ左ノ如ク定メ以テ當日遺子ヲカランコトヲ期セリ然レモ此式場地ハ開會一日前マデ出品荷解所ニ用ヰシレバ設備倉卒全委員殆ント夜ヲ徹シテ其裝飾ニ從事セリ

式事委員事務分擔

迎接掛

堀 五郎兵衛 田中治兵衛 梅川徳三郎 木村勘兵衛 湯淺專太郎

澤村 太七 澤田 寅吉

接待掛

三上 幸三郎 島居喜兵衛 内藤徳兵衛 小島利兵衛 安田 新造

茶 藏 六 川端 庄七

茶葉掛

今井 清次郎 池田 佐七郎 野口 覺兵衛 平野 吉兵衛 澤村 芳之助

稻葉 七 穂

又式場裝飾用トシテ所藏ノ物品ヲ貸與セラレタルハ野口覺兵衛君(敷物及卓被)平野吉兵衛君(花瓶)京都俱樂部(敷物)平安神宮(錦燈)建仁寺(燈籠)等ナリ

貴顯紳士及各地諸君ノ祝電

五二會全國品評會ノ開會ヲ祝シ且ツ將來益隆盛ニシテ好成績ノ擧ガランコトヲ望ム

五二會全國品評會ノ開會ヲ祝ス

開會ヲ祝ス

盛會ヲ祝シ諸君ノ勞ヲ謝ス

盛會ヲ祝ス

五二會全國品評會開會ヲ祝ス

開會ヲ祝シ益其隆進ヲ祈ル

開會式ヲ祝ス

盛會ヲ祝ス

内閣總理大臣 侯爵伊 藤 博文

農商務大臣 子爵榎 本 武 揚

伯爵松 方 正 義

伯爵佐 野 常 民

九 鬼 隆 一

農 商 務 次 官 金子 堅 太郎

全國各實業團體中央本部

五二會東京本部

五二會東京陶磁器部長 河 原 徳 立

儀 式 開 會 式

開會ヲ祝ス	五二會八王子支部
開會ヲ祝ス	五二會神奈川縣澁器部長
開會ヲ祝ス	田原榮
開會ヲ祝ス	横濱貿易商青年會
開會ヲ祝ス	村上政次郎
開會ヲ祝ス	五二會愛知縣本部
開會ヲ祝ス	五二會愛知縣澁器部
開會ヲ祝ス	守隨鐘三郎
開會ヲ祝ス	神戶實業協會幹事
開會ヲ祝ス	日下芳太郎
開會ヲ祝ス	五二會和歌山縣綿子ル部長
開會ヲ祝ス	高橋貞
盛會ヲ祝ス	五二會大分縣本部
盛會ヲ祝ス	寺川玄徳
盛會ヲ祝ス	在東京 神戶兼松房次郎
盛會ヲ祝ス	在東京 佐賀松尾寛三
開會式ヲ祝ス	在東京 高知井上傳十郎

### 褒賞授與式

五月二十日午前九時褒賞授與式ヲ執行ス其順序并ニ祝詞等左ノ如シ

五二會全國品評會褒賞授與式順序

信號

爆聲二十一發

參會列席者控所ニ入ル

第一信號

着席

第二信號

開始

奏樂 君か代 (此間一同敬禮)

審査總長審査梗概報告

會頭式辭

奏樂

授賞

京都府知事祝詞

京都府會議長祝詞

京都市會議長祝詞

京都商業會議所會頭祝詞

全國五二會本支部長總代祝詞

授賞者總代答辭

主務委員長謝辭

儀式 褒賞授與式

第三信號

終式

奏樂

以上

○

金子審査總長告辭(審査ノ項ニ詳記セルヲ以テ茲ニ之ヲ省ク)

前田會頭式辭(敬啟)

五二會京都本部主動ト爲リ茲ニ全國品評會ヲ開催シタル處東ハ奥羽地方ヨリ西ハ九州ノ端ニ至ルマテ僅々ノ日子ヲ以テ能ク斯ノ如キ出品ヲ爲シ此盛況ヲ見ルニ至リシト實ニ出品人諸君熱心ノ致ス所ニシテ五二會ノ目的ノ一部ヲ達シタルモノト云フベシ爾後此勢ニ乘シ致々忘ルナクソハ五二會ノ品評會ト云ハズシテ品評會ノ五二會ト稱スルニ至ルノ日遠キニアラザルベシト信ズ殊ニ審査員諸君ガ非常ノ熱心ト勉勵トヲ以テ公平ナル審査ヲ遂ケラレタルハ從來ノ博覽會又ハ共進會等ニ見ザル所ニシテ本會ノ爲メ實ニ喜ブ所ナリ尙ホ本日ハ功勞者ノ調査ヲ遂ケ其授賞式ヲモ舉クル豫定ナリシガ未タ調査完結セザルニ由リ更ニ他日ヲ期シテ其式ヲ舉クベシ本日褒賞授與ノ式ヲ舉クルニ當リ一言之ヲ祝ス

山田京都府知事祝詞(知事東上中ノ故ヲ以テ本部書記官代讀セラル)

五二會ハ總ニ本會全國品評會ヲ開キ其出品ニ對シ之ガ品評ヲ定メ本日ヲトシ爰ニ褒賞授與式ヲ行フ本會ハ開創未タ幾年ナラザルモ全國同業者雲從響應製作ノ進歩産額ノ夥多ナル第一回ノ全國品評會ニ於テ其盛ナル已ニ此ノ如シ協同一致以テ其業ヲ研究獎勵スルニアラザレバ其レ能ク此ノ如クナランヤ今ヤ兵戰全捷ノ餘商戰正ニ急ナルノ時ニ當リ本會ノ進歩此ノ如クナルハ國家ノ爲メ大ニ賀スヘキ所ナルヲ信ス敢テ希フ本會ノ力ヲ以テ益々製作ヲ改良シ物産ヲ旺盛ニシ商戰ニ於テモ亦全捷ヲ占メ國力ヲ培シ民富ヲ進メ以テ聖上ノ特恩ニ奉對シ本會ノ旨趣ヲ貫徹セラレシヲ

中村京都府會議長祝詞

客月上旬五二會全國品評會開設以來遠邇ノ來觀者既ニ拾八万六千有餘人出品販賣ノ繁キ拾九万一千有餘点ノ多キニ及ヘリト聞ク豈盛ナラズヤ抑モ五二會ヲ成立セラレシヨリ僅ニ二星霜ニ過ギスシテ今ヤ全國各地ニ支部ヲ設立シ尋テ地方品評會ヲ開設シ協同一致益々産業ヲ振興シテ貿易ノ隆盛ヲ資シ銳意良斷國家ノ殷富ヲ圖ラルハ某等ノ賞讃止マザル所ニシテ這回ノ品評大會ニ三府三十二縣ヨリ出品シ克ク四拾有餘万点ヲ展列シ而シテ其品評ノ結果ハ頗ル良好ナリ特ニ海外貿易品ニ良成績ヲ

顯ハセリト謂フニ至テハ誰カ其進歩ノ廣且大ナルニ駭カザラシヤ蓋シ是レ國運ノ然ラシムルモノアルベシト雖也亦會頭ヲ始メ諸君ガ感奮興起愛國至誠ノ情ニ基クニアラズンバ何チ以テカ能ク爰ニ至ルヲ得ンヤ某等尙ニ信ズ人工ノ妙ハ山ヲモ移スベキナリ諸君ガ成サント欲スルモノハ必ズ他日大成ノ期アルヲ信ズ冀クハ百工ノ技藝ヲ獎メテ益々良品ヲ製作シ機ニ臨ミ變ニ應シ販路ヲ世界ニ需メ以テ富國ノ計ヲ建テラレノヲ聊カ懽詞ヲ陳シテ本日褒賞授與ノ典ヲ慶賀スト云爾

雨森京都市會議長祝詞

凡ソ品評會共進會等ノ効用ハ專ラ物品ノ審査ニ在リ其觀覽者ノ多キ販賣額ノ夥キカ如キ固ヨリ智識ノ交換ニ販路ノ擴張ニ裨益アリト雖也審査ノ周密精敏ニシテ出品者ニ將來製作上ノ改善ヲ謀ラシムルノ最モ緊要ナルニ如カザルナリ今回開設サレタル五二會全國品評會ノ如キ其觀覽人及販賣額ノ多キヲ意想ノ外ニ出テ其盛況實ニ贊稱スルニ餘アリ而シテ特ニ感喜スベキハ審査上ニ於ケル用意ノ周到ナルニアリ彼ノ前田本會々頭金子審査總長ノ懇篤懇切ナル意見ヲ示シ及ヒ精密ナル注意ヲ以テ適當ノ審査員ヲ撰擇サレタルハ他ノ共進會品評會ニ見ル能ハサル所ナリ此ノ如キ組織ニ成リタル審査ハ蓋シ能ク品評會ノ効用ヲ全フシ出品者ガ之ニ因テ將來ニ得ヘキ利益ノ大ナルハ豫メ知ルヘキナリ今日褒賞

授與式ノ盛典ニ列スルヲ得テ聊カ所感ヲ述ベ祝詞トス若シ夫レ此盛會ノ我京都市ニ開カレ製産改善ノ種子ヲ京都市ニ發生シタルノ光榮ハ京都市民トシテ會頭總長ヲ始メ本會關係ノ諸君ニ厚謝スル所ナリ

濱岡京都商業會議所會頭祝詞

國勢既ニ一變シ國運轉振張ス凡百事業ノ經營ハ實ニ刻下ノ急務ナリト雖也就中産業ノ振興ト外國貿易ノ擴張之レ豈ニ國民ガ全力ヲ注テ日夕經營ヲ綴フスベカラザルノ大事業ニアラズヤ前田正名君斯ニ見アリ夙ニ全國ヲ周遊シテ五市治産ノ要ヲ唱道シ鼓舞作興至ラサルナキ以テ國家的各種實業大團體ヲ打成シ會員ノ協力内ニ固シ殖産工藝外ニ振ヒ今ヤ全國品評會開會ノ結果茲ニ出品ノ審査品定テ了ヘ本日ヲトシテ褒賞授與ノ典ヲ舉グルニ至ル豈亦盛ナラズヤ想フニ博覽品評ノ會タル世已ニ定論ノ在ルアリ今茲ニ奴々ヲ要セズト雖也特ニ余カ望ヲ今回ノ舉ニ屬スル所以ノモノハ何ソヤ彼ノ内國勸業博覽會ノ如キ政府ノ事業トシテ其設營久シキニ彌リ出品ノ製作殆ド非年ヲ超ユルモノナキニアラズ換官スレバ物品製作ノ目的一ニ審査其物ノ爲ニセラル、ノ傾キ無キ能ハズ之ヲ設營暇アラズ製作日ナク咄嗟ノ間日常賣賣ノ工藝品ヲ取り來テ優劣ヲ判定スル者ニ比スレバ其審査褒貶ノ數亦多少ノ逕庭ナカルベカラズシテ而シテ是レ工藝家ガ最モ留意スベキノ事タラズ

ンバアラズ噫上ニハ 聖意無比ノ優渥ニ遇ヒ下ニハ各種團體統一ノ機將ニ熟ス五二會ノ前途亦多望ナラズトセズ然リト雖 臣國運ノ振張ハ際涯無ク國勢ノ推移ハ窮極ナシ方今列國對峙ノ間ニ立チ苟モ雄ヲ一方ニ稱セント欲セバ五二會今日ノ發育亦草木ニ於ケル花ヲラシノミ結實ノ遠遠ニ至テハ夫レ何レノ時ヲカ期センヤ余不肖ナリト雖 臣亦任ニ實業一機關ノ董督ニ在リ希クハ諸君ト共ニ提携輔翼以テ國家万一ノ報効ヲ致サンコトヲ式ニ臨ンテ所思ヲ述ベ祝辭ニ代フ

全國五二會本支部總代千葉常男君祝詞

茲ニ五二會全國品評會ノ審査結了シ本日ヲトシテ褒賞授與ノ典ヲ舉ケラレ某等又其末班ニ列スルコトヲ得何ノ光榮カ是ニ如ク抑モ五二會ノ成立セシヨリ未タ三裘葛ヲ經ザルモ若々其歩武ヲ進メ殊ニ五二會ノ目的ヲ遂行スルノ一手段トシテ品評會ヲ各地ニ開催セシニ其結果孰レモ好成绩ヲ得テ遂ニ本會ノ如キ盛舉ヲ見ルニ至リタリ某等竊ニ欣喜ニ堪ヘズ夫レ五二會ノ爲スベキ事業管ニ品評會ノ一事ニ止ラスト雖 臣物産ノ獎勵發達ヲ期シテ販路ノ擴張ヲ謀リ粗製濫造ノ弊害ヲ匡正スルノ方法ニ至リテハ品評會ノ力與リテ大ナリト謂ハザルベナラズ蓋シ五二會品評會開設ノ趣旨亦茲ニアリテ存ス惟フニ方今天下多事實業ノ振興ハ一日モ忽ニスベカラズ而カモ其責務ハ五二會員ノ肩上ニ集ヘリ庶幾クハ如今

益奮勵努力シ上 皇室ノ恩典ニ酬ヒ奉リ以テ某等ノ責務ヲ盡サンコトヲ聊カ所思ヲ陳ベテ祝詞ニ代フ

出品人總代飯田新七君答辭

爰ニ本日ヲ以テ褒賞授與ノ典ヲ舉ケラレ前田會頭閣下其他來賓諸賢交、祝規ヲ資ハル某等感銘ノ至ニ堪ヘザルナリ抑モ博覽會品評會等ニ尙ア所ノモノハ審査ニアリ儻シ審査ニシテ其方針ヲ誤リ其正鵠ヲ失フコトアラシカ當ニ斯業ニ益ナキノミナラズ其弊遂ニ出品ヲ厝シトセザルニ至ル何ヲ以テカ開會ノ目的ヲ達センヤ 總キニ一タビ本會ノ開催ヲ告グルヤ各地先チ爭ヒ之ニ會ス百貨豐盛皆以テ豫想ニ倍スト爲ス豈他アラシヤ一ニ本會ヲ信スル深ク審査ヲ重ンズル厚キニ由ルノミ 今ヤ此光榮アル式場ニ於テ内貴委員長ハ其授賞人名ヲ報告セラル某等賞格ニ上ルモノ之ニ安ンセスシテ而シテ益、勵ニ撰ニ漏ル、モノ之ニ省ミテ而シテ愈、奮ヒ以テ將來ノ發達大成ヲ圖ランコトヲ期ス 茲ニ恭シク一言ヲ述ベ以テ答辭トス

内貴主務委員長謝辭

儀 式 褒賞授與式



曩ニ前田會頭天下尙ホ未ク五二會ノ必要ト其利益トヲ知ラザル者多キヲ慨シ本會員ニ告  
 シルニ須ラク五二會其物ノ働キヲ周知セシムベキヲ以テシ且ツ其方法ヲ示サル曰ク五二  
 會品評會ノ開催曰ク五二會各業ノ會社設立曰ク海外輸出見本品ノ取扱ト是レ吾人ガ當時  
 諸君ト共ニ服膺セル所ナリ而シテ爾後齊シク之ガ厲行ヲ庶幾シツ、アリシガ今ヤ就レモ  
 其緒ニ就キ殊ニ品評會ニ至テハ既ニ東西各地ニ開催セラレ毎會幾多ノ効果ヲ收メザル無  
 ク次テ今回本品評會ノ舉ノ如キハ去秋五二會京都物産品評會開催當時ニ於ケル京都五二  
 會臨時大會ノ決議ニ基キ第五回内國勸業博覽會ヲ五二會ノ事業トシテ開設希望ノ地ヲ爲  
 サンガ爲メ京都本部其主動トナリ汎ク各地本支部ノ賛同補助ヲ乞ヒ以テ大ニ其規模ヲ擴  
 張シ將ク童ニ實利實益ヲ以テ目的トシ從來ノ博覽會共進會等ト全ク其趣ヲ異ニセル一種  
 ノ民設博覽會ノ模型ヲ茲ニ畫出センコトヲ勉メリ然ルニ惜哉準備經營充分ノ日子ヲ得ラレ  
 ザリシガ爲メ遂ニ當初希望ノ一半ヲ達スル能ハザリシ然レモ圖ラザリキ此舉ヤ幸ニ朝野  
 諸賢ノ嘉賞セラルハ所トナリ頓ニ本會ノ名聲ヲシテ江湖ニ顯揚セシムルニ至リ茲ニ本日  
 ナ以テ名譽アル貴賓ノ臨場ヲ仰キ褒賞授與ノ典ヲ舉グルヲ得タリ本會ノ光榮亦何ゾ如カ  
 ノ而シテ其茲ニ至ル所以ノモノハ是レ偏ニ前田會頭多年盡瘁誘掖ノ然ラシムル所ト雖モ  
 亦各本支部諸君勵精銳意ノ効果ニ外ナラザルナリ冀クハ諸君尙益奮勵シ苟モ今日ノ此一

階段ニ安スルナク年來ノ企畫ニ據リ遂達ナル前途各般ノ事業ニ對シ奮テ其大成ヲ期セラ  
 レンコトヲ敢テ燕辭ヲ願ヒス聊カ所思ヲ陳シテ謝辭ニ代フ

内貴主務委員長ノ席ニ復スルヤ前田會頭ハ再ビ起テ

本會開催ニ就テハ京都市會及市參事會ノ諸君ハ非常ニ盡力セラレ農商務省ニ於テハ大臣  
 次官局長書記官技師等大ニ本會ヲ助ケ且ツ本會ニ臨ミテ獎勵ヲ與ヘラレ兩本願寺門主ハ  
 各地巡錫ノ際本會ノ爲メ間接ニ助力ヲ與ヘラレ各新聞社ハ本會ノ記事ヲ掲ケテ實業獎勵  
 ナ勉メラレタル等ノ結果ニヨリ斯ノ舉ノ盛大ヲ期スルニ至リタルモノニテ本會員一同ノ  
 深ク満足スル所正名本會ヲ代表シ謹テ謝意ヲ表ス

トノ趣旨ヲ陳ベ擅田農商務書記官ハ審査總長ニ代リテ挨拶ヲ爲シ是レニテ式全ク終リヌ時  
 ニ午前十一時トス

右ニ掲クル式目中審査總長審査梗概報告ノ項ハ故アリテ之ヲ省キ且金子總長公務ノ支障ヲ  
 以テ臨場セラレザリシカバ擅田書記官代リテ其告辭ヲ朗讀セラレ又褒賞授與ノ件モ之ヲ略  
 シ唯内貴委員長受賞人名(以上牌)ヲ報告シタルニ止レリ

當日參列ノ爲メ招待狀ヲ發シタルハ開會式ニ於ケルト同一ナレモ出品監理委員審査部役員  
 及審査委員等ヲ加ヘタルハ開會式ニ比シテ更ニ其數ヲ増シ總計千四百九十二名ニ及ベリ

式場ノ裝飾ハ上段一面金屏風ヲ展列シ幔幕及緞帳ヲ盛裝シ柱梁咸ク綠葉ヲ以テ之ヲ纏ヒ花紋ヲ点綴シ懸クルニ徽章旗旭旗ヲ交叉シタルモノヲ以テス又正門及中門ニハ同シク綠葉ヲ飾リ屋上ハ左右高樓ノ尖頭ヨリ網ヲ四方ニ張りテ之ニ無數ノ球燈及旭旗ヲ吊シ以テ其遠望ヲ壯ニセリ唯憾ムラクハ此日風塵威ヲ交ヘ春和景明ノ情ヲ舒フル能ハス茲ニ挿メル該寫眞ノ鮮明ヲ缺クモ亦此レガ爲ノミ

是ヨリ先キ式事委員ハ十七日午後京都俱樂部ニ會シテ種々協議スル所アリ又其分擔ヲ定ムル開會式ノ時ノ如クシ翌十八日ヨリ諸員一同現場ニ出張シテ事ヲ督セリ

式場裝飾用トシテ所藏ノ物品ヲ貸與セラレタルハ大谷派本願寺(金屏風、幔幕)、本派本願寺(金屏風、幔幕、平安神宮(繡幕)、京都俱樂部(敷物)、野口覺兵衛君(卓被及式場一切ノ緞運)、兵庫縣出品事務所(敷物)、平野吉兵衛君(花瓶及花臺)、等ナリ

各地祝電

五二會全國品評會褒賞授與式ヲ祝ス

品評會褒賞授與式ヲ祝ス

謹テ五二會全國品評會褒賞授與式ノ盛典ヲ祝ス

授與式ヲ祝ス

授與式ヲ祝ス

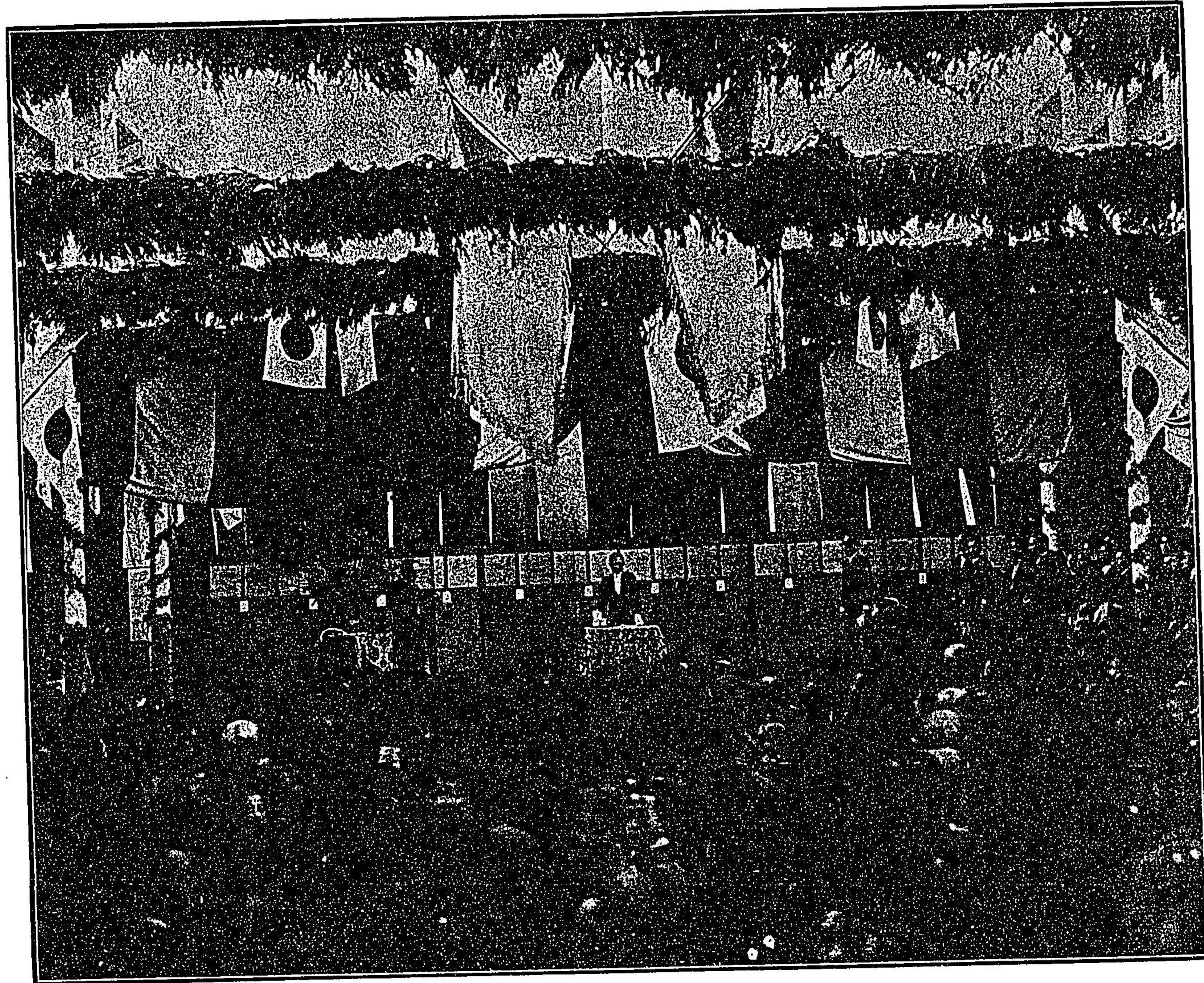
五二會和歌山縣本部

大分縣書記官 中村 與八

三 重 縣 堀木 忠太郎

五二會和歌山縣綿子部長 高橋 貞

五二會愛知縣本部理事 井上 茂平



獎賞與式

褒賞授與式ヲ祝ス  
授與式ヲ祝ス  
授賞式ヲ祝ス

和歌山縣岩根徳次郎  
全 林善助  
堺 大西晋一 耶

### 閉會式

五月三十日閉會式ヲ舉行ス其順序並ニ祝辭等左ノ如シ

五二會全國品評會閉會式順序

第一信號

着席

第二信號

開始

奏樂

會頭式辭

主務委員長事務報告

出品人總代祝辭

奏樂

(一同敬禮)

會頭ノ唱道ニ依リ

儀式 閉會式

天皇皇后兩陛下ノ萬歲ヲ奉祝シ

次ニ五二會ノ萬歲ヲ祝ス(一同拍手)

第三信號

終式

奏樂

○ 前田會頭式辭(演述)

爰ニ五二會全國品評會ノ閉會式ヲ舉ク凡ソ天下ノ事一朝ニシテ成ルモノニアラス今本會  
 ガ斯ノ如ク好成績ヲ以テ目出度閉會ノ式ヲ舉クルヲ得タルハ一ニ諸君ガ一時ノ虛名ヲ  
 願ハズ眼前ノ小利ニ趨ラス深ク遠大ノ目的ト誠實ノ方針トニ由リテ事ニ茲ニ從ヒシ結果  
 ニ外ナラザルナリ儼シ之ニ反シテ諸君ノ心術唯自營ニ汲々タルモノアラソカ本會ノ名譽  
 ハ一タビ地ニ墜チテ復タ拾收スベカラザルニ至リシヤモ知ルベカラズ實ニ諸君ノ一舉一  
 動ハ直チニ以テ五二會ノ名譽ニ關シ國家産業ノ盛衰ニ影響スルモノナレバ居常備々トシ  
 テ此ニ注意戒慎ヲ加ヘサルベカラズ諸君冀クハ今後再ヒ此門ヲ開クノ日即チ次回ニ來ル  
 ベキ博覽會品評會共進會等ニ於テハ復ニ今日ヲ願ミテ十倍ノ進歩ヲ表シ愈益五二會ノ眞  
 目的ニ適中シタルモノ、開會ヲ見ルニ至ラノコト切望ノ至ニ堪ヘザルナリ今閉會ニ臨ミ

祝ニ代フルニ規ヲ以テス是レ余ノ大ニ祝スル所以ナリ

内貴委員長報告

五二會全國品評會本日ヲ以テ豫定ノ會期ヲ了リ茲ニ閉會ノ式ヲ舉ク而シテ結果圓滿其賸  
 蓋シ觀ルベキモノアリ曩ニ去四月一日開會ノ際ニ當リ本會規則第一條ノ主旨ニ由リ之ニ  
 賛同セラレタルモノ三府三十二縣此出品人員三千五百餘人其出品点数四十八萬餘点同價  
 額三十四萬餘圓之レガ陳列間數二千二百餘間會場ノ總面積四千五百五十坪ニシテ開會六  
 十日間ニ於ケル來觀ノ人員二十餘萬人出品賣却ノ点数十九萬餘点同上賣價十三萬餘圓又  
 其審査ノ結果受賞セラレタル者二千二百五十二人内進歩有功等ノ金牌三十三人進歩有功  
 協贊特別等ノ銀牌二百七十三人同上銅牌五百九十九人褒狀一等七百人同二等六百四十七  
 人ノ多キヲ致セリ

願フニ今回ノ舉ヤ未ダ晉テ其實驗ヲ經ザル一種ノ民業的博覽會ノ規畫ニ出テ且ツ一モ政  
 府其他ノ補助ヲ仰ガズ單ニ本會員一致共同自治ノ學業ナルヲ以テ其結果如何ハ當初窺ニ  
 戒慎スル所ナリシガ幸ニ當局諸君ノ勵精ニ依リ措置百端序ヲ追ヒ順ニ隨ヒ今ヤ全ク圓滑  
 無事ノ裡ニ之ヲ了リ殊ニ前述ノ盛況ヲ極メ就中出品点数ノ如キ其販賣額ノ多キ孰レモ第  
 四回内國勸業博覽會ノ當時ニ超越シ其他亦敢テ之ニ讓ラサルノ諸点ヲ認メ稍ヤ本會ノ技

備ヲ示シ本邦民設博覽會史ノ創世紀ヲ爰ニ印スルヲ得タリ是レ實ニ本會ノ榮トスル所深  
 シ諸君ノ熱誠ヲ謝セザルベカラザル所ナリ  
 不肖甚三耶適本會主動ノ地タル京都本部ニ長タルノ故ヲ以テ乏ヲ本會主務委員長ニ承ケ  
 是ニ終始シ諸君ト俱ニ此盛事ニ邁フ欣喜又何ノ堪ヘン依テ今其式ニ隨ヒ聊カ會務ノ概要  
 ナ報ヲ謹テ謝意ヲ表ス

出品人總代鈴鹿辨三郎君祝辭

渺茫タル大洋ノ能ク長鯨ヲ畜ヒ能ク巨艦ヲ簸弄スルモ素ト是レ一掬水ノ集レルニ外ナラ  
 ズ甚矣哉衆力ノ大勢ヲ成スヤ  
 願フニ我カ五二會タル之ヲ三開年ノ前ニ溯ルニ宛ント潺湲タル一溪流ニ過キスト雖巨而  
 モ混々沌々萬馬ノ奔騰スルカ若ク一瀉千里今ヤ實ニ國家ノ重キヲ洪ユベキ大海ヲナス寧  
 ヲ風潮ノ由ル所ヲ知ラザルベケンヤ宜ナル哉五二會全國品評會ノ一舉其績ヲ奏シ優ニ天  
 下ノ耳目ヲ聳動シタルヲ蓋シ品評會ハ五二會ノ目的ヲ達スルニ於テ有力ナル一ノ方法ト  
 ス而シテ其結果能ク世人ヲシテ首肯セシメタルヲ思ヘバ誰カ復タ五二會ノ前途ヲ遼遠ナ  
 リト云ハンヤ是レ偏ニ前田會頭閣下ノ督勵其宜キヲ得タルト主動者京都本部ガ自ラ五二  
 會ノ歴史地タルヲ省ミ以テ全幅ノ熱誠ヲ傾注シタルノ致ス所ニ由ラズンバアラズ爰ニ第

四回内國勸業博覽會ノ開設セラレントスルヤ論者之ヲ民業ニ委セント云フモ世尙以テ早  
 シトスルモノ少カラズ今五二會全國品評會ノ實驗ニ觀朝野始メテ其機運ノ漸ク熟スルモ  
 ノアルヲ察スベシ吾儕五二會員タル者豈努メザルベケンヤ茲ニ閉會式ニ當リ謹テ祝辭ヲ  
 陳ス

最後ニ前田會頭ハ肅然起立シテ  
 天皇皇后兩陛下ノ萬歲ヲ奉祝シ次ニ五二會ノ萬歲ヲ唱ヘラレ衆一齊之ニ和シ茲ニ全ク其閉  
 會ヲ告ゲタリ  
 式場地ハ餘興福引施行ノ場所ニ充テタルヲ以テ閉會式場ハ俄ニ會場ノ入口タル大通路ニ假  
 設シ敢テ裝飾ヲ須非ズ又當日ハ別ニ諸賓ヲ招待セズ僅ニ本會役員及出品監理委員ノミノ參  
 列ニ止メタリ祝電一二ヲ左ニ掲グ

無事閉會ヲ祝ス  
 閉會ヲ祝ス  
 閉會ヲ祝ス

全國各實業團體中央本部  
 五二會大阪本部  
 在大阪梅川徳三耶





會 場 正 面



## ○會場

會場ニ就キテハ既ニ陳フルカ如ク舊第四回内國勸業博覽會工業館ヲ借用シ得ルノ目的ヲ以テ其規模ヲ定メタルモノナレハ工業館ノ存否ハ直チニ以テ本會ノ企畫ニ大影響ヲ與フモノナリ故ニ當初同館拂下ノ議緊迫セルニ際シ我カ京都本部ハ頻々各種部長會議ヲ開キテ熱心同館ノ維持ヲ勉メ遂ニ三月十一日ヲ以テ曩ニ提出シ置キタル拜借願ヲ許可セラル、ニ至レ

市指第二三號

五二會京都本部長 内 貴 甚 三 郎

明治廿九年一月十九日願元第四回内國勸業博覽會工業館并ニ庭園及附属建設物使用ノ件開届ク

但建物又ハ庭園ヲ毀損セシキハ相當ノ補償ヲ爲スベシ

明治廿九年三月十一日

京都市參事會

京都府知事 山田信道 印

是ニ於テ會場始メテ定マリタルヲ以テ着々之レカ準備ヲ整ヘンカ爲メ更ニ其引渡願ヲ出シ

十六日市參事會ヨリ左ノ通牒アリ茲ニ其授受ヲ了シタリ

舊第四回内國勸業博覽會工業館及附属建物庭園引渡ノ爲メ本日午後一時屬二名出張爲  
致候條貴部ニ於テモ同時刻迄ニ該場ニ出張相成候様致度此段及照會候也

明治廿九年三月十六日

京 都 市 參 事 會 印

五二會京都本部御中

依テ即日右ニ對スル請書ヲ出セリ今之レニ添ヘタル目錄ヲ掲ケ以テ該借用物件ノ數ヲ示サ

目 録

一 工業館	壹 棟
一 工業館中庭	壹 式
一 吾妻屋	壹 棟
一 湯吞所	壹 棟
一 便所	拾貳ヶ所
一 裏門	壹ヶ所
一 車置	壹 棟
一 巡查派出所	壹 棟

一 立番所

四 個

一 揭示場

四ヶ所

右ニ對スル鍵及錠

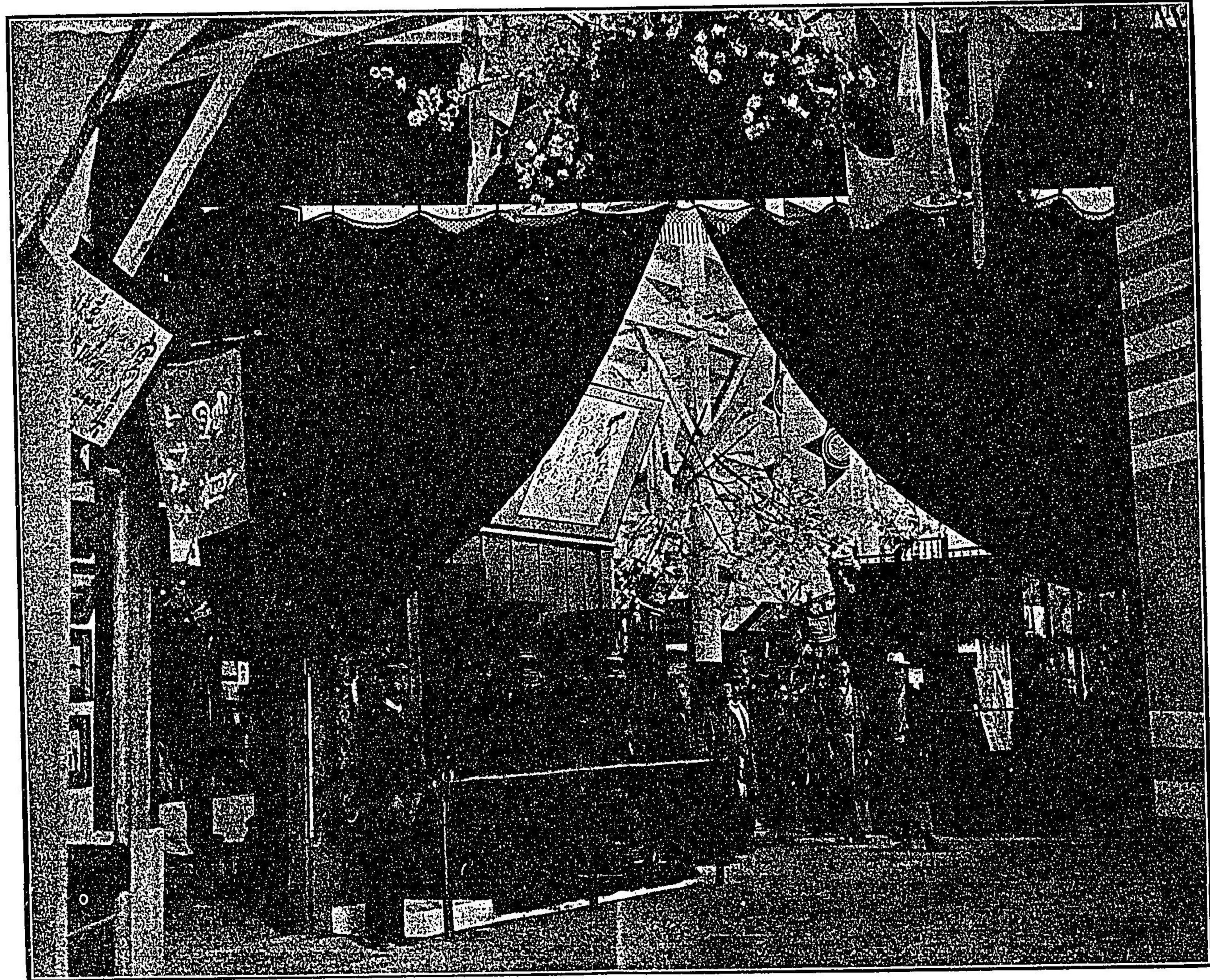
以上

此外同月二十三日附舊事務局通用門ヲ通行シ及事務所標札ヲ掲クルノ件同二十四日附庭園  
用捨床几拜借ノ件四月一日附正門前噴水使用ノ件等ヲ請願許可セラレタルアリ

工業館ノ位置面積等ハ世人ノ既ニ熟知スル所ナルヲ以テ今復茲ニ之ヲ贅セス唯其附属建物  
ニ就キテハ幸ニ舊湯吞所ノ一棟ヲ存スルアリ依テ本會ハ同棟中元商工人溜ノ一室ヲ以テ事  
務所ニ充テ其隣室ヲ上局ニ又其次室ヲ應接所及醫員出張席等ニ兼用シ小使室ヲ小使人夫及  
守衛等ノ詰所トナシ以テ僅ニ事ヲ辨スルヲ得タリ而シテ審査部ハ他ニ充用スヘキ室ナキニ  
依リ會場東館高樓下ノ階上階下ヲ以テ之ニ定メタリ

出品荷解ニ就キテハ西北館ノ一隅即チ式場ノ爲ニ設ケタル餘地ヲ以テ之ニ充テタリト雖モ  
多クハ場外ニ於テ隨意其出品ヲ整理シ而ル後之ヲ搬入シタルカ如シ  
會場内外平常ノ裝飾ニ就キテハ別ニ造作ヲ用非ス唯表裏兩門ニ各大國旗ヲ掀懸シ東西二館  
ノ大入口ニ會名ヲ大書セル扁額ヲ掲ケ之ニ國旗ヲ交叉シタルト場内天井ニ適宜細線ヲ張り

之ニ無地七色或ハ徽章七色染抜ノ矢筈形小旗ト球燈トヲ交互ニ吊繩シタルノ類ニ過キス其  
他陳列ニ關スル裝飾ニ至テハ総テ出品者各自ノ施設ニ一任シタリシニ皆相競フテ巧匠ヲ凝  
シタリ但褒賞授與式執行後該式場ヲ毀テ其板園ヲ撤シタレハ新ニ露出セル各縣陳列區ノ入  
口ニ華冠ノ裝飾ヲ施シ其采觀ヲ添ヘシメタリ



會場內一部一班

## ○會場内外ノ設備及取締

會場ノ取締ハ出品及會計部主務委員ニ於テ守衛並ニ場内取締ヲ指揮監督シ各其規程ニ據リ内外一切ノ取締ニ從事セシメ又允請巡查憲兵警察醫等ノ出張アリ以テ警備衛生ノ事ヲ處辨セリ依テ右ニ關スル要項ヲ左ニ摘録ス

守衛。ハ開會十五日前ヨリ爾後開會ニ至ルマテ漸次數名ヲ採用シ四月一日開會後増員シテ合計十四名トナシ閉會後一週日以内ヲ期シ漸次其全員ヲ解雇セリ但此外從來在勤中ノ參事會守衛四名ニ開會中公務ノ餘暇ヲ以テ其補助ヲ囑托シタリ

場内取締。ハ一二名ヲ除クノ外他ハ皆開會後ニ於テ總計十五名ヲ採用シ閉會當日殆ント其全員ヲ解雇セリ

守衛及場内取締ノ志願者。ニ就キテハ相當ノ試験ヲ以テ之ヲ採用シタルモ第四博覽會ニ於テ守衛或ハ監護人ヲリシ者ノ多數ヲ占メタルハ特ニ好便アルヲ得タリ

給仕。ハ僅ニ一名ヲ置クノミ是レ亦博覽會給仕ノ履歷アリテ奔命能ク辨セリ

小使。ハ三名乃至四名ヲ置キ審査開始後ハ内一名ヲ同部ニ分テリ

巡查。ノ數ハ晝夜各六名計十二名ニシテ上京區河原町警察署ノ派出ニ係リ三月廿七日ヨ

リ六月七日ニ至ル七十三日間允請巡查規則ニ據リテ其費用ヲ支辨セリ  
 醫員ハ無給ニシテ河原町警察署ノ厚意ニ出テ警察醫三名交番ヲ以テ四月七日ヨリ閉會  
 ニ至ルマテ毎日午後出張セラレタリシモ季節ノ未タ暑ニ到ラサルト惡疫等ノ流行ナキト  
 ナ以テ曾テ一人ノ患者ヲモ發生シタルナシ  
 憲兵 派出ニ就キテハ四月二日ヲ以テ第四憲兵隊京都分隊首部へ請願シタルニ翌三日其  
 旨管轄屯所長へ通報セリトノ回示ニ接シ次第取締上便宜出張セラル、ニ至リ正門前横手  
 ニ其休憩所ヲ設ケタリ  
 飲用水 ハ湯呑所附近ノ井水ヲ供用シ又場内へ便所五ヶ所ヲ増設シ日々消毒防臭劑等ヲ  
 撒布シ其掃除ヲ嚴行セシメタリ  
 徽章 佩用者及ヒ一般來觀人ヲ除ク外諸種ノ入場者ハ一時通券及門鑑ヲ定メテ其取締ヲ  
 ナセリ  
 但徽章ノ佩用ハ本會職員ニ限ルノ定メナリシ  
 出品搬出 ハ告知第六號ヲ以テ其手續ヲ定メ門衛ヲシテ其証票ヲ點檢セシメタリ  
 各館 及ヒ入口開閉ノ時限ハ告知第五號ヲ以テ之ヲ定メ各號鈴ヲ發聲シテ之ヲ知ラシメ  
 特ニ各館閉扉ニハ主鈴ニ命シテ場内ヲ疾走シツ、其號鈴ヲ傳ヘシメタリ

開會式前 三月廿九日ヲ期シ陳列及諸般ノ整理ヲ完了スヘキ旨告知第三號ヲ以テ豫告シ  
 置キタルモ遠地ノ出品未ダ到着セサルモノアリ而シテ京都府專有ニ係ル東館及西館中其  
 大部ヲ占メタル愛知大阪及京都雜貨部ノ陳列ハ悉皆三十一日ヲ以テ其整備ヲ告ケ式場裝  
 置ノ如キモ同日午後ヨリ着手シ特ニ注意ヲ加ヘテ燭ヲ秉リ殆ト夜ヲ徹シテ之ヲ整へ開會  
 後一週内外ニ及ヒテハ出陳充盈全館復タ立錫ノ地ヲ餘サ、ルニ至レリ  
 會場内外 ノ洒掃修繕其他ノ使役ニハ常詔大工及人夫掃除婦等アリテ出品會計ノ二部之  
 ヲ監督シ大工ハ二名乃至三名人夫掃除婦ハ一日計十五名宛ト定メタリ

### 事務所宿直心得

- (一) 宿直ハ出品部若クハ會計部中主務委員一名事務員二名守衛二名場内取締三名小使二名ヲ以テ定員トス
- (二) 宿直主務委員ハ宿直全体ノ事ヲ監督スルモノトス
- (三) 宿直主務委員ハ各館ノ鍵ヲ管理シ翌朝守衛ヲシテ開館セシメタル後其日ノ宿直ニ引繼ヲ爲スヘシ
- (四) 宿直主務委員及事務員ハ閉館後便宜各館ノ周圍ヲ巡視シ烈風等ノ場合ハ特ニ守衛以下ニ

- 注意シ火元其他ノ取締ヲ嚴重ニ爲スヘシ
- (五) 宿直主務委員ハ出火近火其他暴風雨等異常ノ事アルトハ宜シク臨機ノ處置ヲ施スベシ
- (六) 宿直守衛場内取締ハ自己ノ服務ヲ守ルハ勿論常ニ主務委員ノ命令指揮ヲ承順スヘシ

### 守衛勤務規程

#### 第一項

本會々場守衛ノ爲メ守衛長一名守衛番長若干名守衛若干名ヲ置ク

#### 第二項

守衛長ハ出品部及會計部主務委員ノ指揮ヲ受ケ守衛番長守衛ヲ督シ各門各館ノ開閉監守並ニ入場券物品搬出証ノ回收ニ従事ス

守衛番長ハ守衛長ノ指揮ヲ受ケ守衛ハ守衛長守衛番長ノ指揮ヲ受ケ各其事務ニ従フ

#### 第三項

各門ノ鍵ハ守衛長ニ於テ管理シ又其開閉號鈴ハ守衛長之ヲ守衛番長ニ命シ鳴鈴セシムルモノトス

#### 第四項

守衛ハ毎日午前七時ニ出勤シ開門二十分前ニ各其詰所ニ到ルヘシ

#### 第五項

毎朝出勤ノ際ハ出勤簿ニ捺印スヘシ若シ病氣其他ノ事故ニ依リ欠勤スルトハ必ス出勤時間前ニ届出ツヘシ

#### 第六項

宿直ノ際ハ館外飲食店其他ノ火氣ニ注意シ且ツ絶エズ館外ヲ巡視スヘシ但徹夜勤務ノトハ宿明休暇ヲ與フルコトアルヘシ

#### 第七項

服務中ハ姿勢ヲ正シ縦覽人ニ對シテハ懇切ニ之ヲ遇シ毫モ侮慢ノ舉動アルヘカラス

### 場内取締勤務規程

#### 第一項

本會々場内取締ノ爲メ場内取締長一名場内取締若干名ヲ置ク

#### 第二項

場内取締長ハ本會出品部主務委員ノ指揮ヲ承ケ場内取締ヲ督シ各館内ニ於ケル諸般ノ取締





備セラルヘシ

七一

### 告知第四號

本會開會中ハ京都貿易銀行ニ囑シ同行員ヲ日々會場内へ出張セシメ金錢ノ取扱ヲ爲サシム

### 告知第五號

#### 會場開閉號鈴

- |    |         |        |
|----|---------|--------|
| 第一 | 午前七時三十分 | 各館開扉二聲 |
| 第二 | 全八時     | 入口開門三聲 |
| 第三 | 午後五時    | 入口閉門三聲 |
| 第四 | 全六時     | 各館閉扉連聲 |

#### 監護人出場時間

一出品者ハ連日開場ノ際監護人ヲシテ第一號鈴午前七時三十分迄ニ必ス「大通路北手入口」ニ參列セシメ而シテ其閉場ノ際ハ第四號鈴午後六時後ニアラサレハ退場セシムヘカラ

ス

### 告知第六號

#### 出品搬出手續

- (一) 出品者又ハ監護人ニ於テ出品ヲ賣却シタルトハ直チニ代金ヲ受取リ該物品ノ附札賣價ノ項ニ証印ヲ捺シ該品搬出ノ証トシテ購買者ニ交付シ其出場ノ際之ヲ門衛ニ渡サシムヘシ
- (二) 出品者都合ニ依リ既ニ出陳ニ係ル物品ヲ持歸ラントスルトハ該出品ノ番號品名並ニ其事由等ヲ明記シ出品部主務委員ニ搬出ノ証ヲ求ムヘシ
- (三) 以上二項ノ搬出証アラサルトハ門衛ニ於テ一切其搬出ヲ拒止ス  
又門衛ニ於テ查收シタル搬出証ハ其品名ノ項ニ認印ヲ捺シ時々之ヲ出品部へ回付スルモノトス

### 揭示

- 第一 開會中其開閉時間左ノ如シ  
午前八時開場午後五時閉場

會場内外ノ設備及取締

告知 揭示

七三

→→ { NOTICE } ←←

1. The exhibition will be opened at 8 A.M. closed 5 P.M. from April 1st. to May 30th.
2. Visitors shall deliver the admission tickets to the porter when entering.  
Children under 10 years of age will be freely admitted.
3. Each visitor shall pay 3 sen for the admission ticket.
4. Visitors who have either a special ticket or a certificate of the exhibition shall show it to the porter when entering.
5. Visitors who have made any purchases shall receive a bill for the goods and show it to the porter when they leave the place.
6. No insane or intoxicated person will be admitted even if they are provided with an admission ticket, such a person who has already entered, will be demanded to the place.
7. No visitor will be allowed to enter the exhibition with a package or an animal.  
(canes, umbrellas, and small hand bags excepted.)
8. Any one who makes quarrel or any other disturbance shall instantly be dismissed.
9. No smoking is allowed within the buildings.
10. Visitors are not allowed to touch the exhibited things without the permission of the exhibition.

會場内外ノ備設及取締

英文揭示

七五

英文揭示

- 但都合ニヨリ時間ヲ伸縮スルコトアルヘシ
- 第二 來觀人ハ入場ノ節入場券ヲ門衛ニ渡スヘシ  
但十歳未満ノ兒童ハ此限ニアラス
- 第三 入場券ハ一枚金參錢トス
- 第四 特別券又ハ本會ノ証票ヲ所持スル者ハ入場ノ節之ヲ門衛ニ示スヘシ
- 第五 出品ヲ購買シタルトハ其際物品ノ門出券ヲ受取り出場ノ節之ヲ門衛ニ渡スヘシ
- 第六 入場券ヲ持參スル者ト雖モ狂癪又ハ酩酊者ト認ムルトハ入場ヲ許サス或ハ退場セシムルコトアルヘシ
- 第七 荷物ヲ携帶シ又ハ引繩ヲ附セサル畜類ヲ連レ入場スルヲ許サス  
但杖輻輳傘又ハ手提鞆等ハ此限ニアラス
- 第八 場内ニ於テ喧嘩口論ヲ爲シ又ハ喧器スルモノハ直チニ退場セシムヘシ
- 第九 場内ニ於テ吸烟ヲ禁ス
- 第十 總テ監護人ノ承諾ナクシテ猥リニ列品ニ手ヲ觸ルベカラス

七四

### 入場券賣捌

入場券賣捌方ニ就キテハ出願者數名ニ及ヒタルモ身元最モ確實ナルモノヲ撰擇シ遂ニ之ヲ藤原竹次郎ニ許可シ右賣捌手續ニ關シテ左ノ誓約書ヲ徴セリ

#### 誓約書

京都市上京區西洞院通押小路下ル

人夫受負業 藤原竹次郎

私儀來四月一日ヨリ御開設可相成五二會全國品評會入場券賣捌方御許可ヲ蒙ル上ハ左記ノ條項堅ク相守可申候

- 一 入場券ハ貴會御規則第十四條ノ定價ヲ以テ賣渡ス
- 一 開會中身元保証金トシテ五拾圓ヲ貴會ニ差出シ置ク
- 一 開會中入場券賣捌取扱人ハ相當ノ者ヲ撰定シ日々六名宛ヲ派出スル
- 一 入場券賣捌手数料ハ賣券高二十分ノ一ヲ申受クル
- 一 入場券賣上高ハ日々閉場ノ節會計部ニ納付シ若シ賣上高入場券ニ照ラシテ不足アルモハ之ヲ賠償スル
- 一 入場券賣捌ハ深切敏捷ニ取扱ヲ爲シ萬一不都合アルニ於テハ保証金ヲ沒收セラレモ苦シカラサル

右誓約如斯ニ候也

明治廿九年三月

五二會全國品評會

主務委員長 内 貴 甚 三 郎 殿

入場券賣捌ハ正門前ノ左右ニ設ケタル賣下所ニ於テ之ヲ扱ヒ裏門ニモ亦一ヶ所ヲ置キ新古美術品展覽會トノ交通ニ便シ會計主務委員時々巡廻シテ之ヲ監視セリ  
入場券ハ翌日賣捌クヘキ概數ヲ其前日ニ交付シ賣上高計算ノ際剩餘ノ分ヲ返付セシメ其受授勘合ハ一定ノ書式ニ據リ最モ簡便ノ方法ヲ用非ナリ

### 構内諸營業

本會構内ニ於テ飲食店休憩所等ノ營業ヲ出願セル者前後十數名ニ及ヒタルモ徒ラニ庭園ノ風致ヲ損シ且ツ競争ノ弊ヲ生センコトヲ恐レ僅ニ其適當ト認ムル者二三ヲ許スニ止メ他ハ皆一切拒絶ニ付シタリ今其業目姓名ヲ舉クレハ左ノ如シ

#### ◎ 休憩所

京都市下京區繪藥師通高介西

茶菓 但客ノ望ニヨリ葡萄酒、麥酒、茶菓ビール、ラム子、麵包ヲ製ク

京都園藝業組合 財 津 忠 藏

會場内外ノ設備及取締

入場券賣捌

構内諸營業

◎園藝品賣捌所

盆栽各種陳列

此建物ハ右園藝組合ニ於テ第四博覽會開設ニ際シ園藝場兼休憩所ノ目的ヲ以テ建設シタル所ニ係リ同會後京都物産品評會ヲ經テ今回亦該營業ヲ出願シタルモノナリ同建物中曾テ玉座ニ供セル遊蹟アリ結構瀟灑庭中建造物ノ第一ニ位ス

◎飲食店

京都市上京區新町通中長者町角

平井 治右衛門

大名蕎麥

菓子、ラム子、御酒ノ類

是レ亦博覽會中營業セルモノニシテ大名蕎麥ノ名夙ニ人ノ知ル所ナリ別ニ茶室一棟アリ清楚賓客ノ小憩ニ適セリ

◎飲食店

京都市下京區四條通醜ヶ井角

三宅 金次郎

辨當 握、壽司、即席料理

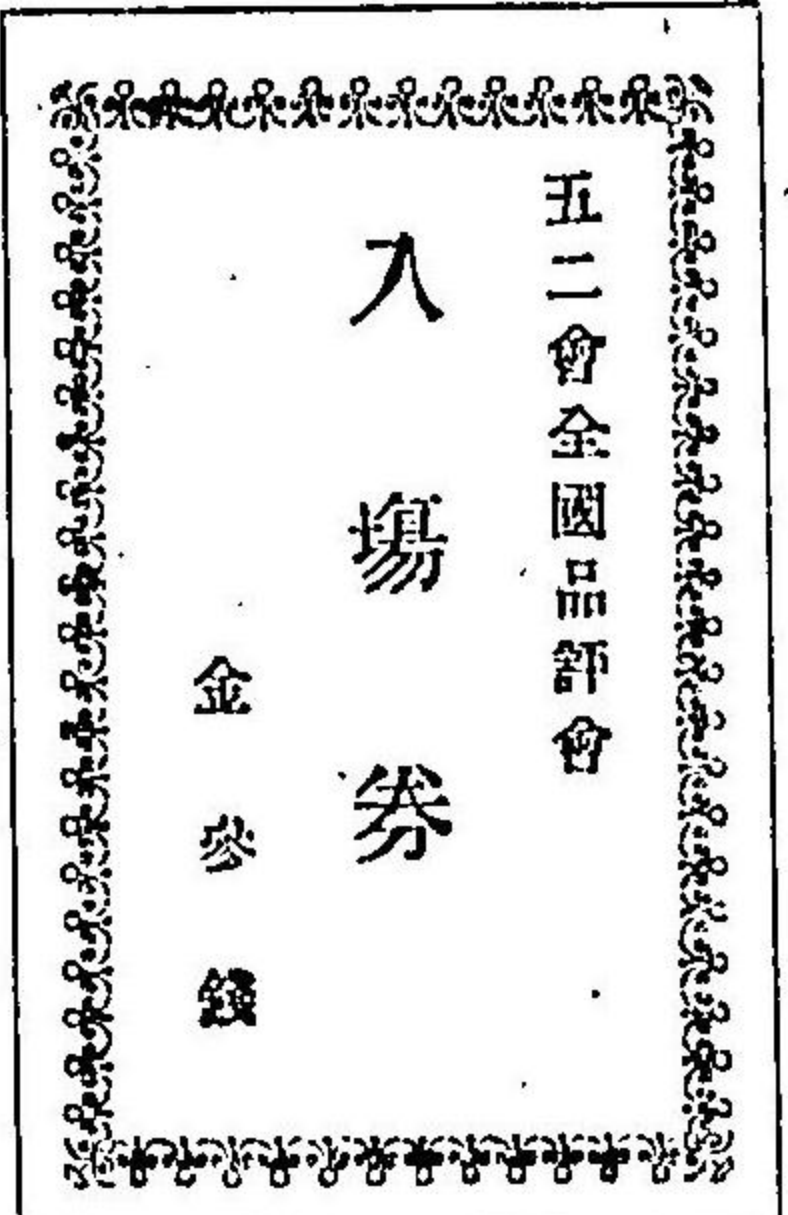
三宅金次郎ハ割烹店營業者ニシテ京都雜貨部事務所ノ紹介ニ係リ園藝組合ノ建物中其一部ヲ借受ケ開店シタルモノナリ本會職員及各地委員等ノ辨當ヲ要スル者爲ニ便利ヲ得タリ

此外一二ノ休憩所及裏門内市參事會管理ノ下ニ飲食店一アリシノミ

以上ノ如ク構内營業者ノ小數ナルヲ以テ別ニ營業人心得ヲ規程セスト雖モ豫メ左ノ要項ヲ告示シ常ニ守衛ヲシテ之レカ取締ニ注意セシメタリ

- 第一 營業人及雇人ノ數ヲ定メ門鑑ヲ附與スル事
- 第二 構内ニ於テ宿泊スルヲ禁シ及内外ノ掃除ヲ怠ルヘカラザル事
- 第三 火氣取締ヲ嚴ニスル事
- 第四 營業人ハ其雇人ノ所爲ニ付テハ總テ責任ヲ負フヘキ事
- 第五 參觀人ニ對シ濫リニ休憩ヲ勸メ來客ノ需メナキ飲食物ヲ供スル等ノ不都合アル可カラサル事
- 第六 飲食物及席料等ノ價格ヲ定メ之ヲ見易キ場所ニ掲ケ置クヘキ事
- 第七 營業上ニ要スル器具物品ヲ構外ニ持チ出サントスルモ其品名ヲ記シタル搬出証ヲ作り會計部職員ノ檢印ヲ受ケ守衛ニ差出シ搬出スヘキ事
- 第八 營業賣上高百分ノ三ヲ毎日會計部ヘ納付スヘキ事

(普通入場券維形)



一 此券ハ入場ノ際門衛ニ渡  
スベシ  
一 此券ハ一票一人ニ限ル  
一 入場中ハ觀覽人心得ヲ遵  
守スベシ

(職員徽章維形四種)徑五分



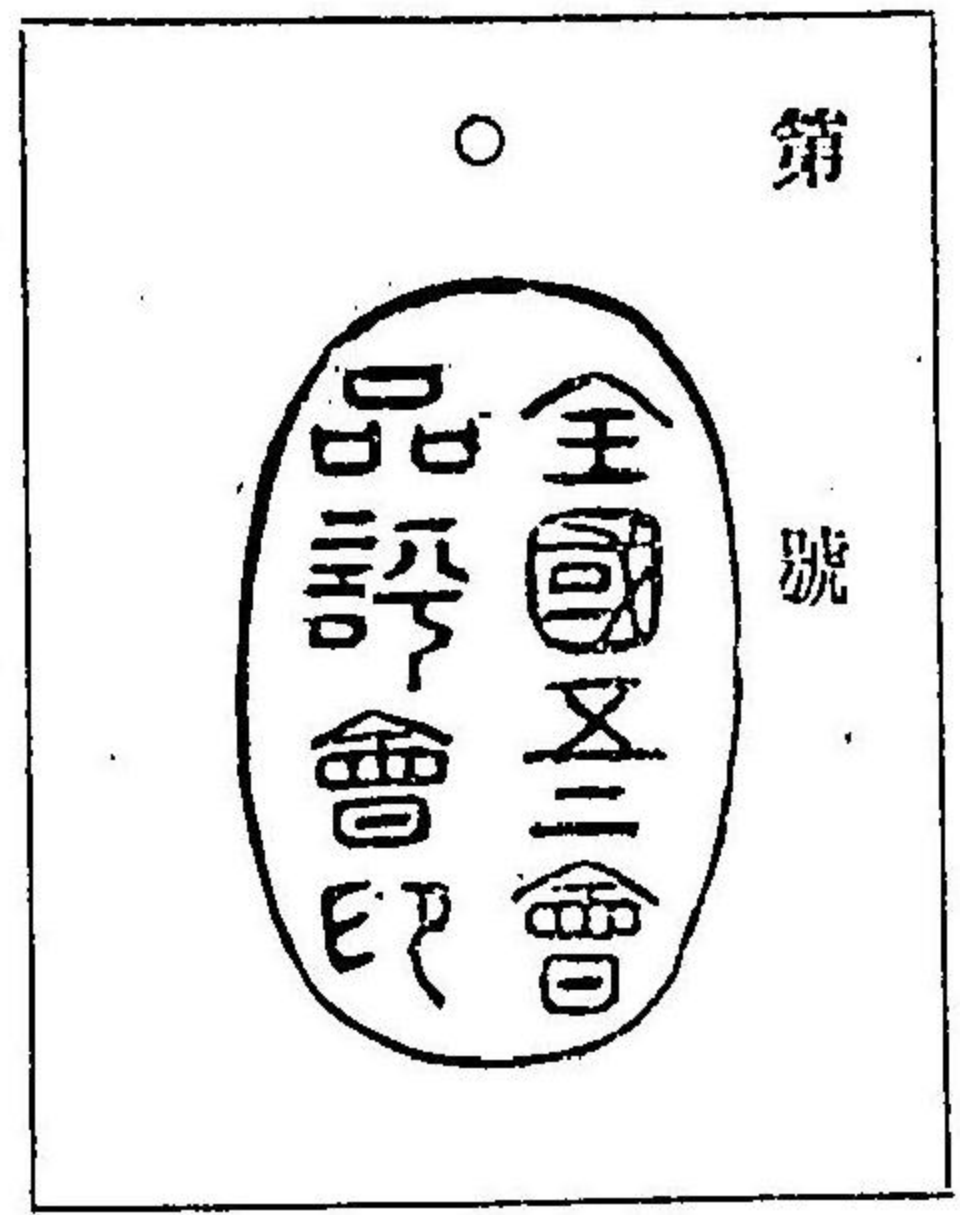
○主務委員 薄桃色  
金地七寶

○審査部 本紫色  
金地七寶

○事務員 緑地七寶  
銀地七寶

○出品監理委員 眞鍮地色  
七子地

(門鑑維形)木札



住所  
姓  
名

### ○出品

出品ノ多數ヲ促スハ開會第一ノ要義ニシテ經費ヲ省キ煩擾ヲ避クルハ其成效ヲ全ウスル所  
以ナリ本會ハ會員自治共同ノ事業ニ係リ且ツ出品ニ關スル注意ハ當初會頭ノ通告懸示スル  
所ナルヲ以テ其規則手續ノ如キハ務メテ繁雜ヲ去リ細故ヲ煩非ス概テ簡便ニシテ從ヒ易カ  
ラシメント期セリ故ニ本會規則ハ僅々二十條ノ普通の文字ヲ臚列シタルニ過キス之ニ附  
帶セル出品人心得ノ如キモ實ハ問敷申込手續ヲ示セルモノニシテ一モ出品ニ關スル制限ヲ  
設ケタルモノアラス又從來ノ博覽會ニ在リテハ豫メ出品部類目錄ヲ設ケ之レカ準據ヲ規定  
シタルモ本會ニハ素ヨリ種部アリ科目アリ以テ各其收属ヲ明カニシ區分自ラ整然タルモノ  
アリ規模大ナリト雖ニ其事則チ煩ナラス故ニ敢テ部類目錄ヲ規定スルノ必要ヲ見ス唯審査  
部ニ於テ特ニ審査ノ便宜ヲ圖リ實地陳列ノ狀態ヲ觀察シテ四部六十餘類ニ區分シ以テ審査  
委員ノ分擔ヲ定メタリ此外告知ヲ以テ出品目錄及出品賣上報告差出方ヲ定メタルモ亦極メ  
テ簡捷ニ從フ

### 五二會全國品評會規則

第一條 本會ハ五二會京都本部主動者トナリ産業ノ發達ヲ圖ランカ爲メ全國五二會員各業

者ノ出品ヲ蒐集シテ汎ク世人ノ觀覽ニ供シ特ニ現場販賣ノ便ヲ開キ深ク實用ノ適否ト需用者ノ嗜好如何トヲ商量シ將來ノ進運ヲ企圖スルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ明治廿九年四月一日ヨリ同年五月三十日マテ六十日間京都市元第四回内國勸業博覽會場ニ開設ス

第三條 本會ノ出品ハ五二會ノ商工業ニ係ル物産ニ限ルモノトス  
但左ニ掲クル物品ハ出品スルヲ得ス

- 一 内外博覽會若クハ共進會等ニ出品シ審査ヲ受ケタルモノ
- 一 發火及爆裂性ノモノ他ノ出品ニ損害ヲ與フルノ虞アルモノ衛生ニ害アルモノ及ヒ汚穢醜體ノモノ

第四條 第三條ノ規程ニ抵觸セサル物品ト雖モ其性質種類ニ依リ其出品ヲ斷ルヲアルヘシ  
第五條 出品陳列ノ面積ハ豫メ申込間數ノ割合ニ應シ本會委員ニ於テ分配スルモノトス

第六條 本會ノ出品者ハ豫メ陳列場所間數ノ申込ヲナシ本會ノ認諾ヲ經ルニアラサレハ出品スルヲ得ス

第七條 左ニ掲クル費用ハ出品人ノ自辨タルヘシ  
一 出品ノ荷解荷造及運搬ノ費用

- 一 飾臺飾箱其他ノ費用
- 一 出品ノ監護并ニ賣買ニ係ル費用

第八條 總テ出品ハ出品者各自ノ取扱ニ任スト雖モ便宜ニヨリ一地方又ハ數人聯合シテ其取扱ヲ爲スモ妨ケナシ  
但本條ノ場合ニ於テハ豫メ其代務者ヲ届出ツヘシ

第九條 本會ハ陳列出品物ニ對スル相當ノ保護ヲ爲スト雖モ萬一天災火災盜難其他ノ事故ニヨリ破損又ハ紛失スルモ本會ハ其責ニ任セス

第十條 出品者各自ノ陳列及ヒ裝飾ハ開會一日前ニ終ルヘシ  
第十一條 陳列品價格ハ一旦揭示シタル後ハ變更スルヲ得ス  
但非常ノ時價變動アルモ本會ノ認諾ヲ經テ訂正スルヲ得

第十二條 來觀時間ハ每日午前八時ヨリ午後五時マテトス  
但都合ニヨリ之ヲ伸縮シ又ハ來觀ヲ停止スルヲアルヘシ

第十三條 來觀者ハ入場券ヲ携フヘシ  
但十歳未満ハ之ヲ要セス

第十四條 入場券ハ左ノ二種トス

- 一通常券 一枚代價 金參錢
- 一特別券 金壹圓

但特別券ハ特遇ヲ受ケ會期中一葉ヲ以テ通スルモノトス

- 第十五條 瘋癲又ハ醉狂者ト認ムルホハ入場ヲ禁シ又ハ退場セシムヘシ
- 第十六條 本會ノ出品者ハ審査會ノ決議ヲ以テ左ニ掲クル褒賞ヲ受クヘシ
  - 一進歩賞 金牌 銀牌 銅牌
  - 一有功賞 金牌 銀牌 銅牌
  - 一協贊賞 金牌 銀牌 銅牌
  - 一褒狀 一等 二等

- 第十七條 褒賞授與式ハ二十九年五月二十日ヲ以テ執行ス
  - 第十八條 本會ノ出品者ハ出品ノ再審査ヲ請ヒ授與ノ褒賞ヲ拒ミ又ハ異議ノ申立ヲ爲スヘシ
  - 第十九條 出品ニハ左式ノ附札ヲ添付シ購求セントスル者ニハ現金引替ニ交付スルヲ得ヘシ
- 但此附札ハ本會ヨリ交付ス

號		第
出品者	賣價	品名

第二十條 本會ノ出品者ハ出品賣上高百分ノ三(壹圓ニ付參錢)ヲ納付シ本會ノ費用ヲ補フモノトス

〔備考〕

本則第十九條出品附札ハ大小二様ヲ製シ物品ノ大小ニ從テ之ヲ用井シメ而シテ出品物ニハ各個ニ一葉ツ、ヲ添付スルノ定メナレモ其種類ニ由リ個々ニ添付シ難キモノハ特ニ一葉ヲ以テ第何號ヨリ第何號ニ至ルト畧記セシメタリ

出品人心得

第一條 本會ノ出品者ハ申込期日內ニ申込書ニ其申込間數ニ應シ問口一間毎ニ申込金五拾錢ヲ添ヘ本會ヘ差出スヘシ

出品 出品人心得

但數人聯合シテ一間又ハ數間ノ申込ヲ爲スモ妨ケナシ  
此場合ニ於テハ豫メ一人ノ代表者ヲ定メ届ケ置クヘシ

第二條 本會ノ出品者ハ陳列場所間口一間奥行半間毎ニ金壹圓五拾錢ヲ本會費用トシテ支  
出スヘシ

第三條 出金支出現限ハ左ノ通り之ヲ定ム

第一回 金 五拾錢 申込ノ節

第二回 金 壹圓 廿九年四月五日

但本條ノ出金ハ申込ノ節一時其金額ヲ差出スモ隨意タルヘシ

第四條 出品申込期限ハ廿九年三月十五日トス

第五條 本會ノ出品者ハ申込期限後五日以内ニ於テ其申込ノ順序及間數ニ應シ其間數ノ配  
分認諾書ヲ受取ルモノトス

但中込間數ノ配分間數ニ超過スルトハ其超過間數ニ對スル申込金ノ返戻ヲ受クルモノ  
トス

第六條 本會ノ出品申込者ハ事故ニヨリ出品セサルトハ五二會員中ニ於テ其場所ヲ繼續ス  
ルヲ得ヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ本會ノ認諾ヲ經ルヲ要ス

第七條 本會ノ出品者ハ本會費用支出期日ヨリ五日以上其出金ヲ爲サ、ルトハ本會ハ出品  
取消者ト見做シ其出品ノ認諾ハ消滅スヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ既納ノ出金ハ還付ヲ受クルヲ得ス

(申込書雛形)

申込書
私儀五二會全國品評會ノ諸規則ヲ承諾 シ出陳間口何間申込金何圓相添ヘ申込 候間御認諾相成度候也
年月日 住所 何 某
五二會全國品評會 御申

(認諾書雛形)

認諾書
五二會全國品評會規則ニ依リ出陳表間 口何間申込認諾候也 但第二回ノ出金ヲ爲サ、ルトハ本會 認諾ノ功ヲ失フヘシ
年月日 何 某 廠
五二會全國品評會

### 告知第一號

本會出品目錄差出方左ノ通り規定ス

明治廿九年三月

五二會全國品評會事務所

第一 出品目錄ハ左ノ雛形ニ依リ二通ヲ作り來三月廿五日迄ニ本會出品部ヘ差出スヘシ

出品 出品ニ關スル告知



(用紙小紙)

出品目録		価所		某部	
五三會何縣何々部					
第 號	品 名	數	量	製 造 地	價
第 一 號					
第 二 號					
第 三 號					
第 四 號					
第 五 號					
第 六 號					
第 七 號					
第 八 號					
第 九 號					
第 十 號					
第 十 一 號					
第 十 二 號					
第 十 三 號					
第 十 四 號					
第 十 五 號					
第 十 六 號					
第 十 七 號					
第 十 八 號					
第 十 九 號					
第 二 十 號					

第二 出品部ニ於テ前項ノ目録ヲ受取リタルハ本會規則第十九條規定ノ出品附札用紙ヲ交付スルモノトス

第三 出品物中共解脫附記ヲ必要トスルモノハ前項目録ノ紙尾ニ適宜之ヲ記載スヘシ

第四 出品賣却其他ニ付追加出陳ヲ爲シタルハ其都度出品目録ヲ差出シ之ニ要スル附札用紙ヲ受取ルヘシ

但本項追加目録ノ番號記入方ハ前出品目録ニ次々追加記入スルモノトス

### 告知第二號

本會出品賣上報告差出方左ノ通り規定ス

明治廿九年三月

五三會全國品評會事務所

本會出品物ヲ賣却シタルハ左記雛形ノ賣品報告二通ヲ作り一通ヲ各自ニ保存シ一通ヲ本會規則第二十條規定ノ賦課金(賣上高<sup>百分ノ三</sup>)ヲ添へ翌日午前中ニ會計部へ納付シ領收証ヲ受取置クヘシ

但用紙ハ本會ヨリ交付ス

出 品

出品ニ關スル告知

(用紙半紙)

明治二十九年何月何日  
五二會何府何縣各報告品

第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	出品番號	品名	數量	賣價	出品人名

(備考)

出品ノ種類ニ由リテハ賣品報告ニ當リ右ニ掲クル雛形ニ據ルルハ非常ノ煩勞ヲ極ムルモアリシ  
 ナリテ是等ニ就キテハ特ニ賣品ノ似格種別數量ノ總計ノミヲ報告セシムルコトシ該歩金調査ニ就  
 キテハ撤出証合計ト本書報告トヲ照合スルコトナシタリ

### 運賃割引

出品物運賃及來京會員ノ乘車乘船賃割引ノ件ニ付三月廿一日ヲ以テ各私設鐵道及瀛船會社  
 へ左ノ照會ヲ發セリ

拜啓貴社益御隆盛奉大賀候陳者來四月一日ヨリ五月三十日迄京都市元第四回内國勸  
 業博覽會場ニ於テ開設致候五二會全國品評會ノ義ハ從來ノ博覽會共進會等ト其趣ヲ  
 異ニシ五二會本來ノ主旨即チ内外ノ販路擴張利益多收ノ途ヲ開發スルニアリテ其目  
 的タル全國百有餘ヶ所五二會本支部會員ノ出品ヲ蒐集シ汎ク世人ノ觀覽ニ供シ特ニ  
 現場販賣ノ便ヲ開キ深ク實用ノ適否ト需用者ノ嗜好如何トヲ商量シ將來ノ進運ヲ企  
 圖スルニ外ナラス候サレハ其出品点数ノ如キモ通常博覽會ニ數倍センハ勿論隨テ四  
 方來觀ノ入京者非常ノ多數ヲ占ムヘキハ言ヲ候クサル儀ト被存候就テハ此際特別ノ  
 御協議ヲ以テ全ク國家産業ノ發達ヲ庶幾セル本會ノ主旨御贊助ヲ賜リ本品評會來觀  
 ノ各地五二會員ノ乘車(乘船)賃并ニ同出品物運賃ニ對シ幾分ノ割引法御規定相成候様  
 致度此段特ニ御依頼申進候也

明治廿九年三月三十一日

五二會全國品評會主務委員長内貴甚三郎

各鐵道及瀛船會社宛

出品 運賃割引

道ヲ右御承諾引法御規定ノ上ハ本會及各地五二會本部ニ於テ一定ノ証券調製各來京者ニ携帶セシメ又出品貨物ニ於テモ一樣ノ証券調製添付セシムヘク候也

右會社名

大阪府西成郡難波村	大阪鐵道株式會社	東京市下谷區山下町	日本鐵道株式會社
奈良縣奈良町	奈良鐵道株式會社	東京市下谷區上車阪町	兩毛鐵道株式會社
三重縣度會郡小俣村	參宮鐵道株式會社	東京市日本橋區南雲町	日本郵船株式會社
三重縣四日市町	關西鐵道株式會社	大阪市北區富島町	大阪商船株式會社
神戶市兵庫濱崎通四丁目	山陽鐵道株式會社	大阪市北區富島町	關西同盟海船主團體
福岡縣門司町	九州鐵道株式會社	紀伊國伏見町	淀川海船株式會社

次テ又廿三日付ヲ以テ前田會頭ヨリ遞信大臣ヘ左ノ願書ヲ差出セリ

來四月一日ヨリ五月三十日迄京都市元第四回內國勸業博覽會場ニ於テ開會仕候五二會全國品評會ノ儀ハ從來ノ博覽會共進會等ト其趣ヲ異ニシ五二會本來ノ主旨即チ内外ノ販路擴張利益多收ノ途ヲ開發スルニアリテ其目的タル全國百有餘ヶ所五二會本支部各會員ノ出品ヲ蒐集シ汎ク世人ノ觀覽ニ供シ特ニ現場販賣ノ便ヲ開キ深ク實用ノ適否ト需用者ノ嗜好如何トヲ商量シ將來ノ進運ヲ企圖スルニ外ナラス候去レハ其出品点数ノ如キモ通常博覽會ニ數倍センハ勿論隨テ四方來觀ノ入京者非常ノ多數ヲ

占ムヘキハ言ヲ俟タサル儀ト奉存候就テハ此際特別ノ御詮議ヲ以テ全ク國家産業ノ發達ヲ庶幾セル本會ノ主旨御探納ノ上本品評會來觀ノ各地五二會員ノ爲メ開會當日ヨリ六月十日マテ官設鐵道ノ乗車賃并ニ同出品物運賃ニ對シ幾分ノ割引法特ニ御允許被下度別紙規則書等相添ヘ此段切ニ奉願候也

追テ右御允許被成下候上ハ萬事御指令ニ從フヘキハ勿論本會及各地五二會本部ニ於テ一定ノ証券調製シ各來京者ニ携帶セシメ又出品貨物ニ於テモ一樣ノ証券調製貼付可爲致候間此段併セテ副申仕候

同二十六日ニ至リ先ツ日本郵船會社々長近藤廉平氏ヨリ割引承諾ノ旨左ノ如ク回答アリ於京都四月一日ヨリ五月三十日迄開設可相成五二會全國品評會ヘ來觀ノ本會員乘船貨物割引ノ儀ニ付御照會ノ趣拜承仕候近來割引ハ可成相斷居候得共御照會ノ次第モ有之此際特別ヲ以テ或割引承諾仕候間勘合用トシテ會員ノ標準貨物ニ添付相成ヘキ標準共各百五拾葉至急御送付可被下候以上

翌二十七日關西參宮兩鐵道會社ハ謝絶ノ旨關西同盟海船團體ハ承諾ノ旨ヲ回答セラル今又類ヲ厭ハス左ニ其全文ヲ掲シ

關西鐵道株式會社

拜啓來ル四月一日ヨリ京都ニ於テ貴會全國品評會御開設ニ付貴會員當社鐵道乘車賃及出品荷

出品 運賃割引

物運賃割引ノ儀ニ付御來示ノ趣拜承仕候右ハ格別ノ御感擧ニ付可成御來意ノ通取斗致度候得共不得止都合有之乍不本意今回ハ御斷申上候間此旨不惡御了知被下度御答迄早々如斯御座候也

參宮鐵道株式會社

拜復陳者今回京都ニ於テ御會全國品評會御開設ノ趣ヲ以テ臨會御會員並ニ出品者ニ限リ弊社瀛車賃金割引候様御照會ノ趣謹承就テハ折角ノ御依頼ニ候得共現今弊社線ニ於テ種々都合ノ次第有之候ニ付割引ノ儀ハ何分取扱兼候間有不惡御承知相成度此段御回答迄得貴意候也

關西同盟瀛船主總代小幡平八郎君

拜啓奉陳稍相催申候益御清榮奉大賀候借今般大阪商船會社ハ御照會相成候運賃割引ノ件當地瀛船主ハ總テ同盟規約ノ下ニ於テ營業致居候儀ニ付茲ニ同盟船主全体ノ協議ヲ經左ニ拙者ヨリ御報告申上候  
御會御開設ノ舉タルヤ國家的利益ヲ増進スルノ御事業ナルヲ以テ同盟船主一同ハ大ニ御贊同ヲ表スル所ニ御座候就テハ聊カ其微意ヲ表センカ爲メ御來示ノ會員及出品荷物ニ對シテハ規定運賃額ヨリ各二割引ヲ以テ積載方取計可申候間右ニ御了承被下度先ハ貴翻迄早々  
追テ乗客ニ對シテハ別紙雜形ノ如キ証票御調製相煩シ度荷物ニ就テハ便宜御會ニ於テ御制定ノ上何レモ見本五拾枚許豫メ御回付置被下度候

而シテ大阪奈良九州山陽日本兩毛ノ諸會社ヨリハ未ク何等ノ回答モアラサルヲ以テ同二十  
九日復ク左ノ依頼狀ヲ發送シタリ

拜啓去二十一日附テ以テ御依頼申上置候運賃割引ノ件未タ御回報ニ接セス候ハ共其節續陳仕候通り各地ノ出品意外ノ盛況ヲ來シ愈來一日開會式舉行ノ運ヒ相並ヒ幸慶此事ニ御座候就テハ此際四方會員ノ爲メニ精々好便ヲ與ヘ成ルヘク多數ノ來會ヲ促シ本來ノ旨趣貫徹仕度ハ申ス迄モ無之恰モ風物和煦ノ好時季ニ向ヒ定テ出京心組居リ候者比々皆然ルヘシト想像仕候依テ前頭御會社割引ノ儀御迷惑ハ奉恐縮候ハ共何卒事懇御賢察ノ上至急御協定右御承諾被成下度相願ノ至ニ堪ヘス候此段重テ奉煩貴意候勿々

同日松本鐵道局長ヨリ前田會頭宛ヲ以テ割引可取計旨左ノ如ク回牒セラレタリ

本年四月一日ヨリ五月三十日迄京都市ニ開催セル五二會全國品評會ノ爲メ往復セル旅客及貨物賃金割引云々ノ儀當省大臣宛願書差出ノ處右ハ來意ニ應シ賃金割引方可致候尤モ旅客賃金割引方法ハ取締上ノ都合モ有之候ニ付最初乗車ノ驛ニ於テハ普通賃金ヲ領收シ歸路ハ京都ヨリ普通賃金ノ四割即チ往復各二割引ニ可取計候間右ニ關スル詳細ノ手續ハ當局運輸課ニ直接協議相成度此段及回答候也

鐵道局ノ聽許ヲ與ヘラレタルハ殆ント異例トシテ本會ノ深ク満足ヲ表スル所タリ憶フニ各

私設會社モ亦必ス之ニ做フヲ本會ノ微衷ヲ諒セラル、モノアラント依テ翌三十日猶未ク回答ヲ領セサル諸會社へ鐵道局來書ノ寫ヲ添ヘテ第三次ノ照會ヲナシ既ニ謝絶アリタル關西參宮兩會社へモ同シク此意ヲ致シタリ然レモ關西參宮及山陽ノ三會社ハ終ニ謝絶ニ付セラレ其他奈良鐵道會社ハ四月一月付ヲ以テ私設武割引ヲ諾セラレ京都驛ニ就キテハ一旦鐵道局ノ訓令ヲ領テ之ヲ許サレ大阪鐵道會社モ同日官線ト交渉ヲ經タル旨ヲ以テ武割引ヲ淀川瀨船會社ハ四日武割引ヲ日本鐵道會社ハ六日歸路四割引ヲ兩毛鐵道會社ハ九日同シク四割引ヲ各承諾セラレタリ而シテ三月三十日付九州鐵道會社ノ回答ハ延着シタルヲ以テ四月十日日落手シタリシニ是亦武割引ヲ低減セラレタリ本會ハ以上ノ承諾ヲ領スル毎ニ直チニ謝狀ヲ呈シ再三交渉ヲ經テ後ニ掲クル三種ノ証票(乘車券、乘車乘船券、及貨物券)ヲ調製シ勘合用トシテ鐵道局以下各會社へ其指定ノ數ヲ送付シ而シテ後各出品人及會員へ配布シタリ其之ヲ配布スルヤ左ノ通牒ヲ以テ其要求ノ數ヲ徵セリ

拜啓陳者今固宜鐵道其他各私設鐵道瀨船會社等ニ於テ本品評會出品貨物ノ運賃并ニ參觀來京會員ノ乘車乘船貨割引ノ儀左記証票雜形ノ通り規定不日實施ノ都合ニ有之候就テハ貴部ニ於テ右入用ノ証票枚數至急御申出相成度此段申進候也

明治二十九年四月

五二會全國品評會事務所

各府縣本支部長及出品監理委員宛

証票調製ニ關シ鐵道局運輸課ニ承合スル爲メニハ一ニ在東京各實業團體中央本部主事福島宜三君ヲ勞シ是ヲ以テ迅速措辦スルヲ得タリ又同君及上京中ナリシ宮崎出品課長ニ托シテ割引券證明ノ件ニ付更ニ左ノ願書ヲ鐵道局長ニ致シタルモ遂ニ聽許セラレサリシ今其全文及 同局長ノ回答ヲ左ニ掲シ

去月廿八日附テ以テ本品評會ノ爲メ往復スル旅客及貨物貨金割引ノ儀御允許ヲ蒙リ候處其旅客ノ分ハ最初乘車ノ際ニ於テ普通貨金ヲ領收セラレ歸路ハ京都ヨリ普通貨金ノ四割即チ往復各二割引ニ御取斗被成下候ニ就テハ最初乘車ノ際其各停車場ノ驛長ニ於テ證明請求可致儀ニ有之候然ル處右割引御允許以前既ニ來京滞在セル者ニ於テハ今更發車停車場ノ證明ヲ得ラレサル次第ニ候條何卒是等ノ向ニ限リ本會ノ證明ヲ以テ今後歸路乘車ノ際今回御規定ノ如ク割引御取斗相成候様特別ノ御詮議被成下度此段奉請願候也

(回答)

五二會全國品評會ノ爲メ往復スル乗客ハ當初乘車驛ニ於テ普通貨金ヲ領收シ歸路京都ヨリ普通貨金ノ四割即チ往復武割引ニ可取計儀ハ盡ニ承諾シ置候處其承諾以前既ニ京都ニ滞在セルモノニ於テモ同様ニ割引方云々本月十一日付ヲ以テ願書被差出候得共右承諾以前ニ在テハ當初乘車驛ニ於テ證明手續ノ履行ナキヲ以テ何レノ驛ヨリ乘車往復スル哉信據スヘキ儀モ無之取

扱手續上、差支有之候ニ付來意ニハ難應候間此段及回答候也

以上列舉スル如ク關西、參宮、及山陽ノ三會社ヲ除クノ外皆悉ク其割引ヲ承諾ヒラレタルモ憾ムラシクハ本會ノ幹旋其時機ニ晚クレ各會社ノ美譽ヲシテ出品發送ノ當初ニ加ヘシムル能ハス爲ニ我出品人及會員諸氏ハ蓋シ十分ノ實益ヲ得タリト云フ可カラサルモ唯今回ハ鐵道局以下カ特ニ本會ノ趣旨ヲ激贊セラレタルノ厚意ヲ謝シ以テ本會盛況ノ紀念トセハ足レリ

(官設鐵道乘車証憑)

源信省鐵道局鐵道乘車之證  
 五二會會員  
 乘車人姓名  
 一此証書ハ官設各驛及日本鐵道株式會社線各驛ニ限リ通用スルモノトス  
 一乘車人ハ此証書ヲ當初乘車スル「ステーション」ニ出シ驛長ノ證明ヲ裏面ニ受置クヘシ  
 一證明ヲ受クル爲メ發車時刻ヨリ少クモ十分前ニ其「ステーション」ニ到ルヲ要ス  
 一乘車賃金ハ此証ニ依リ歸路ノミ割引ヲ受クルカ故ニ京都市岡崎町五二會全國品評會事務所ニ於テ再ヒ本會ノ證明ヲ裏面ニ受ク京都「ステーション」ニテ切符請求ノ際其掛員ニ之ヲ渡スヘシ  
 一此證明ノ効用期限ハ明治廿九年四月一日ヨリ六月十日迄トス  
 一此証書ハ壹人壹枚ニ限ル  
 明治廿九年四月 五二會全國品評會

面 裏

當初乘車「ステーション」ノ證明  
 京都市ニ於テ本會ノ證明

面 裏

(官設鐵道及日本、阿毛鐵道會社乘車券)

源信省鐵道局日本鐵道株式會社  
 阿毛鐵道株式會社鐵道乘車之證  
 五二會會員  
 乘車人姓名  
 一此証書ハ官設各驛及日本鐵道株式會社阿毛鐵道株式會社線各驛ニ限リ通用スルモノトス  
 一乘車人ハ此証書ヲ當初乘車スル「ステーション」ニ出シ驛長ノ證明ヲ裏面ニ受置クヘシ  
 一證明ヲ受クル爲メ發車時刻ヨリ少クモ十分前ニ其「ステーション」ニ到ルヲ要ス  
 一乘車賃金ハ此証ニ依リ歸路ノミ割引ヲ受クルカ故ニ京都市岡崎町五二會全國品評會事務所ニ於テ再ヒ本會ノ證明ヲ裏面ニ受ク京都「ステーション」ニテ切符請求ノ際其掛員ニ之ヲ渡スヘシ  
 一此証書ノ効用期限ハ明治廿九年四月一日ヨリ六月十日迄トス  
 一此証書ハ壹人壹枚ニ限ル  
 明治廿九年四月 五二會全國品評會

面 裏

當初乘車「ステーション」ノ證明  
 京都市ニ於テ本會ノ證明

面 裏



各府縣會員へ交付セル証票數

○東京本部 乘車券 五百五十枚	○東京八王子支部 乘車券 四百枚	○茨城縣會員 乘車券 三十枚	○栃木縣本部 乘車券 三十枚	○栃木縣足利支部 乘車券 二十枚	○三重縣會員 乘車券 五十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣船子部 乘車券 十枚	○德島縣本部 乘車券 五十枚	○香川縣本部 乘車券 五十枚	○愛媛縣本部 乘車券 五十枚	○愛媛縣今治支部 乘車券 五十枚	○愛媛縣陶磁器部 乘車券 二十枚	○福岡縣博多支部 乘車券 十四枚	○福岡縣多支部 乘車券 五十枚	○佐賀縣會員 乘車券 二十枚	○鹿兒島縣會員 乘車券 十枚	○各地散在會員其他 乘車券 三十五枚	○小計 乘車券 七百五十枚	○總計 乘車券 九千七百三十六枚
○群馬縣會員 貨物券 四枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚
○群馬縣會員 貨物券 四枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚
○群馬縣會員 貨物券 四枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚	○群馬縣會員 貨物券 三十枚

○島根縣會員 貨物券 六十四枚	○岡山縣本部 乘車券 四枚	○廣島縣本部 乘車券 四枚	○廣島縣本部 乘車券 四枚	○廣島縣本部 乘車券 四枚	○廣島縣本部 乘車券 四枚	○廣島縣本部 乘車券 四枚	○廣島縣本部 乘車券 四枚	○廣島縣本部 乘車券 四枚	○廣島縣本部 乘車券 四枚	○廣島縣本部 乘車券 四枚	○廣島縣本部 乘車券 四枚	○廣島縣本部 乘車券 四枚	○廣島縣本部 乘車券 四枚	○廣島縣本部 乘車券 四枚	○廣島縣本部 乘車券 四枚	○廣島縣本部 乘車券 四枚	○廣島縣本部 乘車券 四枚	○廣島縣本部 乘車券 四枚	○廣島縣本部 乘車券 四枚
○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚
○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚
○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚	○和歌山縣本部 乘車券 十枚

鐵道及汽船會社ノ外他ノ運送業者ニ就キテハ遂ニ本件ノ商議交渉ヲナスノ迫ナカリシヲ遺憾トス而シテ只當地運送業林金二郎ノ左ノ願書ヲ出セルアリ

今回全國五二會品評會御開設相成候ニ就テハ該出品ニ關スル貨物運輸取扱上敏捷及

出品 運賃割引



鄭重ヲ期スルノ目的ヲ以テ拙者共其首唱ト爲リ各地五二會本部設立地ニ於テ信憑ス  
ヘキ同業者ト聯結シ五二會品評會出品物運輸取扱仕度就テハ右宜敷御承諾此際當京  
都本部運輸取扱ノ儀御下命被下度此段懇請仕候也

京都市下京區三條通東洞院東入

明治廿九年二月

丸二運送店 林 金二郎

五二會京都本部長内貴甚三郎殿

右出願者ハ第四回博覽會開會ノ際同事務局及各府縣委員ヨリ全般運輸ノ取扱ヲ命セラレ願  
ル好評ヲ得京都都物産品評會ニ於テモ亦出品貨物ノ取扱ヲ擔當シタルモノナルヲ以テ我京都  
本部長ハ直チニ本書出願ヲ認諾シ且ツ運輸取扱ノ件ハ出品主若クハ該委員ト直接協議スヘ  
キヲ命セリ依テ同人ハ此旨ヲ「産業」紙上ニ廣告シ又左ノ如ク各地五二會本支部へ通報シタ

拜啓益御隆盛奉大賀候陳者弊店儀産業第二十六號誌上ニ廣告致置候通今回五二會全  
國品評會御開設ニ付左記ノ事項取扱ノ義京都本部ニ於テ認諾ヲ得候ニ就テハ諸事鄭  
重且迅速ヲ旨トシ取扱可申候條何卒貴部ニ於テモ右御用向被仰付度此段偏ニ奉希上  
候也

一 出品物保管

一 出品物會場迄ノ運搬

一 出品物殘品荷造及運搬

一 一人夫調進

右

斯クテ開會ニ至レハ同人ハ日々會場ニ出張シテ店員ヲ指揮シ懇切其取扱ヲナシタリ

### 陳列場所間數

本會規則第六條ニ據リ豫メ陳列場所間數ノ申込ヲナシ之ニ認諾ヲ與ヘタル延間數ハ二千百  
六十四間ニシテ其申込ハ二月上旬ヨリ起リ三月初旬ニ至リテ僅ニ其大體ノ締切ヲ爲スコト  
ヲ得タリ然レモ各地ノ申込ニ就テハ本會ノ發表遷延セルニ由リ實ハ三月中旬以後ニ於テ往  
復セルモノ多ク又絶ニス獎勵勸誘ノ結果或ハ委員出張後實地ノ狀況ニ觀テ追加申込ヲ爲シ  
タルモ少カラス之ヲ要スルニ開會以後ト雖モ餘地ノ存スル限リハ引續キ其申込ヲ認諾  
シタリ而シテ其取消ヲ請求セルモノ僅ニ一名アリシノミ今左ニ府縣別陳列間數ヲ表示ス

岐 阜 縣	滋 賀 縣	山 梨 縣	靜 岡 縣	愛 知 縣	三 重 縣	枋 木 縣	茨 城 縣	群 馬 縣	新 潟 縣	兵 庫 縣	神 奈 川 縣	大 阪 府
五三	六	一	二二	一五〇	一	一七	一	二	四	三一	一	一五九
香 川 縣	德 島 縣	和 歌 山 縣	廣 島 縣	岡 山 縣	島 根 縣	富 山 縣	石 川 縣	福 井 縣	山 形 縣	福 島 縣	宮 城 縣	長 野 縣
一	二〇	二三	一	三	四	五	一〇	七	一二	三	一	一

京											東	府
第一縮緬商部	綵 緞 部	半 襟 部	綿 子 ル 部	絲 物 部	刺 繡 部	染 物 商 部	染 物 業 部	織 物 商 部	織 物 業 部	京 府	縣	間 數
六	一七	六〇	五二	二	四六	六〇	八七	一四一	八四	二五		
小計	府										都	
二十一部	嗜好品部	雜貨部	扇子團扇部	製紙々製部	漆器部	七寶部	金屬部	陶磁器部	吳服悉皆商部	綿商部	濱縮緬商部	
一五七四	六二	五二六	三三	三六	八七	八	八三	五六	三三	一七	五	

各府縣陳列場所申込間數表

愛媛縣	六	佐賀縣	三八
高知縣	二	熊本縣	一
福岡縣	三一	鹿兒島縣	二
大分縣	三	總計	二二六四

右ノ表中京都雜貨部ノ間數ヲ以テ最多トシ他府縣ニ在リテハ大阪府第一ニシテ愛知縣之ト相匹ス次ヲ岐阜縣トシ佐賀、兵庫、福岡ノ諸縣之ニ次キ東京、和歌山、靜岡、德島ノ各府縣又之ニ次シ而シテ大阪ハ本部ノ外堺支部ヲ包含シ愛知ハ本部之ヲ總括シ岐阜ハ殆ト陶磁器部之ヲ占メ佐賀ハ本部ノ外ニ數間アルヲ見ル兵庫ハ本部ヲ最トシ福岡ハ久留米、續、博多、織、筑、後、産ノ各部アリ東京ハ八王子支部其半ヲ占メ和歌山ハ綿、テ、ル、及、漆、器、ノ、二、部、ト、シ、靜、岡、ハ、漆、器、及、製、紙、ノ、二、部、ト、シ、德、島、ハ、本、部、ノ、名、ヲ、以、テ、シ、栃、木、ハ、足、利、支、部、山、形、ハ、米、澤、種、部、ノ、出、品、ニ、係、リ、其、他、ハ、概、テ、個、人、若、シ、ハ、聯、合、代、表、者、ト、シ、テ、申、込、ミ、タ、ル、モ、ノ、ナ、リ

又右表中茨城、三重、長野、宮城、福島、島根、香川、熊本ノ各縣ハ當時五二會本支部未タ成立セサルモ此等ノ申込者ハ既ニ本會ノ趣旨ヲ贊シ其志産業ニ篤キモノタルヤ言テ候タス故ニ本會ハ寧ロ其率先ノ勞ヲ喜ビ先ツ其申込ニ對シテ左ノ通牒ヲ發シ中央本部直轄會員トナシ以テ本會規則ニ悖ルノ嫌ヲ避ケシメタリ

拜啓當五二會全國品評會ノ出品ハ本規則ニモ有之候通り五二會々員ニ限レル次第ニ御座候間今回幸ニ貴下御出陳御志望ニ就テハ此際本會へ御加盟且今後追々御同志御誘導早晚錦地ニ五二會ノ一部御設立相成候様御盡力被下度希望仕候先ハ別紙諸規則相添此段申進候也

然レ此等ノ諸縣ハ單獨若クハ二三名ノ聯合ニ過キサルヲ以テ少許ノ出品ニ對シ其監理者ヲ出張セシムルハ事情ノ許サ、ル所アルカ爲メ只管本會ニ其取扱ヲ委託シテ已マサルモノアリ此種ノ出品者ニ成ルヘク便宜ヲ與フルハ本會ノ素志ナリト雖レ續々之ヲ容ル、トハ徒ラニ同様ノ希望ヲ生センコトヲ恐レタリシガ全館ノ陳列悉ク完結ヲ告グルニ及ヒ始メテ適當ノ處置ヲ施スニ至レリ今本件ニ就キ主務委員長以下各部ノ同意ヲ求メタル書記ノ稟議書ヲ左ニ掲ケテ記事ニ代フ

各府縣中五二會未成立地方ニ於ケル出品志望者ノ向ヘハ當初出品申込ノ際并ニ諸規則問合セノ都度懇々諸般ノ手續心得方等ヲ回示致シ置候へ共出張困難ノ事情ヲ以テ更ニ該手續ニ隨ハス單ニ貨物ヲ廻送シ陳列其他ノ取扱ヲ依頼シ來リ候モノ往々有之就テハ規則上少シク不都合ニハ候へ共遠隔地方ヨリ折角ノ贊同ニモ有之且ハ各個多

敷ノ物品ニモ無之候間此向ニ限り特ニ會場内へ此等ノ物品ヲ出陳スヘキ場所ヲ設ケ  
陳列其他ノ取扱方ハ總テ出品部ニ於テ直轄監理シ相當ノ取扱人ヲ撰定附屬セシメ而  
シテ之ニ要スル諸般ノ費途ハ會計部ニ於テ適當ノ割合ヲ定メ該出品者ニ通告徴收候  
様致度右稟議候也

出品監理ニ就テハ獨リ以上ノ數縣ニ止マラス往々失費ノ負擔ヲ難スルカ爲メ同縣中各其所  
信ヲ利用シ其監理ヲ他人ニ附托スルモノ或ハ我京都各種部若クハ京都取引先等へ依頼シ  
ル者アリ  
五二會成立地方ニ於ケル一個人ノ申込ニ對シテハ毎回本支部へ左ノ通牒ヲ發シ以テ其監督  
ヲ促シタリ

拜啓陳者貴地會員中直接本會へ出品ヲ申込マレタル分左記ノ通ニ有之就テハ本會規  
則及豫テ御送付申上置候前田會頭ノ通牒ニ據リ至急貴部ニ於テ御取纏メ諸事可然御  
取計相成度此段御通知申上候也

申込間數	住 所	氏 名
、、、、	、、、、	、、、、
、、、、	、、、、	、、、、
、、、、	、、、、	、、、、

右ノ如クニシテ成ルヘク其地本支部總轄ノ下ニ該委員ノ出張ヲ望ミタリト雖モ出品者本支  
部所在地ト地理相隔ツカ爲メニ往復ノ際空シク時日ヲ消費スルヲ恐レ却テ直接本會ト交渉  
スルヲ便トシ實ハ本支部ノ管掌ニ關ラサルモノ鮮シトセス又單ニ審査ヲ請フノ目的ヲ以テ  
出品ヲ爲シタルモノ一二アリ此等ハ特別陳列所ニ收メテ觀覽ニ供シタリ

### 島津家御庭燒出品

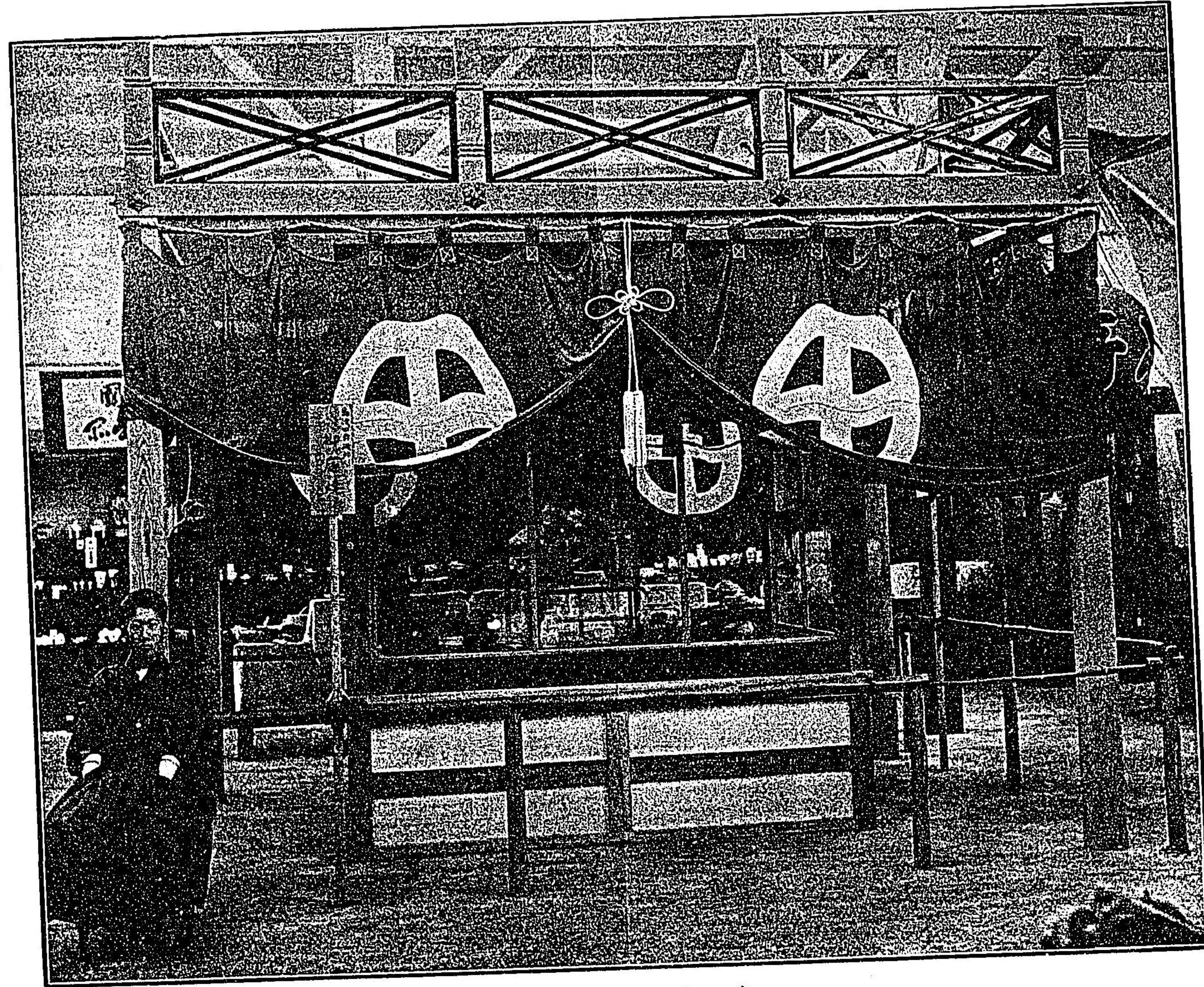
本會場ニ入ル者行々西館ヲ巡覽シテ九州各縣ノ物産ヲ認ムルモ先ツ御殿風ノ小建物アリ  
ノ紋ヲ染技キタル紫縮緬ノ幔幕ヲ繞ラシ坐ニ敷点ノ陶器ヲ排列セルヲ觀シナラン是レ今世  
ノ珍品島津家御庭仙殿燒ト稱スルモノ實ニ同公爵ノ出陳セラル、所ニ係レリ我前田會頭ハ  
公ノ舊臣タリ深ク其高志ニ感シ直チニ委員ヲ撰定シテ右陳列方ヲ囑託セラレタリ其氏名左  
ノ如シ

- 丹羽 圭介君 錦光山 宗兵衛君 松尾 寛三君 伊東 陶山君
- 丹山 陸那君 池田 清助君 雨森 菊太郎君 中安信三郎君
- 並河 晴之君 高田 新助君 林 新助君 福島 宜三君
- 梅川 徳三郎君 齋藤 宇兵衛君 西川 太次郎君 紹美 榮祐君

委員ハ乃チ商議討究シテ茲ニ良工ヲ督シ日ナラス高古穩雅ノ陣列所ヲ營築シ適當ノ看守人

ヲ擧ケテ勤務ヲ命セリ御庭燒ニ就テハ産業記者カ錄セル「前田正名君舊君ノ高志ニ感泣ス」ト  
題スル一文アリ左ニ之ヲ轉載シテ其由來ヲ知ラシム

氣品高格卓絶非凡世界ニ比類ナキ美術ノ上乘トシテ其名聲疾ク已ニ宇内ニ熾輝シ殆ント日本帝國ヲ代表シテ其國光ヲ海外ニ顯揚シタルモノハ實ニ薩摩燒ト稱セル陶器タルコト海外交通ノ歴史ヲ詳ニスルモノ、熟知セル所即チ日本國ノ國威ヲ事物ニ由テ海外ニ紹介セルハ此陶器ナリト斷言スルモ毫モ過言ニ非サルハ事實ノ許ス所ナリ嗚呼是豈ニ偶然ナリトセンヤ  
古來有力ナル一大諸侯トシテ隱然天下治亂ノ鍵輪ヲ握レルハ舊薩摩侯ナリ而シテ海陸武器ヲ製造シ殖産ノ業ヲ奨勵スルニ文明ノ藝術ヲ採用セルハ侯家實ニ本邦ノ先驅タリ抑薩摩燒ノ淵源ニ溯レハ侯其園中ニ窯場ヲ築キ手自ラ僅々有數ノ器ヲ製シテ軍功極メテ較著ナル者ニ或ハ茶器或ハ香具等ヲ賜ヒタルモノ是レ其業ノ創始ニ屬セリ其氣品ノ高格ナルモノ之カ爲ナリ其卓絶非凡ナルモノ亦實ニ之カ爲ナリ爾來其業民間ニ傳播シ純然タル商品トナリシヨリ以來而カモ明治初年後ニ至リテ此業モ亦他ノ産業界一般ノ波動ヲ免レス粗造濫製愈々出テ、益々拙ニ名聲日ヲ逐フテ終ニ地ヲ掃フニ至レリ而シテ嘆息措カサルモノハ其業者ニ多カラスシテ堪ロ他ノ海外諸國ノ人タルニ至リテハ亦豈悲ムヘキノ大ナルモノニアラスヤ  
島津公爵深ク之ヲ憂慮セラレ近年名工ヲ鹿兒島磯御殿ノ別業ニ召集シ先公ノ遺業ヲ恢復センカ爲メ親ラ工者ヲ督役シ研究考較十旬一日ノ如ク而シテ未タ俄ニ其好ノ品ヲ製スル能ハサリ



品 出 家 津 島

シニ公カ苦心終ニ空シカラス頃者僅々二三ノ優物ヲ得サセラル是レ實ニ昔日ノ名品ト比シテ  
毫モ相譲ラサルノミナラス其ノ氣品其精其實ニ天下ノ一品タリ公深ク自ラ之ヲ喜ハレ五二會  
全國品評會ノ開會ヲ好機トシ遠ク近侍ヲ遣ハシテ前田正名君ヲ京都ニ訪ハシメ其出品陳列ノ  
可否ヲ諮ラル君謹テ公ノ命ヲ拜シ又親シク其品ヲ肅觀シ歡天喜地泣テ曰ク舊君常ニ君國ノ事  
ヲ以テ心トセラレ或ハ國事多難ノ時或ハ海外有事ノ際朝廷ニ對シ奉リテ報國ノ忠誠ヲ抽テラ  
ル、事決シテ他ノ三百諸侯ニ後レサセラレシ事ナク露國皇太子殿下ヲ歡迎セラレタル事ノ如  
キ大津遭難ノ時ノ如キ征清戰役ノ際ノ如キ實ニ欲慮ヲ安ンシ奉ラレタルハ人ノ已ニ知ル所而  
シテ今ヤ又薩摩燒ノ名聲ヲ恢復センカ爲メ巨萬ノ資ヲ棄テ、手カラ其業務ヲ執ラセラレシハ  
國家ノ爲メ將タ島津家ノ爲メ處スヘク賀スヘキノ大ナルモノ正名君家ノ舊臣トシテ歡天喜地  
實ニ禁セサルモノナリ而シテ五二會全國品評會へ出陳ノ命ヲ賜ヒタルニ至テハ五二會ノ名譽  
上深ク公ノ高志ニ感佩セサル可カラス正名感喜ノ極只涕アルノミトテ暫クハ顔ヲ擧ケラレサ  
リシト云フ實ニ近來ノ美事ト謂フヘシ

又公ノ使命ヲ齎ラシ來京セラレタルハ侍臣谷川久饒氏ニシテ氏ハ陳列監理ノ爲メ開會ニ至  
ルマテ滞在セラレタレハ本會ハ特ニ評議委員ニ推薦シタリ

### 出品陳列區劃

出品陳列場所ノ割當ニ就テハ最初總問數三千問ト見積リ東館ヲ京都ニ西館ヲ各地ニ充ツル

ノ豫定ナリシカ準備期間ノ迫盛セルヲ以テ各地ノ申送間敷到底豫算ニ滿ツル能ハス而シテ  
 京都ノ出品畢ニ大半ヲ占メントスルノ見込確立セルニ際シ東西二館ノ陳列ヲシテ略々其体  
 面ヲ均クセシメンガ爲メ京都雜貨部ヲ西館ニ編入スルニ至リ三月七日ヲ以テ京都全体ノ申  
 込ヲ締切り織物以下各種部ノ順序ニ依リテ之レカ陳列區劃ヲ定メ特ニ各種部長ノ承諾ヲ求  
 メタリ又西館ニ於ケル雜貨部ニ就テハ各地ニ先チ便宜ヲ占ムルノ嫌アルヲ以テ故ラニ中央  
 ノ位置ヲ避ケ入口ヨリ斜ニ細長ノ方向ヲ取り外壁ニ沿フテ走ラシメタリ  
 各地ニ對スル配當ハ豫メ贊同府縣ニ就キ本會委員自ラ抽籤ヲ以テ其順序ヲ定メ申送間敷ニ  
 應シテ之ヲ割賦シ入口ヨリ進ミ以テ式場敷地ニ達セシメ三月廿日後其大休ノ區劃粗定マル  
 ニ及ヒ右全館ノ畧圖ヲ製シ之ヲ各地本支部長ニ送付報告シタリ

爾來開會後ニ至ル迄各地ノ申込接續セシテ以テ此等ハ便宜其間ニ補綴シ終ニ全ク餘地ナカ  
 ラシメンコトヲ期セリ而シテ堺支部ノ大阪府ニ於ケル八王子支部ノ東京府ニ於ケルカ如ク一  
 二特殊ノ事情ニ由ルモノヲ除クノ外同一府縣ノ出品ハ勉メテ一所ニ併陳シタレハ隨テ豫定  
 區劃ニ多少ノ變更ヲ加ヘサルヲ得ヌ又出品ノ種類ニ由リテハ陳列上ノ体裁ニ關シ隣區ト轉  
 換シ若クハ全ク移動セシムル等ノ場合ナキニアラス是レ固ヨリ本會委員ノ指定スル所ニ從  
 フヘキハ勿論ナリト雖モ成ルヘク相互協商ノ間ニ其排置ヲ定メシメタリ但一二場所ノ適否

ヲ紛議スルモノアリシモ畢竟衆目ヲ惹キ觀者ノ歩武ヲ留ムルハ裝飾其他ニ在リテ必シモ場  
 所ノ如何ニ存セス所謂上地ニ甘スルモノ收利ヲ缺キ下地ヲ擇ハサルモノ反テ販賣ノ効ヲ舉  
 ゲタルノ事實少ナカラザリシカ如シ

博覽會ニ於ケル本館ノ陳列面積ハ凡三千坪ニシテ内凡一千坪ノ小通路敷地ヲ扣除シ實ニ約  
 二千坪ヲ配當シタルモ本會ノ一間ト稱スルハ間口六尺奥行三尺ノ謂ヒナルヲ以テ之レカ延  
 間敷二千百有餘間ハ僅ニ博覽會陳列積ノ半ヲ占ムルニ過キサルカ如シト雖モ特ニ陳列ノ狀  
 況相異レルカ爲ニシテ實ハ滿館填咽百貨豐盛其光景殆ト之ト相遜ラサルノ觀アリシハ唯彼  
 ハ其場所ヲ廣クシテ通路ヲ狭クシ此ハ通路ヲ廣クシテ反テ場所ヲ狭クシタルノ差アルノ  
 是レ出品ノ性質亦相同シカラサルニ由レリ即チ一ハ展列ヲ旨トスルカ故ニ隨テ面積ニ餘裕  
 アルヲ要スト雖モ一ハ販賣ヲ主トスルカ故ニ同種ノ商品ヲ累積シ得ヘク且ツ場所料ニ制限  
 アルヲ以テ自ラ其面積ヲ節約セサルヲ得ヌ

陳列方法ニ就キ少シク細説スル所アラソニ本館ノ幅員十四間中ニ一間半ノ通路ヲ置キテ各  
 一間ノ陳列區ヲ設ケ之ヲ背隔シテ二面トナス斯ノ如クスルハ當ニ陳列區五列十面ヲ得通  
 路六行ヲ生スヘキモ外側壁ニ沿ヘル一面ハ概テ使用セサルコトニシタレハ實ハ五通路九面  
 ノ陳列區ヲ制限シタルモノ多シトス而シテ通路ノ廣キ各府縣各種部等ノ境界ニ標門榜示若



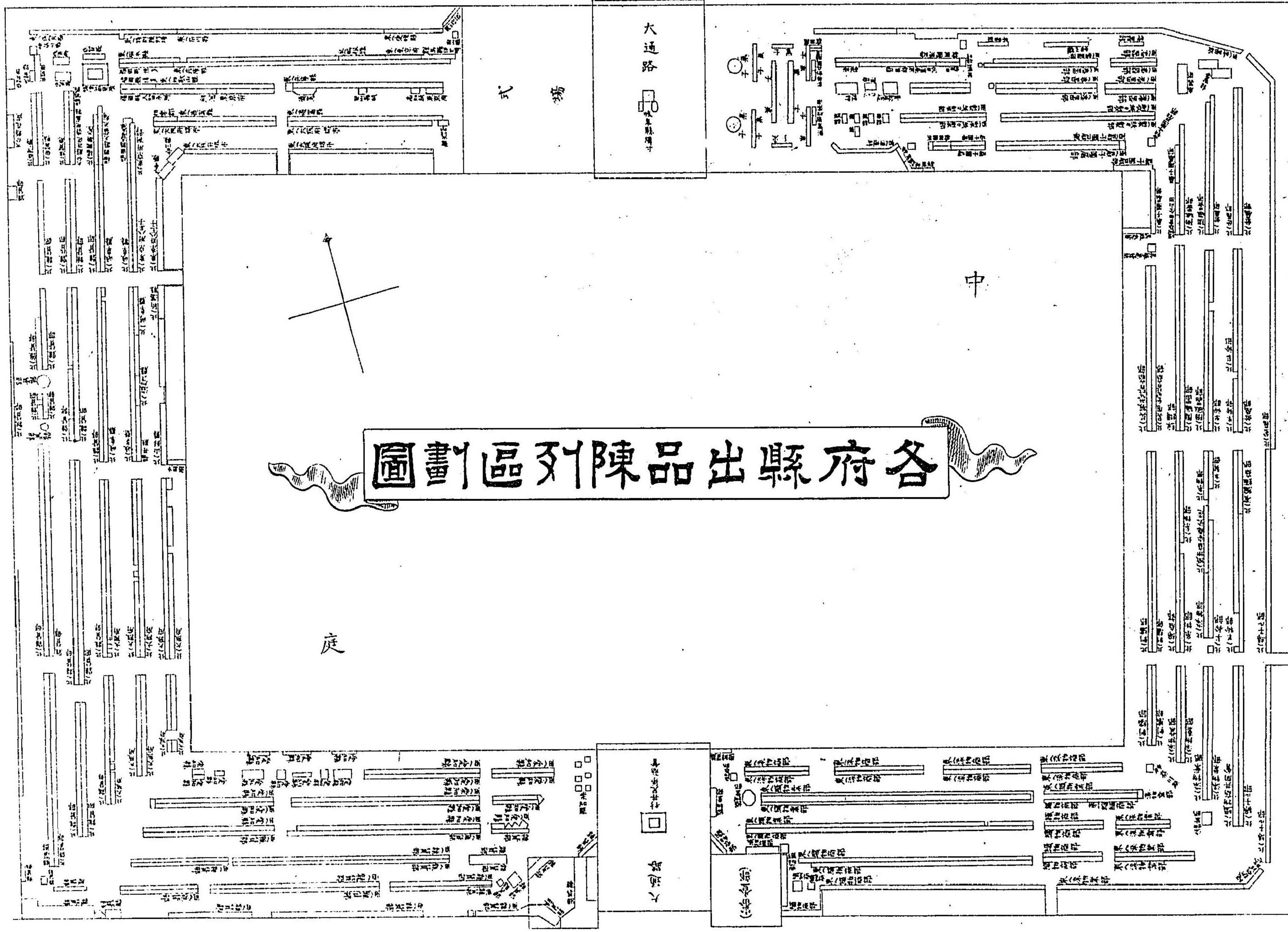
クハ扁額幔幕等ヲ以テ大裝飾ヲ施スモ光線ヲ遮蔽スルニ至ラス隣區相犯スノ患ナク殊ニ現  
場即賣ナルモ爲ニ參觀ノ雜沓ヲ減スルヲ得タリ今茲ニ陳列區劃圖ヲ掲ケテ各府縣ノ順序  
位置ヲ知ラシム

出品人員點數及賣却

本會出品人員ハ三千五百六人ニシテ其出品點數ハ四十七万七千七百七十八點此價額參拾參  
萬六千八百七圓拾六錢五厘ナリ又賣却點數ハ二十三万一千四百六十一點ニシテ之レカ金額  
ヲ拾參萬五千七百四拾八圓六拾五錢貳厘トス左ニ其府縣別表ヲ示ス

各府縣出品人員點數及賣却表

府			出品人員	出品點數	出品價額	賣却點數	賣却金額
東	京	府	七七	一二九六	五、九八五、八五〇	七四一	二、五二六、八三三
	織物業部		二四三	三、六三九	一六、四六〇、九五二	一、八六四	八、〇〇一、七三一
	織物商部		八九	一五、五二五	五一、六七九、七〇九	八、七七〇	二四、三九〇、一六〇
	染物業部		一八六	四、八二〇	六、九六三、〇八二	三、〇五三	二、五九六、八九七



各府縣出品陳列區劃圖

大通路

式場

中

度

入口

(司令室)

		都 京																			
七	寶	部	一〇	三九七	一、八九三、五四〇	二八八	五三九、四九七	金	屬	部	五九	一五、八〇一	一六、四六五、五八一	九、五二五	五、二四四、七三八						
陶	磁	器	部	五四	二、三六九	六、三七三、〇六六	六、〇五〇	一、五、〇五、五九七	吳	服	悉	皆	商	部	二九	六九五	二、九〇四、九〇〇	三、八六	一、一、六七、六〇〇		
綿	商	部	四三	一、五〇〇	五、七八、三九〇	三三三	二、七八、九八八	濱	縮	細	商	部	一三	二八一	二、一三四、一七〇	一、五〇	九〇九、四八〇	九〇九、四八〇	九〇九、四八〇		
第	一	縮	細	商	部	八	三七一	三七一	第	一	縮	細	商	部	八	三七一	三七一	三七一	三七一		
採	額	部	一七	五四五	二、四八二、九七〇	一六	五五四、六六〇	採	額	部	一七	五四五	二、四八二、九七〇	一六	五五四、六六〇	五五四、六六〇	五五四、六六〇	五五四、六六〇	五五四、六六〇		
半	襟	部	三三	一、七三五	六、二〇三、三四三	九八五四	三、五六八、五九五	半	襟	部	三三	一、七三五	六、二〇三、三四三	九八五四	三、五六八、五九五	三、五六八、五九五	三、五六八、五九五	三、五六八、五九五	三、五六八、五九五		
綿	子	ル	部	四六	九、七八二	一〇、二二〇、五九〇	五、五七九	五、四五〇、〇一八	綿	子	ル	部	四六	九、七八二	一〇、二二〇、五九〇	五、五七九	五、四五〇、〇一八	五、四五〇、〇一八	五、四五〇、〇一八	五、四五〇、〇一八	
絲	物	部	四〇	一、四三三	三、一三三、一八六	六、〇七四	二、一〇七、七〇七	絲	物	部	四〇	一、四三三	三、一三三、一八六	六、〇七四	二、一〇七、七〇七	二、一〇七、七〇七	二、一〇七、七〇七	二、一〇七、七〇七	二、一〇七、七〇七		
刺	織	部	三六	一、一八三	六、八五七、四七〇	六一九	一、六七、一七五	刺	織	部	三六	一、一八三	六、八五七、四七〇	六一九	一、六七、一七五	一、六七、一七五	一、六七、一七五	一、六七、一七五	一、六七、一七五	一、六七、一七五	
染	物	商	部	四三	二、九二八	三、九七五、〇二五	一、一八四	四、七九〇、五〇一	染	物	商	部	四三	二、九二八	三、九七五、〇二五	一、一八四	四、七九〇、五〇一	四、七九〇、五〇一	四、七九〇、五〇一	四、七九〇、五〇一	四、七九〇、五〇一

出品 出品人員點數及賣却

石川縣	福井縣	山形縣	福島縣	宮城縣	長野縣	岐阜縣	滋賀縣	山梨縣	靜岡縣	愛知縣	三重縣	栃木縣
三八	四七	八二	一三	一	一	三九	一四	一	二	二七	六	三六
二,六八六	一,三四五	五八四	一,一六	二	八	一,一四〇,一一	九二四	二二	二,〇九六	一七,二四〇	三,七四	一,三三四
二,二九五,〇一六	二,六一八,九一七	五,三〇三,九九六	四三九,二五五	二六,五〇〇	一,四〇〇	二,四〇六,〇六一	五七六,四七〇	三九,一五〇	二,二六二,四〇五	三,一四七,五九四	四,四一,三三五	二,三〇八,〇〇〇
五一七	二五九	三三五	八六	〇	四	二,七一四	一四七	二七	一,一七一	一,九七六	二〇九	六二九
二四九,三五〇	六五二,七四〇	二,六六五,四八〇	二,五五〇,三三五	〇	〇	八六七,一三三	一,五五〇,〇七〇	六六,四四〇	五,四一,一六〇	七,七五六,六〇三	三,七八,四四五	一,〇三一,八〇五

茨城縣	群馬縣	新潟縣	兵庫縣	神奈川縣	大阪府	小計	府					府			
							嗜好品部	雜貨部	扇子團扇部	製紙々製部	漆器部		出品人員		
一	六六	二二	五八	五	一八四	二一,一六九	二〇〇	三〇〇	三五	三〇	四七	七,七三六	二,一九〇,〇六五	七,四九六	四,二六,六九〇
〇七	一五九	一五二	三,六八六	二五	一七,九五七	四〇六,一五四	九六,七七三	一八〇,〇八三	一八,六七一	九,九六七	二,三三七,一五九	三,四五六,六四七	二,三三七,一五九	五,九六八	八五六,九二九
一五,二一〇	一,三七九,八〇〇	一〇,五二〇,〇五〇	一,八七三,七〇九	一七,六二四,九九三	二,四七,二五三,四〇四	三,一九六,四六六	七,二七四,四〇五	三,四五六,六四七	二,三三七,一五九	三,四五六,六四七	二,三三七,一五九	三,四五六,六四七	二,三三七,一五九	五,九六八	八五六,九二九
四五	七八	七九	二,一一九	三	七,一三五	一九七,六四三	一〇,三三七	一三,四四四	六,二八一	五,九六八	七,四九六	四,二六,六九〇	四,二六,六九〇	七,四九六	八五六,九二九
九,三六〇	五九八,七五〇	四二五,二七〇	四五六,一五五	二二,三三四	四,五七四,七七六	一〇,四一八,三二一	二,四〇四,六三二	三,一九九,三三四	一,〇八一,四二四	八五六,九二九	四,二六,六九〇	四,二六,六九〇	四,二六,六九〇	七,四九六	八五六,九二九

府 縣	出品人員	出品點數	出品價額	賣却點數	賣却金額
富山縣	三八	二二六	九三、五六〇	一六一	一六、二一〇
島根縣	二	一、五七〇	六九七、七〇五	一五七	六七、六八〇
岡山縣	四	一一二	一六三、三八五	八四	九五、七四五
廣島縣	一	三	二、五〇〇	〇	〇
和歌山縣	八三	一、三三二	一、八四四、四九五	八六六	八三、〇五〇
德島縣	三三	一、〇八六	二、二八七、三〇五	五五九	七六、八五〇
香川縣	一	四三	六、四五〇	四	五、九五〇
愛媛縣	一四	四七六	五八六、〇六一	三五五	四三、一九八
高知縣	三	三〇	一三三、六五五	一九	三七、〇〇〇
福岡縣	二七四	二、七六〇	七、七九五、五五五	二、六五八	五、〇三七、五〇六
大分縣	三	一三四	二〇九、九二〇	一一三	一三〇、九八〇
佐賀縣	七	一、六一〇	三、九五七、七六九	三六二	六三、八七〇

熊本縣	鹿兒島縣	總計
八	二	三、五〇六
二八九	四〇五	四七、七七八
四三、〇五〇	一、八四六、二三〇	三三六、八〇七、六五
〇	一六一	三三一、四六一
〇	五三、一六〇	一三五、七四八、六五二

前表ニ就キ更ニ各種ノ平均數ヲ算出スルニ一人平均出品點數ハ六十八點〇五ニシテ同賣却點數ハ二十三點一七ニ當リ又一人平均出品價額ヲ舉ケレハ九拾壹圓貳拾參錢貳厘ニシテ同賣却金額ハ實ニ貳拾五圓六拾五錢貳厘ニ當レリ次ニ一點平均出品價額ヲ需ムルニ貳圓八拾九錢六厘ニシテ同賣却金額ハ壹圓八拾壹錢ニ當ルヲ見レハ概シテ高下ノ中間ニ位スル日用品ノ最モ販却セラレタルヲ知ルヘシ今試ニ第四回博覽會ニ於ケル工業館ニ就テ以上ノ報告ヲ一覽スルニ其出品點數ハ九万八千二百四十二點ニシテ之レカ出品人員二万二千二百二人ニ分割スレハ一人平均四點四二ニ當リ又出品價額ハ六拾七萬參千八拾五圓五拾五錢參厘ナレハ之ヲ總點數ヲ以テ除スルニ一點平均出品價額六圓八拾五錢壹厘ヲ得出品人員ヲ以テ除スレハ一人平均出品價額參拾圓參拾壹錢六厘ヲ得ヘシ而シテ賣却ニ就テハ數量ニ據テ細別セルヲ以テ其點數ヲ知ルニ由ナシト雖モ賣却金額ハ拾四萬九千六百參拾八圓參拾錢六厘ニシテ一人平均六圓七拾參錢九厘ニ當レリ是ニ於テ相對照スルニ本會ノ出品點數ニ於テ著大

ノ超過ヲ見其價額ニ於テ甚シキ異同アル所以ノモノハ全ク兩會ノ性質相均シカラサルニ由  
 レリ即チ本會ハ專ラ普通商品ノ資格アルモノ、ミナ探リ且ツ現場即賣ノ故チ以テ隨意ニ追  
 加出陳ヲ得セシメタルヲ以テ其人員ニ於テハ遙ニ博覽會ニ及ハスト雖其賣却ニ於テハ點  
 數金額並ニ之ニ過クルト此ノ如シ尙ホ各府縣別平均表ヲ掲ケテ參照ニ供ス

各府縣出品點數及賣却平均表

府	縣	對出品者一人ニ		對出品一點ニ		對出品者一人ニ		對出品一點ニ	
		數	格	數	格	額	格	額	格
東京府	織物業部	一六、八三	七、七三	四、六一	九、六三	三、六八	三、九七	四、四〇	二、七六
	織物業部	一四、九三	六、七四	四、五三	七、六一	三、七五	二、七四	四、四〇	二、七六
	織物業部	一七、四三	五、〇、六七	三、三二	九、八、五四	二、七四	〇、四七	二、七八	〇、八五
	織物業部	二五、九一	三、七、四三	一、四、四五	一、六、四二	一、三、九六	一、三、九六	〇、八五	〇、八五
	染物業部	六、八一〇	三、〇、七、四五	四、四三	三、五、二一	一、一、四〇	一、一、四〇	四、〇、四六	二、七〇
	染物業部	三、八、八六	一、九〇、四、八五	五、七、九七	一、七、一九	四、六、四三	四、六、四三	二、七〇	二、七〇
	刺繡部	二六、〇、八三	七、八、八〇	〇、二、七三	一、五、一、八五	五、一、六九	五、一、六九	〇、二、八一	〇、二、八一

都		府	
總子ル部	二二、二、六五	三三、一、九六	一、〇、四四
半襟部	三六、六、四一	一、九、三、八二	〇、五、一九
綵纈部	三三、〇、〇六	一、四、六、〇五	四、五、五六
第一縮緬商部	四、六、四	一、六、六、八一〇	四、〇、二九
濱縮緬商部	二二、三、三	一、六、四、一、六七	七、五、九五
綿商部	三七、一、四	一、三、七、七〇	〇、三、七一
吳服悉皆商部	二二、三、九七	一、〇、〇、一、六九	四、一、八〇
陶磁器部	三三、七、三〇	一、一、八、〇〇	〇、五、一九
金屬部	二六、七、八一	二、七、九、〇、七八	一、四、三
七寶部	三九、七、〇	一、八、九、三、三四	四、七、七〇
漆器部	一六、四、三、八	二、五、九、三、六三	一、五、七、六
製紙々製部	三三、二、二五	七、七、九、〇、五	〇、三、三五
扇子團扇部	五三、三、四六	九、八、七、六、二	〇、一、八、五

出品 出品人員點數及賣却

靜岡縣	九二,三三	九二,一九五	一〇,八八	五〇,九一	二二,五七三	〇,四六三
山梨縣	二二,〇〇〇	三九,二五〇	一,六九四	七,一〇〇	六六,四五〇	〇,九三三
滋賀縣	六六,〇〇〇	四一,一七六	〇,六二四	一〇,五〇	一一,〇七七	一,〇五五
岐阜縣	三三,五六	七,四七九	〇,三三三	八,二五	一一,六三四	〇,三三三
長野縣	八,〇〇	一,五〇〇	〇,一七五	五〇〇	〇,七〇〇	〇,一七五
宮城縣	二,〇〇〇	二六,五〇〇	一三,二五〇	〇	〇	〇
福島縣	八,九二	三三,七八九	三,七八七	六,六二	一九,五四一	二,九五四
山形縣	七,一三	六四,六三	九,〇八三	四,〇九	三二,五〇六	七,九五七
福島縣	二六,四九	五五,七五二	二,一〇四	五,五二	一三,八八八	二,五二〇
石川縣	七〇,七四	六〇,三五九	〇,八五四	一三,六一	六,五六二	〇,四八二
富山縣	五,九五	二四,二七九	四,〇八三	四,二四	四,二二六	〇,九九五
島根縣	七八五,〇〇	三四八,八五三	〇,四四四	七八,五〇	三三,八四〇	〇,四三一
岡山縣	三〇,二五	四〇,八四六	一,三五〇	二二,〇〇	二二,七三七	一,一四〇

愛知縣	七五,九五	九七,五六六	一,二八五	五二,七六	二八,〇〇二	〇,六四八
三重縣	六二,三三	七,一三九	〇,一五	三四,八三	六,三〇八	〇,一八一
栃木縣	三六,七七	六四,二二	一,七四三	一七,四七	二八,六六一	一,六四〇
茨城縣	七〇,〇〇	一五,一〇〇	〇,二二七	四九,〇〇	九,三八〇	〇,一〇八
群馬縣	三,四二	二〇,九〇六	八,六七八	一,一八	九,〇七三	七,六七六
新潟縣	七,一九	五〇〇,五〇	六,九六一	三,七六	二〇,二五一	五,三八三
兵庫縣	六三,五五	三二,二八八	〇,五〇八	三六,五三	七,八六五	〇,二一六
神奈川縣	五,〇〇	三五,三九〇	七,〇七八	〇,三三	四二,四七七	七,〇七六
大阪府	九七,五九	九五,七三四	〇,九八二	三八,七八	二四,六四六	〇,六三六
平均	一六七,四三	一六七,九二八	二,四三四	九五,四三	六八,八三三	一,八〇四
府	三七,三〇	一二,九四	〇,〇三三	三九,七五	九二,四九	〇,三三三
雜貨部	四八,六五	二〇,八八〇	〇,四二九	三〇,六四	八五,六五五	〇,二七九
嗜好品部	一六七,四三	一六七,九二八	二,四三四	九五,四三	六八,八三三	一,八〇四
對スル出品點數	對スル出品點數	對スル出品點數	對スル出品點數	對スル出品點數	對スル賣却金	對スル賣却金
對スル出品價	對スル出品價	對スル出品價	對スル出品價	對スル賣却金	對スル賣却金	對スル賣却金
對スル出品價格	對スル出品價格	對スル出品價格	對スル出品價格	對スル賣却金	對スル賣却金	對スル賣却金
對スル出品點數	對スル出品點數	對スル出品點數	對スル出品點數	對スル賣却金	對スル賣却金	對スル賣却金
對スル賣却金	對スル賣却金	對スル賣却金	對スル賣却金	對スル賣却金	對スル賣却金	對スル賣却金
對スル賣却金	對スル賣却金	對スル賣却金	對スル賣却金	對スル賣却金	對スル賣却金	對スル賣却金

府	廣島縣	和歌山縣	德島縣	香川縣	愛媛縣	高知縣	福岡縣	大分縣	佐賀縣	熊本縣	鹿兒島縣	平均
出品者一人ニ 對スル出品點	300	196	329	400	341	1000	1000	446	226	362	202	680
出品者一人ニ 對スル出品價	21500	33333	69313	61450	41000	41228	28451	69973	55743	5382	93115	91331
出品一點ニ 對スル價格	7166	1311	2106	1429	1199	4133	1100	1567	2458	0149	4559	2896
出品者一人ニ 對スル出品點	0	1047	1694	400	2536	633	970	3766	510	0	8050	2317
出品者一人ニ 對スル賣却金	0	9904	23288	5950	30913	13333	18385	43660	8928	0	265560	25653
出品一點ニ 對スル價格	0	9499	1375	1488	1110	1947	1895	1160	1751	0	3299	1810

會社組合等ノ出品

本會贊同ノ各府縣本支部中ニハ多キハ二三百名ヲ超エ少キハ數名ノ出品者ヲ包括スルノ外更ニ廣大ナル會員ノ出品者ヲ含蓄スルモノアリ而シテ其大會員中ニハ又更ニ幾多ノ小會員ヲ網羅セルモノナレハ凡ソ品評共進博覽等ノ諸會ニ於テハ此種ノ大出品者ノ多數ヲ致スニ隨ヒ其効亦益大ナルヲ期スヘシ大出品者トハ他ナシ諸會社若クハ組合ノ如キ公共團體ヲ謂フナリ今之ヲ左ニ摘出シテ參考ニ資ス

- 京 都 府
- 綴綿其他 川島織物合資會社
  - 綴子女帶地 錦 立 組
  - 風通紋御召 西陣御召織物合資會社
  - 緇子襟地 共 榮 組
  - 絹綿緇子 京都織物株式會社
  - 風通御召 京 羽 商 會
  - 綿結城織其他 合資會社藤原商社
  - 紡績白木綿 城 自 合 資 會 社
  - 紋子ル 合資西陣紋子ル會社
- 
- 紡績綿絲
- 撫 絲 京都紡績株式會社
  - 蠟 燭 京都撫絲株式會社
  - 磁 器 京都陶器株式會社
  - 紙 類 田 中 合 名 會 社
  - 洋 傘 洋物雜貨商組合
  - 時 計 京都時計製造株式會社
  - 烟 草 合名會社村井兄弟商會
- 大 阪 府
- 水綿織 伊豫水綿株式會社大阪支店



綿子ル其他  
生絲  
莫大小、シャツ類  
紙  
襖紙  
麥藁帽子  
全  
時計  
衡器  
清酒  
全  
全  
全  
旭ビール  
○兵庫縣  
天竺木綿其他  
陶磁器

天滿織物株式會社  
堺製絲株式會社  
大阪莫大小毛巾株式會社  
合名會社門田商店  
大阪石版合資會社  
堺起業合資會社  
堺製産合資會社  
大阪時計製造株式會社  
大阪衡器合資會社  
島居合名會社  
堺酒造株式會社  
山縣酒造合名會社  
堺酒造釀業組試驗所  
大阪麥酒株式會社  
姫路織物株式會社  
淡陶株式會社

清酒  
全  
礦石  
○愛知縣  
旭織其他  
精好織其他  
平織其他  
九重織其他  
佐々耕  
七寶  
陶磁器  
漆器  
時計  
清酒  
全  
全  
○静岡縣

日本釀酒株式會社  
今津同志株式會社  
市ノ川礦山株式會社  
合資會社愛知物産組  
名古屋製織合資會社  
愛知織物合資會社  
尾張織物合資會社  
佐々耕株式會社  
名古屋七寶研究会  
合資會社陶盛組  
五二會漆器部聯合會  
名古屋時計製造株式會社  
陸井合資會社  
北倉合資會社  
西倉合資會社

紙  
○岐阜縣  
輕便燐寸  
磁器  
全  
磁器  
○福島縣  
磁器  
○山形縣  
絲織  
全  
風通織  
○福井縣  
羽二重其他  
○石川縣  
漆器  
紙  
團扇  
出品

製紙改良組  
岐阜輕便燐寸株式會社  
多治見貿易合資會社  
下石工業合資會社  
磁器業組合  
精織組  
米澤絹同業組合  
常盤組  
小濱製絲株式會社  
輪島漆器製造小西會社  
五二會金澤製紙部  
金澤團扇合資會社  
會社組合等ノ出品

○富山縣  
綾織、羽二重其他  
○德島縣  
阿波織  
小倉織其他  
紙  
○愛媛縣  
瓦斯織其他  
綿フランソール  
今出耕  
○高知縣  
紙  
○福岡縣  
久留米耕  
花筵  
○大分縣  
花筵

富山製織株式會社  
德島合資興機會社  
德島織物合資會社  
德島合資會社  
宇和島反物株式會社  
木綿織物株式會社  
今出耕株式會社  
製紙改良組  
久留米耕同業組合  
筑後産商同業組合  
豊後花筵株式會社

西肥織物同業組合  
香蘭合名會社

全  
磁器

西肥織物株式會社

佐賀縣

哇稿織

### 飾箱飾臺

陳列用具ノ主ナルモノヲ飾箱及飾臺トス飾箱ハ舊博覽會ノ遺物ニ係リ今帝國博物館ニ保存  
スルモノ五百個ヲ借用シ飾臺モ亦博覽會ノ拂下ニ係リ所有スルモノアリシヲ以テ二千五百  
餘個ヲ借入レ幸ニ急需用ニ應スルヲ得タリ而シテ出品ノ種類十ノ八九ハ飾箱ヲ要シ五百個  
ノ數ハ到底普及及ボテ難キヲ以テ成ルベク京都各種部ハ一定新調シ以上ノ個數ハ專ラ他府  
縣ヲ限リテ之ヲ貸與スルコトシ依テ各府縣本支部等へ左ノ如ク通牒ヲナシタリ

拜啓陳者本會出品陳列ニ要スル飾箱ノ義ハ專ラ京都以外各地出品者ノ利便ニ供スル  
ノ目的ヲ以テ各種取雜ヒ凡ソ五百個又飾臺ハ一般需用ノ爲メ凡二千五百個相備置候  
ニ就テハ別紙規則ニ據リ至急御所望ノ個數御申込相成度此段及御通知候也

\* \* \* \* \*

### 飾箱飾臺貸與規則

(一) 本會出品者ニシテ飾箱飾臺ノ貸與ヲ受ケントスルモノハ其個數ニ應シタル借用料ヲ

添へ本會事務所へ申込ムヘシ

(二) 前項借用ノ申込期限ハ來三月廿日限リトス  
但其期限内ト雖ヒ本會準備ノ數ニ滿ツルトハ之ヲ謝絶ス此場合ニ於テハ直チニ右  
謝絶ノ旨ヲ出京委員へ通告シ且ツ其借用料ヲ同委員ニ返付ス

四方硝子箱 (四三)	一個ニ付	金貳圓
三方硝子箱 (三六)	全	金參圓五拾錢
一方硝子箱 (全上)	全	金貳圓五拾錢
祝付飾箱 (全上)	全	金貳圓五拾錢
飾臺 (長六尺巾三尺)	全	金貳拾錢

然レハ現場即賣ノ爲ニハ普通賣壓ノ裝置ヲ以テ便トスルモノ少カラス又出陳上ノ必要ニ由  
リテハ各地委員中往々適宜ノ飾箱ヲ新調シタルモノアリテ結局剩餘ヲ見ルニ至レリ

出品目録

例言

一本目録ハ審査分類ノ順序ニ據リ府縣別ヲ以テ之ヲ編次ス

一品名ハ出品人ノ差出セル出品目録ニ據ル故ニ同物異名ナルモノ若クハ實際妥當ナラザルモノアルベシ且簡單ヲ主トスル爲メ專ラ省略ニ從フ

一 點數ハ附札一號ヲ以テ一點トナシ價額ハ其出品總賣價ナリ

一 出品人ノ住所ハ郡市町村名ヲ掲ケ東京、京都、大阪ノ三市ハ市名ヲ省キ又其全ク同一ナルモノハ單ニ略シテ全ノ一字ニ換フ

一本目録ハ第一回ノ出品ヲ始メトシ追加訂正取消等ノ整理ヲ經、開會中ヲ通シテ完結シタルモノニ係レリ

東京府

部類	品名	點數	價額	住所	氏名
第一類	新製織其他	五	五、〇〇〇全	南多摩郡八王子町	串田慶次郎
同	新製織	一	九、〇〇〇全		宮崎新太郎
同	新製織	一	七、〇〇〇全		宮崎忠作
同	岸黄綿其他	五	五、〇〇〇全		長谷川安藏
同	岸黄綿其他	三	三、〇〇〇全		芹澤謙太郎
同	絲織平	六	六、〇〇〇全		相澤甚太郎
同	節絲織	一	四、〇〇〇全		福井彌三郎
同	全	三	一、九、〇〇〇全		武田勘吉
同	全	三	一、五、〇〇〇全		山崎啓
同	新製織	三	三、〇〇〇全		宮崎權次郎
同	節絲織	三	二、〇〇〇全		岡本和十郎
同	全	一	六、〇〇〇全		田中利作
同	新製織	三	三、〇〇〇全		林清藏
同	節絲織	四	四、〇〇〇全		平保太郎
同	風通織	二	一、五、〇〇〇全		神尾清助
同	白絹	三	三、〇〇〇全		大野怡
同	節絲織其他	三	三、〇〇〇全		

品 出品目録 東京府

同	博多織	六	七、〇〇〇全	石場茂吉同	節名仙	六	六、〇〇〇全	藤森新太郎
同	節絲織	二	四、〇〇〇全	秋山金次郎同	新製織	三	四、〇〇〇全	野嶋新次郎
同	綾絲織其他	七	七、〇〇〇全	岡部幸七同	綾絲織其他	四	六、〇〇〇全	飯田又三郎
同	綾絲織	五	五、〇〇〇全	金子喜代太郎同	綾絲織	四	四、〇〇〇全	小川時太郎
同	諸絲織其他	四	四、〇〇〇全	橋本五郎右衛門同	諸絲織其他	二	二、〇〇〇全	橋本谷五郎
同	全	三	三、〇〇〇全	橋本寛吉同	諸絲織	三	三、〇〇〇全	橋本源之助
同	全	二	二、〇〇〇全	保阪藤太郎同	全	三	三、〇〇〇全	橋本林之助
同	諸絲織其他	四	四、〇〇〇全	深須啓吉同	全	二	二、〇〇〇全	福嶋保太郎
同	博多帶地	六	三、〇〇〇全	淺海春吉同	全	二	二、〇〇〇全	岡本元二郎
同	全	三	三、〇〇〇全	海老野儀兵衛同	綾絲織	三	三、〇〇〇全	森井新兵衛
同	全	九	九、〇〇〇全	大貫松太郎同	諸絲織	三	三、〇〇〇全	井上郷吉
同	全	一〇	一〇、〇〇〇全	水藤市五郎同	博多織	六	六、〇〇〇全	李代龍喜
同	鶴御召其他	三	一〇、〇〇〇全	西川治兵衛同	新製織	二	二、〇〇〇全	黒澤善次郎
同	絲織其他	五	一、〇〇〇全	海老野新助同	全	二	二、〇〇〇全	馬場次真吉
同	節名仙	七	四、〇〇〇全	藤尾善次郎同	博多織	二	三、〇〇〇全	星野範助
同	絲織其他	五	三、〇〇〇全	荻島信吉同	全	二	三、〇〇〇全	小川辰之助
同	本八反	五	五、〇〇〇全	福田甚太郎同	全	九	七、〇〇〇全	平音次郎
同	絲織其他	二	六、〇〇〇全	久保田惣右衛門同	博多織	三	七、〇〇〇全	中村宗三郎



























同	上繪標本	一	三六〇	上京區堀小路西番	井深英之助同	全	一	全	佐々木平吉
同	全	二	〇	全區新町二條上	岩橋 健吉同	友類	二	全	吉岡宗次郎
同	友類	三	〇	全區丸竹屋町下	富田清七同	友類	三	全	植村平三郎
同	全	四	〇	全區新町四條上	永井忠次郎同	全	四	全	服部 〇
同	友類	五	〇	全區白川橋三條下	堀川新三郎同	友類	五	全	近藤那之助
同	全	六	〇	全區西洞院丸太	坂野 徳順同	上繪標本	六	全	竹谷 平助
同	全	七	〇	全區新町二條下	福島忠次郎同	全	七	全	茶田 菊松
同	上繪標本	八	〇	全區西洞院新堀	澤池 元雄同	友類	八	全	鈴木治三郎
同	全	九	〇	全區西洞院新堀	佐々木嘉助同	友類	九	全	井上芳兵衛
同	友類	一〇	〇	全區堀川四條下	北村彦次郎同	全	一〇	全	杉山 伴次郎
同	友類	一一	〇	全區小川東川上	田畑 喜八同	友類標本	一一	全	山田 助兵衛
同	全	一二	〇	全區富小路新小	前田 又兵衛同	友類	一二	全	松本 松太郎
同	上繪標本	一三	〇	全區西洞院新小	吉田 宗七同	全	一三	全	福井 榮太郎
同	友類	一四	〇	全區車屋町御池	平塚 榮次郎同	上繪標本	一四	全	中川 他次郎
同	上繪標本	一五	〇	全區西洞院丸太町	若木 利兵衛同	友類	一五	全	北井 清次郎
同	友類	一六	〇	全區新町六角下	森 徳 樹同	全	一六	全	小野 萬次郎
同	上繪標本	一七	〇	全區新町四條下	上 原 勘七同	全	一七	全	西村 政之助
同	全	一八	〇	全區新町新堀西	木田 鐵造同	友類	一八	全	香取 義太郎

同	中形染	一	〇	全區寺町三條上	菅田庄八同	全	一	全	〇	下京區松原寺町西	下村 正兵衛
同	黒染	二	〇	全區西洞院新小	桂 榮太郎同	全	二	全	〇	上京區河川島丸西	黒田 久次郎
同	横椰子染	三	〇	全區小川上長者	北村 源助同	全	三	全	〇	下京區錦小路島丸	大橋 正之助
同	風呂敷	四	〇	全區新町四條上	小林 善助同	全	四	全	〇	全區三條數屋町東	澤田 伊兵衛
同	染手拭	五	〇	全區柳馬場佛光寺	坪田 初太郎同	全	五	全	〇	全區寺町四條上	赤 井 又七
同	染手拭	六	〇	全區三條寺町西	中島 重右衛門同	全	六	全	〇	全區四條島丸西	一井 政七
同	國旗、風呂敷	七	〇	全區萬壽寺島丸東	福井 五三郎同	全	七	全	〇	全區東洞院御池	下村 正太郎
同	中形染、其他	八	〇	全區世修河原町	若林 元三郎同	全	八	全	〇	全區新町四條下	山田 卯三郎
同	黒染	九	〇	全區西洞院御池	岡崎 安之助同	全	九	全	〇	全區新町四條上	安藤 榮造
同	全、高砂染	一〇	〇	全區柳馬場三條下	北澤 太一郎同	全	一〇	全	〇	全區東洞院御池	下村 正太郎
同	風呂敷	一一	〇	全區西洞院御池	岡崎 安之助同	全	一一	全	〇	全區新町四條上	赤 井 又七
同	全	一二	〇	全區新町三條下	田 久吉同	全	一二	全	〇	全區西洞院丸太町	山田 卯三郎
同	全	一三	〇	全區新町三條下	中井 嘉一郎同	全	一三	全	〇	全區寺町四條上	赤 井 又七
同	染手拭	一四	〇	全區新町新堀西	山田 新次郎同	全	一四	全	〇	全區寺町四條上	赤 井 又七
同	染手拭	一五	〇	全區新町新堀西	山田 新次郎同	全	一五	全	〇	全區寺町四條上	赤 井 又七
同	無地染	一六	〇	全區新町新堀西	山田 新次郎同	全	一六	全	〇	全區寺町四條上	赤 井 又七
同	中形染	一七	〇	全區新町三條上	菅田庄八同	全	一七	全	〇	全區寺町四條上	赤 井 又七



同	全	三	全區油小路四條上	野口安左衛門	同	全	全區新町錦小路下	山中彦助
同	全	三	全區三條堂町西入	西村治兵衛	同	全	全區新町錦小路	西村松太郎
同	全	三	全區不門五條上	寺島久次郎	同	全	全區新町錦小路	城米治郎兵衛
同	全	三	全區原東洞院西	宮本儀助	同	全	全區新町錦小路	中川理助
同	全	三	全區西洞院六角下	澤渡源兵衛	同	全	全區新町錦小路	山田新次郎
同	全	三	全區六角堂町東入	川島友次郎	同	全	全區新町錦小路	宇野常七
同	全	三	全區四條角丸東入	瀬川源兵衛	同	全	全區新町錦小路	今井茂七
同	全	三	全區四條角丸東上	井井源七	同	全	全區新町錦小路	宇野常七
同	全	三	全區佛光寺下	森本源七	同	全	全區新町錦小路	若林元三郎
同	全	三	全區新町佛光寺下	清水清兵衛	同	全	全區新町錦小路	若林元三郎
同	全	三	全區小川六角下	梅原治兵衛	同	全	全區新町錦小路	山田新次郎
同	全	三	全區佛光寺西	津田甚兵衛	同	全	全區新町錦小路	山田新次郎
同	全	三	全區新町錦小路下	今西多七	同	全	全區新町錦小路	山田新次郎
同	全	三	全區新町丸太	小守俊太郎	同	全	全區新町錦小路	山田新次郎
同	全	三	全區新町西洞院	小谷源六	同	全	全區新町錦小路	山田新次郎

同	全	三	全區新町錦小路下	野口安左衛門	同	全	全區新町錦小路	山中彦助
同	全	三	全區三條堂町西入	西村治兵衛	同	全	全區新町錦小路	西村松太郎
同	全	三	全區不門五條上	寺島久次郎	同	全	全區新町錦小路	城米治郎兵衛
同	全	三	全區原東洞院西	宮本儀助	同	全	全區新町錦小路	中川理助
同	全	三	全區西洞院六角下	澤渡源兵衛	同	全	全區新町錦小路	山田新次郎
同	全	三	全區六角堂町東入	川島友次郎	同	全	全區新町錦小路	宇野常七
同	全	三	全區四條角丸東入	瀬川源兵衛	同	全	全區新町錦小路	今井茂七
同	全	三	全區四條角丸東上	井井源七	同	全	全區新町錦小路	宇野常七
同	全	三	全區佛光寺下	森本源七	同	全	全區新町錦小路	若林元三郎
同	全	三	全區新町佛光寺下	清水清兵衛	同	全	全區新町錦小路	若林元三郎
同	全	三	全區小川六角下	梅原治兵衛	同	全	全區新町錦小路	山田新次郎
同	全	三	全區佛光寺西	津田甚兵衛	同	全	全區新町錦小路	山田新次郎
同	全	三	全區新町錦小路下	今西多七	同	全	全區新町錦小路	山田新次郎
同	全	三	全區新町丸太	小守俊太郎	同	全	全區新町錦小路	山田新次郎
同	全	三	全區新町西洞院	小谷源六	同	全	全區新町錦小路	山田新次郎





